

法令全書

省令

○大藏省令第一號

明治三十八年大藏省令第十八號鹽務局出張所名稱、位置及管轄區域中左ノ通改正ス

明治三十九年一月十三日

大藏大臣法學博士阪谷芳郎

長野ノ欄出張所名「夷」ヲ「相川」ニ出張所位置「兩津町」ヲ「相川町」ニ改ム
 三田尻ノ欄出張所名「岩國」ヲ「新港」ニ「船木」ヲ「小野田」ニ「深川」ヲ「菱海」ニ出張所位置「横山村」ヲ「麻里
 布村」ニ「船木村」ヲ「須恵村」ニ「深川村」ヲ「菱海村」ニ改ム
 阪出ノ欄「高松」ノ次ニ左ノ如ク加フ

林田	同縣綾歌郡林田村	同縣綾歌郡林田村松山町王冠村 仲多度郡與島村ノ内大字砂須島
----	----------	----------------------------------

撫養ノ欄出張所名「富岡」ヲ「見能林」ニ出張所位置「富岡村」ヲ「見能林村」ニ改ム

○大藏省令第二號

國債證券分合規則左ノ通相定ム

明治三十九年一月十九日

大藏大臣法學博士阪谷芳郎

國債證券分合規則

第一條 國債證券ノ所有者ハ各種證券ニ付テ規定シタル額面金額ノ種類ニ從ヒ證券ノ分割若ハ併
 合ヲ請求スルコトヲ得但シ證券ノ分割ハ其ノ最小限ヲ額面五十圓トス

明治三十九年一月 省令 大藏省第一號 第二號 國債證券分合規則

Handwritten marks: 3320/11, a triangle, and a large 'X'.

Handwritten mark: 72-85

前項ノ國債證券中國庫債券及大藏省證券ヲ除ク外其ノ分割若ハ併合ヲ請求スルコトヲ得ヘキ種類ハ別ニ之ヲ告示ス

第二條 左ニ掲クル第一號及第二號ノ國債證券ニ付テハ併合ヲ、第三號及第四號ノ國債證券ニ付テハ分割及併合ヲ請求スルコトヲ得ス

- 一 發行年記號若ハ現ニ附屬セル利札ノ枚數相等シカラサル公債證券及國庫債券
- 二 様式若ハ仕拂期日ノ相等シカラサル大藏省證券
- 三 元金償還期日ノ確定シタル公債證券及國庫債券
- 四 假證券

前項ノ外元金償還ノ爲抽籤ヲ執行スル場合ニ於テハ償還告示ノ日ヨリ當籤廣告ノ日マテ其ノ抽籤ノ範圍ニ屬スル證券ニ付テ分割及併合ヲ請求スルコトヲ得ス

第三條 國債證券ノ分割若ハ併合ヲ請求セントスル者ハ左ノ諸件ヲ詳記シタル請求書ニ證券ヲ添ヘ日本銀行本支店又ハ代理店（記名證券ナルトキハ所管取扱店）ヲ經由シテ之ヲ大藏大臣ニ提出スヘシ

- 一 原證券ノ名稱額面金額種類枚數發行年記號番號記名無記名ノ區別及附屬利札ニ於ケル利子ノ仕拂期
- 二 代證券ノ額面金額種類及枚數

第四條 前條ノ規定ニ依リ請求者ノ提出シタル國債證券カ汚染若ハ毀損ニ係リ其ノ真正ヲ鑑別シ難キモノナルトキハ之ヲ受理セス汚染若ハ毀損ノ爲共ノ要部ヲ認メ難キ附屬利札アルトキ又ハ附屬利札中利子仕拂期未到達ノ分一枚若ハ二枚以上欠缺セルトキ亦同シ

第五條 第三條ノ規定ニ依リ請求者ノ提出シタル國債證券ニ對シテハ日本銀行本支店又ハ代理店

ヨリ領收證書ヲ交付シ置キ追テ其ノ領收證書ト引換ニ代證券ヲ交付スルモノトス

第六條 紛失又ハ滅失シタル國債證券ノ代り交付ヲ請求スル者ハ併セテ第三條規定ノ手續ニ準シ其ノ證券ノ分割若ハ併合ヲ請求スルコトヲ得

第七條 無記名國債證券ト記名國債證券トヲ併合セントスル者ハ其ノ請求ト併セテ一方ノ新規登錄若ハ登錄除却ノ請求ヲ爲スコトヲ要ス

第八條 國債證券ノ分割若ハ併合ヲ請求スル者ハ請求書提出ノ際左ノ區別ニ從ヒ手数料ヲ納ムヘシ但シ第六條規定ノ場合ニ於ケル併合ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

- 一 公債證券ハ原證券一枚毎ニ金三錢代證券一枚毎ニ金二十四錢但シ第六條規定ノ場合ニ於ケル分割ニ在リテハ單ニ原證券ノ枚數ヲ超過スル代證券ノミニ就キ之ヲ計算ス
- 二 國庫債券ハ原證券一枚毎ニ金三錢代證券一枚毎ニ金十三錢但シ第六條規定ノ場合ニ於ケル分割ニ在リテハ公債證券ノ例ニ依ル
- 三 大藏省證券ハ原證券一枚毎ニ金三錢代證券一枚毎ニ金十一錢

附則
第九條 明治三十四年七月大藏省令第十三號及同三十七年七月同省令第三十三號ハ之ヲ廢止ス

〔參照〕

明治三十四年七月大藏省令第十三號ハ大藏省證券ノ分割ニ關スル件及同三十七年八月十日大藏省令第三十三號ハ國庫假債券及本債券五十圓券以下ノモノヲ百圓以上ノ本債券ト交換請求方ナリ

○大藏省令第三號

明治三十八年十一月大藏省令第五十號收入印紙ヲ以テ納ムヘキ手数料種目ヘ左ノ通追加ス

明治三十九年一月十九日

大藏大臣法學博士阪谷芳郎

六 國債證券分合手数料

○大藏省令第四號

第一條 明治三十八年^四大藏省令第二十六號第五回國庫債券發行規程第十五條ノ規定ニ依ル本債券ノ交付ハ明治三十九年一月三十一日限之ヲ廢止ス但シ同期日マテニ假債券紛失又ハ滅失ノ爲代リ交付ノ請求ヲ爲シタル者ニ對シテハ本債券ヲ交付ス

第二條 本債券ト引換ヲ爲スコトヲ得サリシ第五回國庫假債券ハ紛失、滅失及償還ニ關シテハ無記名本債券ト看做シ取扱フモノトス

第三條 本債券ト看做サレタル第五回國庫假債券ニ對シ償還元金ヲ仕拂フ場合ニハ其ノ償還當期分ノ利子ハ該債券ニ對シ月割ヲ以テ仕拂フモノトス

第四條 本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十九年一月二十二日

大藏大臣法學博士阪谷芳郎

○司法省令第一號

商業登記取扱手續中左ノ通追加ス

第二十一條ノ二 擔保附社債信託法ニ依ル社債ノ登記ハ登記用紙中變更欄ニ之ヲ爲スヘシ

第二十一條ノ三 登記官吏カ擔保附社債信託法第百十五條ノ規定ニ依リ主務官廳ヨリ登記ノ囑託ヲ受ケタルトキハ左ノ規定ニ從フヘシ

一 囑託カ信託會社ノ事業ノ停止ニ關スル場合ニ於テハ登記用紙中豫備欄ニ其登記ヲ爲スヘシ

二 囑託カ銀行事業ヲ兼ムル信託會社ノ免許ノ取消ニ關スル場合ニ於テハ目的變更ノ登記ヲ爲スヘシ

三 囑託カ信託事業ヲ專業トスル信託會社ノ免許ノ取消ニ關スル場合ニ於テハ解散ノ登記ヲ爲スヘシ

明治三十九年一月三十一日

司法大臣松田正久

○農商務省令第一號

國有林產物品賣拂委託規則左ノ通定ム

明治三十九年一月六日

農商務大臣男爵清浦奎吾

國有林產物品賣拂委託規則

第一條 國有林產物品賣拂ノ委託ヲ受ケムトスル者ハ願書ニ明治三十八年勅令第三十二號ニ定ムタル資格ヲ證明スヘキ書面及左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ添附シ農商務大臣ニ差出スヘシ

一 賣拂地方其ノ地方ニ於ケル林產物品取引ノ概況

二 委託ヲ受クヘキ林產物品ノ種類及數量

三 委託期間、其ノ期間内委託物品ノ交付ヲ受クヘキ回数及一回毎ノ種類及數量

四 賣拂ノ方法及賣拂ニ要スル費用

五 運送ノ方法及季節並運送ニ關スル費用

六 賣拂見込相場

七 希望ノ手数料

第二條 賣拂委託ノ期間ハ三箇年以内トス
 前項ノ期間ハ之ヲ更新スルコトヲ得
 第三條 賣拂委託ノ出願ニ對シ許可アリタルトキハ出願者ハ農商務大臣ノ指定セル期間内ニ契約擔任官吏ト共ニ契約ヲ締結スヘシ
 前項ノ期間内ニ契約ヲ締結セザルトキハ農商務大臣ハ許可ヲ取消スコトアルヘシ
 第四條 委託者委託物品ヲ交付セムトスルトキハ左ノ事項ヲ記載シタル委託物品交付通知書ヲ受託者ニ送付スヘシ
 一 委託物品交付ノ時期及場所
 二 委託物品ノ種類品質數量原價及記號アルトキハ其ノ記號
 三 荷造ヲ爲セントキハ其ノ荷造ノ種類箇數及記號
 第五條 委託物品ノ保管及運送ハ特別ノ契約アルモノノ外受託者ニ之ヲ委託シタルモノトス
 第六條 委託物品ノ保管及運送ニ付テハ受託者委託者ノ爲ニ之ヲ保險ニ付スヘシ但シ農商務大臣ニ於テ必要ナレト認メタル場合ハ此ノ限ニ在ラス
 第七條 受託者ハ委託物品ノ保管又ハ運送ニ付テハ倉庫營業者運送取扱營業者又ハ運送營業者ト同一ノ責任ヲ負フ其ノ之ヲ倉庫營業者運送取扱營業者又ハ運送營業者ニ託シタル場合ニ於テモ亦同シ
 第八條 受託者ハ委託物品ノ運送及到着ヲ遲滞ナク委託者ニ報告スヘシ
 第九條 受託者委託物品ノ滅失毀損又ハ運送中ニ生シタル故障ヲ知リタルトキハ遲滞ナク委託者ニ報スヘシ

第十條 受託者ハ毎月一回以上賣捌市場ニ於ケル林產物品ノ商況及受託物品賣捌ノ狀況ヲ委託者ニ報告スヘシ但シ緊急ノ必要アルトキハ臨機其ノ報告ヲ爲スヘシ
 第十一條 委託物品ノ賣捌ニ關シテハ受託者一箇月分ヲ取纏メ賣捌計算書ヲ翌月十日迄ニ委託者ニ差出スヘシ
 賣捌計算書ニハ賣捌ニ關スル認證書類及手数料ノ請求書ヲ添附スヘシ
 第十二條 委託物品賣捌代金ハ委託者ノ指定シタル方法ニ依リ之ヲ納付スヘシ
 第十三條 受託者ハ委託物品ノ取引、出納等ニ關スル事項ヲ記載シタル帳簿ヲ備フヘシ
 第十四條 委託物品交付後委託事務ノ處理ニ關スル一切ノ費用ハ受託者ノ負擔トス
 民法第六百五十條第二項、第三項及第六百五十一條ノ規定ハ本則ノ委託ニ之ヲ適用セザルモノトス
 第十五條 委託期間内ニ賣捌ヲ完了セス其ノ他委託事務ヲ終結スルニ至ラザルトキハ其ノ終結ニ至ル迄委託契約ハ尙存續スルモノトス
 第十六條 委託者ハ受託者ニ於テ其ノ義務ヲ懈リ又ハ委託者ノ不利益トナルヘキ行爲アリト認メタルトキハ其行爲ヲ停止シ又ハ委託契約ヲ解除スルコトアルヘシ
 前項ニ依リ契約ヲ解除シタル場合ニ於テハ委託者ハ受託者ヨリ賣捌未済物品ニ對スル指定價格、指定價格ナキトキハ委託者ニ於テ相當ト認メタル價格ノ半額ヲ違約金トシテ徵收スヘシ
 第十七條 前條ニ依リ委託契約ヲ解除シタル場合ニ於テ受託者ハ左ノ義務ヲ負フモノトス
 一 委託者ノ請求アリタルトキハ受託者ノ費用ヲ以テ賣捌未済物品ヲ他ノ場所ニ移送スルコト

二 委託者ニ於テ賣捌未済物品ノ返付ヲ受クル迄委託者ノ指定ニ従ヒ保管ニ要スル費用ヲ負擔シ又ハ自ラ之ヲ保管スルコト

第七條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十八條 受託者ノ代理人又ハ使用人カ故意又ハ過失ニ依リ委託物品ニ關シ委託者ニ損害ヲ加ヘタル場合ハ受託者モ亦其ノ損害賠償ノ責ニ任スヘシ

前項ノ損害賠償ニ付テハ受託者カ代理人又ハ使用人ニ關スル選任及監督ニ付相當ノ注意ヲ爲シタルトキ又ハ相當ノ注意ヲ爲スモ損害ノ生スヘカリレトキト雖受託者ハ其ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス

第十九條 委託者ハ何時ニテモ委託事務及委託物品ニ關シ報告ヲ徵シ又ハ之ヲ検査スルコトヲ得

第二十條 委託者ノ權利及義務ニ關スル事務ハ委託者ノ指定シタル官吏ヲシテ之ヲ行ハシムルコトヲ得

○農商務省令第二號

牝馬臨時貸下規程左ノ通定ム

明治三十九年一月八日

農商務大臣松岡康毅

牝馬臨時貸下規程

第一條 馬匹ノ改良及蕃殖ノ爲農商務大臣ハ地方及頭數ヲ指定シテ臨時ニ牝馬ノ貸下ヲ爲ス

第二條 前條ノ貸下ハ左ニ掲クル者ニシテ地方長官ノ選定シタル者ニ限り之ヲ爲ス

- 一 産馬組合又ハ産馬組合聯合會
- 二 産牛馬組合又ハ産牛馬組合聯合會

三 種畜場

四 縣郡縣農會郡農會

五 産馬業ニ經驗ヲ有シ身元確實ナル者

第三條 前條ニ依リ地方長官ノ選定ヲ受ケタル者ハ地方長官ヲ經由シテ第一號書式ノ願書ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ

第四條 貸下ノ許可ヲ得タル者ハ地方長官ノ指示ニ従ヒ第二號書式ノ借受書ヲ差出シテ馬匹ヲ受領スヘシ

前項馬匹ハ地方長官之ヲ指定ス但シ其ノ指定ニ對シ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第五條 借受者貸下牝馬ニ付管理人ヲ置キ又ハ之ヲ廢止シタルトキハ其ノ都度地方長官ニ報告スヘシ其ノ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

地方長官必要ト認ムルトキハ前項管理人ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第六條 借受者ハ明治三十九年ヨリ向フ五箇年間毎年一頭金四拾圓ノ貸下料ヲ共ノ年四月又ハ四月及十月ノ二回ニ納付スヘシ

前項ノ貸下料ハ地方長官ノ發スル納入告知書ニ依リ納付スヘシ

第七條 前條期間ヲ經過シタルトキハ貸下牝馬ハ借受者ノ所有ニ歸ス

第八條 借受者貸下牝馬ニ種付ヲ爲サムトスルトキハ種付前其ノ種牡馬ニ付監督種馬所長又ハ種馬牧場長ノ認可ヲ受クヘシ但シ監督種馬所長又ハ種馬牧場長ナキトキハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第九條 借受者ハ第三號書式ノ蕃殖臺帳ヲ備置キ産駒ニ關スル狀況ヲ記載スヘシ

第十七條 貸下牝馬分焼シタルトキ又ハ産駒斃死シタルトキハ其ノ都度地方長官ニ報告スヘシ

第十二條 貸下牝馬ノ産駒ハ借受者ノ所得トス

第十三條 産駒ハ明ケニ二歳ニ至ラサレハ賣却スルコトヲ得ス但シ特ニ地方長官ノ認可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十四條 貸下牝馬ニ斃死又ハ其ノ他ノ事故ヲ生シタルトキハ其ノ事由ヲ詳記シ地方長官ヲ經由シテ速ニ農商務大臣ニ報告スヘシ但シ斃死ノ場合ニ於テハ獸醫ノ検査書ヲ添付スヘシ

第十五條 貸下牝馬播種成績不良ナルトキ又ハ老衰セリト認ムルトキハ借受者ハ之ヲ返納スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ既納ノ貸下料ハ之ヲ還付セズ

第十六條 貸下牝馬ハ借受返納其ノ他ニ要スル一切ノ費用ハ借受者ノ負擔トス

第十七條 貸下牝馬ニ付テハ農商務大臣、地方長官、種馬所長及種馬牧場長之ヲ監督ス

第十八條 農商務大臣、地方長官、種馬所長又ハ種馬牧場長ハ部下ノ官吏ヲシテ隨時貸下牝馬及其ノ産駒ノ状況並第九條ノ帳簿ヲ検査セシムルコトヲ得

第十九條 借受者ハ陸軍官憲ノ要求アルトキハ何時ニテモ前項ノ検査ヲ受クヘキモノトス

第二十條 借受者ニ於テ本規程若ハ第十八條ニ基ク命令ニ違背シ又ハ検査ヲ拒ミタルトキハ貸下牝馬ノ返納ヲ命スルコトヲ得

第二十一條 借受者故意又ハ怠慢ニ依リ貸下牝馬ニ損害ヲ與ヘタルトキハ相當ノ價額ヲ賠償セシムヘシ

第一號書式 牝馬貸下願
一 牝馬 何頭
右馬匹改良繁殖ニ供シ度候間貸下相成度此段相願候也
住所 氏 名(又ハ團體代表者)印
年 月 日 農商務大臣宛
第二號書式 牝馬借受書
一 牝馬 何頭
但シ別紙明細表ノ通り
右馬匹改良繁殖ノ爲貸下相成候ニ就テハ牝馬臨時貸下規程ハ勿論左記ノ各項遵守可致萬一違背致候節ハ何時返納ヲ命セラレ候共聊存無之御指定ノ期日及場所ニ至付返納可仕借受書如此候也
住所 氏 名(又ハ團體代表者)印
年 月 日 農商務大臣宛
一 官廳ノ指揮ニ従ヒ常ニ衛生ニ注意シ飼養ニ飼養管理可致事
二 貸下牝馬ハ専ラ繁殖ノ用ニ供スヘキ事
三 農務若ハ陸軍官憲又ハ地方長官ノ要求アルトキハ何時ニテモ飼養地ヨリ約六里以内ノ御指定地ニ産駒ト共ニ自費ニテ疾病ニ罹リ又ハ負傷シタルトキハ速ニ獸醫ノ治療ヲ受クルコト

第三號書式

母馬名

種 類	年 齡	毛 色	身 高	借 受 年 月	飼 育 地	借 受 者 住 所 氏 名

產駒

事項	年次	種牡馬					種付月日	分娩月日	產駒月日	事故月日	賣却月日	備考
		年	毛	名	種	類						
第一	明治											
第二	明治											
第三	明治											
第四	明治											
第五	明治											

(備考)

- 一 一頁毎ニ母馬一頭及其ノ産駒ヲ記服ス
- 二 事故トハ斃死、撲殺等ヲ云フ
- 三 借受者ニ於テ管理人ヲ置キタルトキハ其ノ住所氏名ヲ附記スヘシ

○逕信省令第一號

明治三十九年一勅令第一號在外國航路標識在勤官吏手當給與細則左ノ通相定ム
明治三十九年一月四日 逕信大臣大浦兼武

第一條 在外國航路標識在勤官吏手當給與細則
在勤手當ハ左表ニ依リ任地著翌日ヨリ之ヲ給ス但シ在勤スヘキ地ニ於テ新ニ任命セラレ

メル者ハ命令到達ノ日ノ翌日ヨリ之ヲ給ス

轉任轉勤者ニハ出發ノ前日マテ之ヲ給ス但シ命令到達ノ日ヨリ出發前日マテニ二十五日ヲ超ユルトキハ十五日マテヲ限リ之ヲ給ス

特別ノ命令アルトキ又ハ止ムヲ得サル事故ノ爲メ逕信大臣ノ許可ヲ得テ滞留スルモノハ前項但シ書ノ期限ニ拘ハラズ其命令ノ期間又ハ許可ヲ得タル期間仍之ヲ給ス
任地ニ於テ他ノ官廳ニ轉任セシ者ニハ事務引繼濟ノ當日マテ之ヲ給ス

第二條 退官、休職ヲ命セラレ又ハ死亡シタル者ノ在勤手當ハ其當月分月割額ノ全額ヲ給ス
退官、休職ノ者事務引繼濟ノ爲メ、特ニ命ヲ承ケ翌月ニ涉リ公務ニ從事スルトキハ其翌月以降ハ日割ヲ以テ其事務調理ノ當日マテ舊ニ依リ在勤手當ヲ給ス

第三條 許可ヲ得テ歸朝スル者ノ在勤手當ハ任地出發ノ當日ヨリ任地歸著ノ當日マテ之ヲ給セス
第四條 病氣又ハ私事ノ故障ニ由リ執務セサル場合ニ於ケル在勤手當ハ高等官官等俸給令第十八條ノ例ニ準ス

第五條 在勤手當ハ年額ヲ十二分シ其月割額ヲ以テ毎月俸給支給定日ニ之ヲ給ス但シ月割額全額ヲ給スヘカラサル者ニ對シテハ日割ヲ以テ計算ス

新任轉任、轉勤、歸朝、退官、休職又ハ死亡等ノ場合ニ於テハ前項支給期日ニ拘ハラズ之ヲ給ス
第六條 在勤手當額ニ異動ヲ生スルトキハ命令到達ノ日ノ翌日ヨリ計算ス
第七條 在勤手當ノ日割計算方ハ其月ノ現日數ニ依リ錢位未滿ハ切捨トス
在勤手當給與年額表

官名	在勤手當年額
看守 首長又ハ首長心得	百八十圓
看守 補員以下	百五十圓

○逓信省令第二號

明治三十八年六月逓信省令第四十二號電話料及電話呼出料ノ部中永登浦麻浦間ノ次ニ左ノ通追加
本日ヨリ施行ス

明治三十九年一月六日

逓信大臣大浦兼武

釜山釜山嶺間	金十錢	金十錢
釜山嶺東萊間	金十錢	金十錢
釜山東萊間	金十五錢	金十五錢

○逓信省令第三號

郵便振替貯金規則左ノ通相定ス

明治三十九年一月八日

逓信大臣山縣伊三郎

郵便振替貯金規則

目次

- 第一章 總則
- 第二章 口座加入及脱退
- 第三章 拂込及拂出

第一節 通則

第二節 拂込

第三節 拂出

郵便振替貯金規則

第一章 總則

第一條 振替計算ノ爲ニスル郵便貯金ハ之ヲ郵便振替貯金ト稱ス

第二條 郵便振替貯金ハ左ノ取扱ヲ爲スモノトス

一 加入者又ハ加入者以外ノ者ヨリ當該加入者ノ口座ニ對スル現金又ハ所定ノ證券ニ依ル拂込ヲ受入ルコト

二 加入者ノ請求ニ依リ加入者口座相互間ニ於テ貯金ノ振替受拂ヲ爲スコト

三 加入者ノ請求ニ依リ加入者又ハ加入者以外ノ者ニ當該口座ノ貯金ヨリ現金ノ拂渡ヲ爲スコト

第三條 振替貯金ノ振替計算事務ハ郵便振替貯金管理所ニ於テ之ヲ取扱フ

第四條 振替貯金ニ對シテハ口座受入ノ翌月ヨリ口座拂出ノ前月マテ之ニ利子ヲ付ス但シ基本預

金及二圓未満ノ端數ニ對シテハ利子ヲ計算セズ

第五條 國庫ノ計算ニ屬スル官署ノ口座ニ對シテハ總テ利子ヲ付セズ

第六條 加入者ノ口座ニ對シテ受入又ハ拂出ヲ爲シタルトキハ各一口ニ付料金貳錢ヲ當該加入者ノ

口座ヨリ差引徴收ス但シ元加利子ノ受入料金及用紙代金ノ拂出ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

第七條 加入者ノ請求ニ依リ現金拂渡ノ爲當該口座ノ貯金ヲ拂出ストキハ左ノ割合ニ依ル料金を

其ノ口座ヨリ差引徴收ス此ノ場合ニ於テハ前條ノ料金をハ之ヲ徴收セズ

十圓迄 五錢

五十圓迄 十錢

百圓迄 十五錢

五百圓迄 三十錢

千圓迄 五十錢

第七條 國庫ノ計算ニ屬スル官署ノ口座ニ對シテハ前二條ノ料金を徴收セズ

第八條 郵便貯金規則第六條第七條第十五條第十七條第二十四條第四十一條ノ規定ハ之ヲ振

明治三十九年一月省令 逓信省第三號 郵便振替貯金規則

明治三十九年一月省令 逓信省第三號 郵便振替貯金規則

替貯金ニ準用ス

第二章 口座加入及脱退

第九條 振替貯金ノ口座ニ加入セムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル加入請求書ヲ調製シ之ニ基本預金二十圓ヲ添ヘ郵便局所ニ差出シ基本預金ニ對スル受領證ヲ受取ルヘシ但シ官公署ヨリ加入請求ノ場合ニ於テハ基本預金ノ拂込ヲ要セス

一 加入者ノ住所氏名

二 加入者ノ職業

三 拂込書及拂出書用紙ノ所要數量

前項拂込書及拂出書用紙ノ代金ハ加入請求書ニ郵便切手ヲ貼付シ之ヲ納付スヘシ

第十條 郵便爲替貯金管理所ニ於テ前條ノ請求ヲ承認シタルトキハ請求人ニ對シ其ノ口座番號ヲ通知シ且印鑑票用紙ヲ送付ス

請求人前項印鑑票用紙ヲ送付ヲ受ケタルトキハ之ニ相當事項ヲ記載シ且振替貯金ニ關シ使用スヘキ印章ヲ鮮明ニ捺捺シ免料書留郵便ニ依リ速ニ之ヲ郵便爲替貯金管理所ニ送付スヘシ

第十一條 加入者印章ヲ變更シタルトキハ印鑑票用紙ノ交付ヲ郵便爲替貯金管理所ニ請求スヘシ此ノ場合ニ於テハ其ノ請求書ニ記名調印ノ上之ヲ郵便局所ニ差出シ且拂出書用紙及最近ニ送付ヲ受ケタル受拂通知票ノ呈票又ハ其ノ他ノ方法ニ依リ正當加入者タルコトヲ證明スヘシ郵便爲替貯金管理所ヨリ印鑑票用紙ノ送付ヲ受ケタルトキハ前條ノ例ニ依リ記載調印シ之ヲ同所ニ送付スヘシ

第十二條 加入者口座ヨリ脱退セムトスルトキハ適宜ノ用紙ヲ以テ脱退請求書ヲ調製シ之ヲ郵便

爲替貯金管理所ニ送付スヘシ

加入者前項ノ請求ヲ爲シタル後ハ貯金ノ拂出ヲ請求スルコトヲ得ス

第十三條 郵便爲替貯金管理所ニ於テ前條ノ請求ヲ受ケタルトキハ其ノ旨ヲ公示シ公示ノ日ヨリ少クモ一箇月ヲ經過シタル後ニ於テ脱退者ノ口座ヲ決算シ基本預金及貯金殘額ニ對シテハ振替貯金拂出證書ヲ調製シ之ヲ脱退者ニ送達ス此ノ場合ニ於テハ基本預金以外ノ貯金殘額ニ對シ第六條ノ割合ニ依ル料金を其ノ貯金ヨリ差引徴收ス但シ拂出スヘキ金額千圓ヲ超過スルトキハ其ノ超過額ニ對シ五百圓迄毎二十五錢ヲ加徴ス

前項ノ決算終了後當該口座ニ對シ拂込ミアリタルトキハ之ヲ其ノ拂込人ニ返戻ス

第三章 拂込及拂出

第一節 通則

第十四條 振替貯金ノ口座ニ對スル拂込及拂出ハ郵便爲替貯金管理所ニ於テ發行スル拂込書及拂出書用紙ヲ使用スヘシ

前項ノ用紙ハ加入者ノ請求ニ依リ豫メ郵便爲替貯金管理所ニ於テ其ノ相當欄ニ加入者ノ住所氏名及口座番號ヲ印刷シ別ニ告示スル價格ヲ以テ之ヲ賣捌クモノトス

前項ノ用紙代金ハ第九條ノ場合ヲ除クノ外當該加入者ノ口座ヨリ差引徴收ス

第十五條 拂込書及拂出書ニハ其ノ相當欄ニ拂込人及拂出人ニ於テ相手加入者ニ對スル通信文ヲ記載スルコトヲ得但シ現金ノ拂渡ヲ請求スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十六條 拂込書及拂出書ニ表示スル金高ハ其ノ字體ヲ正確ニ記載シ一二三十ノ數字ハ壹貳參拾ノ文字ヲ用ウヘシ

第十七條 拂込書及拂出書ニシテ前條ノ規定ニ違反シタルモノ、毀損汚班ノ爲不判明トナリタルモノ又ハ其ノ記載事項ヲ塗抹改竄シタル痕跡アルモノハ郵便官署ニ於テ之ヲ受理セス但レ金高及日附ヲ除クノ外他ノ記載事項ノ誤記ニ對シ當該拂込人又ハ拂出人ニ於テ證印ヲ捺捺シテ之ヲ訂正シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第十八條 郵便爲替貯金管理所ニ於テ加入者ノ口座ニ對シ受入又ハ拂出ヲ爲シタルトキハ其ノ受拂高及現在高ヲ表示スル受拂通知票ヲ調製シ即日之ヲ當該加入者ニ發送ス

第二節 拂込

第十九條 振替貯金ノ口座ニ對シ現金ノ拂込ヲ爲サムトスル者ハ其ノ拂込ヲ受クヘキ加入者名義ノ拂込書用紙ニ依リ其ノ拂込票及拂込通知票ニ拂込金額、拂込人ノ住所氏名及拂込年月日ヲ記載シ之ニ現金ヲ添ヘ郵便局所ニ差出シ其ノ受領票ヲ受取ルヘシ

第二十條 郵便局所ニ於テ前條ノ拂込金ヲ受領シタルトキハ其ノ拂込書ヲ郵便爲替貯金管理所ニ送付ス

郵便爲替貯金管理所ニ於テハ前項ノ拂込書ニ依リ當該加入者ノ口座ニ拂込金ヲ記入シ拂込通知票ハ當日ノ受拂通知票ト共ニ之ヲ加入者ニ送付ス

第二十一條 郵便爲替貯金、郵便取立金取立濟通知書及中央金庫ニ於テ拂渡スヘキ仕拂命令券ハ第十九條ノ例ニ準シ之ヲ振替貯金ニ拂込ムコトヲ得但レ郵便取立金取立濟通知書ニ依リ拂込ム場合ハ取立金送達料ニ相當スル郵便切手ヲ其ノ通知書ニ貼付スヘシ

第二十二條 加入者ハ郵便取立金ノ拂渡ヲ受クヘキ郵便局所ニ對シ豫メ自己ノ口座ニ其ノ取立金ノ振替拂込ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ拂込書用紙ノ相當數量ヲ當該局所ニ差出シ置クヘシ

前項ノ郵便局所ニ於テハ郵便取立金到着ノ都度加入者ノ請求ヲ待タズ直ニ之ヲ當該口座ニ振替拂込ノ手續ヲ爲シ其ノ取立金送達料ハ當該加入者ノ口座ヨリ差引徴收ス

第三節 拂出

第二十三條 加入者ハ郵便爲替貯金管理所ヨリ最近送付ニ係ル受拂通知票ニ表示セル貯金現在高ヲ超過セサル限度ニ於テ之カ拂出ヲ請求スルコトヲ得

第二十四條 加入者自己ノ貯金ヲ拂出シ之ヲ他ノ加入者ノ口座ニ振替ムトスルトキハ拂出書用紙ニ依リ其ノ拂出票及拂出通知票ニ拂出金額、振替拂込ヲ受クヘキ加入者ノ口座番號及氏名等ヲ記載シ調印ノ上免料普通郵便ニ依リ之ヲ郵便爲替貯金管理所ニ送付スヘシ

第二十五條 郵便爲替貯金管理所ニ於テ前條拂出書ノ送付ヲ受ケタルトキハ其ノ氏名印影ヲ印鑑票ニ對照シ相違ナキヲ確メタル上當該口座ヨリ貯金拂出ノ手續ヲ爲シ更ニ指定加入者ノ口座ニ之ヲ受入レ拂出通知票ハ當日ノ受拂通知票ト共ニ之ヲ拂込ヲ受ケタル加入者ニ送付ス

第二十六條 加入者自己ノ貯金ヲ拂出シ自ラ其ノ現金ヲ受領シ若ハ他人ニ之ヲ拂渡サムトスルトキハ拂出票及拂出通知票ニ拂出金額、現金受領者ノ住所氏名及拂渡郵便局所名ヲ記載シ尙現金拂ノ文字ヲ附記シ調印ノ上免料普通郵便ニ依リ之ヲ郵便爲替貯金管理所ニ送付スヘシ

第二十七條 前條ノ現金拂出書一枚ノ金額ハ千圓ヲ超過スルコトヲ得ス

第二十八條 郵便爲替貯金管理所ニ於テ現金拂出書ノ送付ヲ受ケタルトキハ第二十五條ノ例ニ依リ口座拂出ノ手續ヲ爲シタル上振替貯金拂出證書ヲ調製シ之ヲ現金受取人ニ送達シ拂出通知票ハ之ヲ拂渡郵便局所ニ送付ス

第二十九條 受取人前條拂出證書ニ對スル現金ノ拂渡ヲ受ケムトスルトキハ其ノ相當ノ部ニ記名調印ノ上之ヲ拂渡郵便局所ニ差出スヘシ

拂渡郵便局所ハ受取人ニ左ノ事項ヲ尋問シ拂出通知票ニ記載シタル事項ト符合スルヲ認メ現金

ヲ交付ス

- 一 拂出人ノ住所氏名
- 二 受取人ノ住所氏名

第三十條 加入者ハ逓信省構内郵便局ヲ拂渡局ニ指定シ局待拂ノ拂出書ヲ振出スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ拂出書ニ局待拂ノ文字ヲ附記スヘシ

前項ノ郵便局ニ於テハ拂出書ニ對シ相當調査ノ上受取人ニ即時現金ヲ交付ス

第三十一條 局待拂拂出書ハ其ノ日附ヨリ起算シ一週間ヲ經過シタルモノハ郵便局所ニ於テ之ヲ受理セス

第三十二條 振替貯金拂出證書ノ有効期間ハ其ノ發行ノ日附ヨリ起算シ三十日トス

第三十三條 郵便貯金規則第六十五條乃至第七十六條ノ規定ハ之ヲ振替貯金ニ準用ス

附則 第三十四條 本規則ハ明治三十九年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

○逓信省令第四號
 明治三十三年九月九日逓信省令第五十七號外國郵便爲替規則第二十四條第一項但書中「獨逸媒介爲替又ハ」ヲ削ル

明治三十九年一月十九日

逓信大臣山縣伊三郎

(參照)

逓信省令第五十七號外國郵便爲替規則(明治三十三年九月十一日)抄録
 第二十四條 萬國聯合郵便爲替ノ差出人爲替金ノ拂戻ヲ請求セムトスルトキハ爲替券ニ記名印シ外國郵便爲替拂込金受領證書ト共ニ之ヲ振出郵便局所ニ送付ス(但シ不達亡失毀損若ハ汚穢セル爲替券ニ付拂戻ヲ請求セムトスルトキ又ハ獨逸媒介爲替又ハ佛國媒介爲替ノ差出人爲替券ヲ所持セサル場合ニ於テ爲替金ノ拂戻ヲ請求セントスルトキハ外國郵便爲替金拂戻請求書ヲ振出郵便局所ニ送付シ且外國郵便爲替拂込金受領證書ヲ呈示スヘシ)

○内務省令第一號

北海道二級町村制施行地ヲ左ノ通指定シ明治三十九年四月一日ヨリ施行ス但シ數町村合併ノ分ハ現在ノ町村名ヲ大字トシテ之ヲ存ス

明治三十九年二月二十二日

村名	所屬郡名	區	城
篠路村	篠路郡	篠路村(篠路兵村ヲ除ク)	東園郡
琴似村	同	琴似村(篠路兵村ヲ除ク)	同
藻岩村	同	山鼻村、團山村	島牧郡
江別村	同	江別村、對雁村、篠津村	同
蕨村	千歲郡	流村、島松村	永豐村、千走村、江泥邊村、原歌村
尻内村	龜田郡	尻内村	本目村、歌島村、輕白村
茂別村	上磯郡	茂邊地村、石別村	潮路村、有月村、種前村、美谷村
知内村	同	知内村、小谷石村	前田村、老古美村、梨野、舞納村、蠟似村
尾札部村	茅部郡	尾札部村	村ノ内字切通ヨリ南直線線路川ヲ基點トシ同所ヨリ西同川ヲ下リ神惠内川ノ發合ニ至ル以西
白尻村	同	白尻村、熊泊村	發足村、蠟似村ノ内字切通ヨリ南直線線路川ヲ基點トシ西同川ヲ下リ神惠内川ノ發合ニ至ル以東
鹿部村	同	鹿部村	神惠内村、赤石村、珊内村
砂原村	同	砂原村、掛洞村	俱知安村
長萬部村	山越郡	長萬部村	鹽谷村、桃内村、忍路村、岡島村
吉岡村	同	鹽谷村、吉岡村、宮歌村	赤井川村
泊村	松前郡	泊村、伏木村、柳崎村、鱒川村、小黒部村、田澤村	野塚村、日司村、入河村、出脚村
厚澤部村	同	土橋村、目名村、俄虫村、赤沼村、安野呂村、館村、鶯村	西河村、來岸村、余別村、神脚村
奥尻村	奥尻郡	的懸村、赤石村、藥師村、青苗村	市來知村(字峯延三號及三線以北ヲ除ク)、幌内村、幾春別村
太樺村	太樺郡	太樺村、古樺太村、其連石村、鵜泊村	沼貝村、市來知村ノ内字峯延三號及三線以北

内務大臣原敬

栗澤村 同 栗澤村	三石村 三石郡 破布村邊防村、幌毛村、鹿野村、本根村、歌留村
龍川村 同 龍川村	檜似村 檜似郡 檜似村、鴨吉村、平島村、冬島村、二七村、岡田村、磯崎村、鴨内村
歌志内村 同 歌志内村	幌泉村 幌泉郡 幌泉村、油胸村、小越村、鹿野村、猿留村、近呼村、留舞村、歌留村、歌留村
登川村 夕張郡 登川村	茅室村 河西郡 茅室村、美生村、羽帶村、美室村、西士村、狩村
月形村 樺戸郡 月形村	音更村 河東郡 音更村、然別村、東士村、洞梁村、内藤村、分刺線、洞梁村、境、交又點
一巳村 兩龍郡 一巳村	東川村 同 東川村
秩父別村 同 秩父別村	永山村 同 永山村
東旭川村 同 東旭川村	鷹栖村 同 鷹栖村(宇比布ヲ除ク)
東旭川村 同 東旭川村	鷹栖村 同 鷹栖村(宇比布ヲ除ク)
比布村 同 比布村	鷹栖村 同 鷹栖村(宇比布ヲ除ク)
當麻村 同 當麻村	生剛村 十勝郡 生剛村、雲牛村
愛別村 同 愛別村	大津村 同 大津村、長白村、隨奴村、旅來村、十勝村、當麻村、内海岸、ホロカヤント
士別村 同 士別村	茂寄村 廣尾郡 茂寄村、原丹村、大樹村、當麻村、内海岸、ホロカヤント、沼ト當麻川トノ中間ニ在ル高丘ノ中間ニ在ル高丘ノ中央ヲ上リ「オイカマナイ」川ト當麻川トノ中間ニ在ル分水嶺ヲ經テ中川郡界ニ至ル以四郡界ニ至ル以東
上高真野村 同 上高真野村	豐頃村 中川郡 豐頃村、安野村
空知郡 同 空知郡	
留萌郡 同 留萌郡	
鬼鹿村 同 鬼鹿村、天登雁村	
天登雁村 同 天登雁村	
天登雁村 同 天登雁村	
天登雁村 同 天登雁村	
天登雁村 同 天登雁村	
天登雁村 同 天登雁村	
天登雁村 同 天登雁村	
天登雁村 同 天登雁村	

洞梁村 同

洞梁村(蝶多村分刺線ト洞梁村境界ト交又點ヨリ分水嶺ヲ經テ土幌川支流「オサル」川水源ノ山上ニ至ル以西ヲ除ク)蝶多村ノ内蝶多村十勝川河岸字「タンネビラ」ヨリ直ニ北方高丘ヲ上リ山脈ヲ經テ洞梁村ノ境界ニ至ル以東、十勝村、機師村、野牛村信

取村、蓋源村、居邊村、幕別村、止若村、鹿別村、白人村、別奴村、段中村、後靜村、理留園村、散布村、霧多布村、柳町、和田村、留香村、幌茂尻村、厚別村、内風連川ヲ以テ境界トシ其以東、昆布、盛村、落石村

○大藏省令第五號

韓國ニ於テハ自今明治三十二年大藏省令第四十九號ノ符號アル收入印紙ノ買下ヲ廢止ス

大藏大臣法學博士阪谷芳郎

○大藏省令第六號

明治三十八年大藏省令第四號煙草賣捌規則第十條第六項第一號及第二號中壹萬五千圓ヲ參千圓ニ改メ明治三十九年二月二十日ヨリ施行ス

大藏大臣法學博士阪谷芳郎

明治三十九年二月十五日

〔参照〕

- 大藏省令第四號煙草賣捌規則(明治三十八年二月四日)抄錄
- 第十條第二項第三項及第六項
- 政府ヨリ買受クル製造煙草ノ代金一圓五百圓以上ニ達スル者ハ代金納付ノ擔保トシテ國債證券、地方債證券若ハ政府ノ保監又ハ監視ヲ受クル株式會社ノ株券若ハ債券ヲ提供シテ代金ノ延納ヲ請求スルコトヲ得
- 當時製造煙草ノ買受ヲ爲ス者代金納付ノ擔保トシテ前項ノ有價證券ヲ提供シ置クトキハ其ノ證券ノ價格ニ達スルマテ代金ノ延納ヲ請求スルコトヲ得但シ毎回ノ買受代金五百圓ヲ下ラサルコトヲ要ス
- 第二項第三項ノ場合ニ於テ其ノ買受代金ハ現品領收済ノ日ヨリ起算シ左ノ期間内ニ完納スヘシ
- 一 買受代金五百圓以上壹萬五千圓未滿ノモノハ二箇月
- 二 買受代金壹萬五千圓以上ノモノハ三箇月

○大藏省令第七號

整理公債證書、軍事公債證書及大日本帝國政府五分利公債證書ノ額面種類ハ五十圓、百圓、五百圓、千圓、五千圓及一萬圓ノ六種トス

明治三十九年二月十六日

大藏大臣法學博士阪谷芳郎

○大藏省令第八號

臨時事件公債規程左ノ通之ヲ定ム

明治三十九年二月二十日

大藏大臣法學博士阪谷芳郎

臨時事件公債規程

- 第一條 政府ハ明治三十九年法律第一號ニ依リ臨時事件公債二億圓ヲ募集ス
- 第二條 臨時事件公債ノ利率ハ一箇年百分ノ五トス
- 第三條 臨時事件公債ノ證券ハ大日本帝國政府五分利公債證書トス
- 第四條 臨時事件公債ノ元金ハ明治三十九年ヨリ五箇年据置キ其ノ翌年ヨリ向二十五箇年以内ニ償還スルモノトス
- 第五條 臨時事件公債ノ利子ハ毎年六月及十二月ニ於テ仕拂フモノトス
- 第六條 臨時事件公債ノ發行價格ハ證券額面百圓ニ付其ノ最低ヲ九十五圓トス
- 第七條 臨時事件公債ノ應募申込期間ハ明治三十九年三月八日ヨリ同月二十日マテトス但シ取扱銀行ハ應募者ノ便宜ニヨリ三月八日前ト雖モ申込ヲ受クルコトヲ得
- 第八條 應募者ハ應募高、應募價格及住所氏名ヲ詳記シタル申込書ニ申込高百圓ニ付金五圓ノ保證金ヲ添ヘ日本銀行本支店其ノ他日本銀行ノ定ムル申込所ニ申込ムヘシ但シ保證金ニハ利子ヲ

付セス

- 前項ノ應募價格ニハ十錢位ニ滿タサル端數ヲ付スルコトヲ得ス
- 第九條 臨時事件公債ノ應募高、需要額ヲ超過スルトキハ其ノ價格ノ高キモノヨリ順次之ヲ採リ需要額ニ滿ツルニ至リテ止ム其ノ價格同シキモノハ申込ノ高ニ割合ヒ減少シ割當高五十圓ニ滿タサルモノハ之ヲ除キ更ニ之ヲ五十圓以上ノ分ニ配當ス
- 第十條 申込ハ明治三十九年三月三十一日マテニ確定スルモノトス
- 前項確定ノ上ハ其ノ旨ヲ申込人ニ通知スヘシ
- 第十一條 前條第二項ノ規定ニ依リ募入決定ノ通知ヲ受ケタル者ハ左ノ區別ニ依リ拂込ヲ爲スヘシ但シ第一期拂込ハ保證金ヲ以テ之ニ充ツ

第一期	明治三十九年三月三十一日	金五圓(證券額面百圓ニ付)
第二期	同年四月十六日ヨリ同月二十五日マテ	金十五圓(同上)
第三期	同年五月十六日ヨリ同月二十五日マテ	金二十圓(同上)
第四期	同年六月十六日ヨリ同月二十五日マテ	金十五圓(同上)
第五期	同年七月十六日ヨリ同月二十五日マテ	金二十圓(同上)
第六期	同年八月十六日ヨリ同月二十五日マテ	金二十圓(同上)

- 最低發行價格以上ノ申込ヲ爲シタル者ハ第二期拂込ト共ニ其ノ差額ヲ拂込ムヘシ
- 第十二條 應募者ノ都合ニ由リ後ノ一期若ハ數期分ヲ前期ニ繰上ケ拂込ヲ爲スコトヲ得
- 第二期ニ於テ全部ノ拂込ヲ完了シタル者ニハ證券額面百圓ニ付金八十錢ノ割合ニ依リ割引ヲ爲スモノトス

第十三條 第四回及第五回國庫債券ハ臨時事件公債應募拂込ノ現金ニ代用スルコトヲ得
前項ノ代用價格ハ其ノ額面金額ニ償還期限ノ月マテニ屬スル利子ノ未拂金額ヲ加ヘタルモノニ
依ル

第十四條 第四回及第五回國庫債券ヲ以テ臨時事件公債應募拂込ノ現金ニ代用セントスル者ハ應
募申込ノ際其ノ債券ノ額面金額ヲ豫告シ若ハ該債券ヲ取扱銀行ニ預托シ置クコトヲ得
前項ノ規定ニ依リ國庫債券ヲ預托スル場合ニ於テハ保證金ヲ納ムルコトヲ要セス

第十五條 國庫債券代用ノ豫告ヲ爲シ若ハ國庫債券ヲ預托シタル者ノ應募高ハ第九條ノ規定ニ依
リ割合減少ヲ爲ス場合ニ於テ優先ニ募入セラルルモノトス

第十六條 國庫債券代用ノ豫告ヲ爲シタル者ハ代用債券ノ償還期限ニ拘ラス第二期ニ於テ其ノ代
用債券ヲ取扱銀行ニ提供スヘシ
豫告ヲ爲シタル者ノ保證金ハ第十一條第一項但書ノ規定ニ依ラス其ノ代用債券ノ提供アリタル
トキ之ヲ還付ス

第十七條 前條ニ依リ提供シタル國庫債券又ハ預托シタル國庫債券ハ其ノ償還期限ニ拘ラス第二
期ニ於テ現金ノ拂込ニ代用納付シタルモノト看做ス

第十八條 豫告若ハ預托ヲ爲ササリシ國庫債券ハ其ノ償還期限以後ニ非サレハ代用納付スルコト
ヲ得ス

第十九條 國庫債券代用價格ノ金額カ拂込ムヘキ現金ノ額ヲ超過スルトキハ償還期限ニ拘ラス其
ノ拂込ノ時ニ於テ該超過額ニ相當スル現金ヲ拂戻スヘシ

第二十條 臨時事件公債ノ明治三十九年六月及十二月渡ノ利子ハ證券額面百圓ニ付金二圓五十錢
ノ割合ヲ以テ之ヲ仕拂フモノトス但シ明治三十九年六月渡ノ利子ハ第三期マテノ拂込ヲ了リタ
ル後ニ非サレハ之カ仕拂ヲ爲サス

第二十一條 臨時事件公債ノ拂込ヲ延滞シタル者アルトキハ拂込期限ノ翌日ヨリ現拂込ノ日マテ
金百圓ニ付日歩金四錢ノ割合ヲ以テ利子ヲ徵スヘシ
拂込期限後三箇月ヲ過キ尙拂込ヲ爲ササルトキハ應募ノ申込ヲ無効トシ既ニ拂込ミタル金額ハ
之ヲ沒收ス

第二十二條 國庫債券代用ノ豫告ヲ爲シタル者カ其ノ豫告ニ從ヒ代用債券ノ提供ヲ爲ササルトキ
ハ應募ノ申込ヲ無効トシ保證金ハ之ヲ沒收ス

第二十三條 第四回及第五回國庫債券ノ代用ニ關スル前各條ノ規定ハ其ノ假債券ニ之ヲ適用ス但
シ代用ノ假債券ハ之ヲ無記名本債券ト看做シテ取扱フモノトス

第二十四條 代用ノ豫告ヲ爲シ若ハ取扱銀行ニ預托シタル記名國庫債券ニ付テハ記名書換及所管
店轉換ノ取扱ヲ爲ササルモノトス但シ相續、遺贈及強制執行ニ因リ記名書換ヲ要スルモノハ此
ノ限ニ在ラス

第二十五條 臨時事件公債ノ應募者第二期ノ拂込ヲ了シタルトキハ記名ノ假證書ヲ交付シ全額拂
込ノ上之ト引換ニ本證書ヲ交付ス

第二十六條 臨時事件公債ノ假證書ハ賣買讓與シ及質ト爲スコトヲ得
前項ノ取扱ニ關シテハ明治二十七年大藏省令第十七號ヲ準用ス但シ應募者カ拂込ヲ爲スニ當リ
供託又ハ質入等ノ事故ニ因リ假證書ヲ呈示スルコト能ハサル場合ニ於テ其ノ旨ヲ證明スルトキ
ハ同令第三條ニ依リ其ノ拂込ヲ假證書ニ記入スル代リニ之ニ對シテ假ニ領收證書ヲ發スルコト

アルヘシ

第二十七條 第二十一條第二項ノ規定ニ依リ無効ト爲リタル假證書ヲ所持スル者ハ速ニ之ヲ日本銀行本支店又ハ代理店ニ返還スヘシ

第二十八條 假證書ヲ紛失シ又ハ滅失シタル者ハ二名以上ノ保證人ヲ立テ其ノ事實ヲ日本銀行本支店又ハ代理店ニ證明シテ假證書ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ請求アリタル後原假證書ヲ發見シタル者ハ速ニ其ノ旨ヲ日本銀行本支店又ハ代理店ニ届出ツヘシ此ノ場合ニ於テ既ニ代假證書ノ交付ヲ了リタルトキハ原假證書ヲ返還セシム其ノ交付手續中ニ係ルモノモ時宜ニ由リ返還セシムルコトアルヘシ

第二十九條 臨時事件公債ニ關スル取扱順序ハ本令ニ規定シタルモノノ外明治十九年大藏省令第三十號整理公債取扱順序ニ準據ス

○陸軍省令第一號

明治二十五年陸軍省令第三號徵兵検査規則第三條第一號第二號及第三號中四尺九寸ヲ五尺ニ改ム

明治三十九年二月二十四日 陸軍大臣寺內正毅

〔参照〕

陸軍省令第三號徵兵検査規則(明治二十五年三月十八日)抄録

第三條 徵兵體格ノ等位ヲ區別スルコト左ノ如シ

- 一 甲種 身長四尺九寸以上ニシテ身體強健ナルモノ
- 二 乙種 身長四尺九寸以上ニシテ身體甲種ニ亞クモノ
- 三 丙種 身長四尺九寸以上ニシテ身體乙種ニ亞クモノ及身長四尺九寸未滿四尺八寸以上ニシテ丁種戊種ニ當ラサルモノ

○農商務省令第三號

明治二十七年農商務省令第十一號國有林野及產物賣拂代金延納規則中左ノ通改正ス

明治三十九年二月二十八日 農商務大臣松岡康毅

第二條 代金延納ノ方法ヲ以テ賣拂ヲ受ケント欲スル者ハ賣買契約締結前ニ其ノ旨ヲ申出ツヘシ

第五條第二項中「價額ハ」ノ下ニ「明治三十八年勅令第二十號ノ規定ニ依ルモノノ外」ノ二十二字ヲ加フ

〔参照〕

農商務省令第十一號國有林野及產物賣拂代金延納規則(明治三十七年六月二十三日)抄録

第二條 代金延納ノ方法ヲ以テ賣拂ヲ受ケント欲スル者ハ賣買契約ニ依ル賣拂ヲ受ケント欲スル者ハ買受ノ申込ト同時ニ其ノ旨ヲ申出ツヘシ

第五條第二項 擔保品ハ延納スヘキ賣拂代金ト同額以上ヲ提供セシムヘキモノトス此ノ場合ニ於テ擔保品ノ價額ハ時價ニ對シ一割ヲ減シテ算定スヘシ

○逓信省令第五號

明治三十年十二逓信省令第三十二號電話料及電話呼出料ノ部中左ノ通改正シ本月二十一日ヨリ施行ス

明治三十九年二月十七日 逓信大臣山縣伊三郎

〔横濱箱根間〕ノ次ニ左ノ通加フ

前橋大宮間 金二十五錢 金十五錢

高崎大宮間 金二十五錢 金十五錢

○逓信省令第六號

郵便振替貯金ノ拂込ニハ私製ノ拂込書用紙ヲ使用スルコトヲ得

前項ノ用紙ハ郵便爲替貯金管理所發行ノモノト同様ニシテ其ノ相當欄ニ加入者ノ住所氏名及口座番號ヲ印刷シタルモノナルコトヲ要ス但シ其ノ裏面餘白ニハ通信文ノ性質ヲ有セサル廣告其ノ他ノ事項ヲ印刷スルコトヲ得

明治三十九年二月十九日

遞信大臣山縣伊三郎

○遞信省令第七號

本年一 遞信省令第三號郵便爲替貯金規則第三十條第一項中「遞信省構内郵便局ヲ東京郵便局」ト改ム
明治三十九年二月十九日

遞信大臣山縣伊三郎

〔參照〕

遞信省令第三號郵便爲替貯金規則(明治三十九年一月八日)抄錄
第三十條 加入者ハ遞信省構内郵便局ヲ拂渡府ニ指定シ局待拂ノ拂出書ヲ提出スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ拂出書ニ局待拂ノ文字ヲ附記スヘシ

○外務省令第一號

明治三十三年六月外務省令第二號外國旅券規則中左ノ通改ム

明治三十九年三月三十一日

外務大臣侯爵西園寺公望

第七條第一項中「其券面ニ署名スヘシ」ノ下ハ「若シ署名シ能ハサル者ハ代署ノ上實印ヲ押捺スヘシ」ノ二十三字ヲ加フ

〔參照〕

外務省令第二號外國旅券規則(明治三十三年六月四日)抄錄
第七條 旅券ヲ領收シタルトキハ直ニ其ノ券面ニ署名スヘシ

○大藏省令第九號

明治三十八年大藏省令第二十二號鹽專賣法施行細則中左ノ通改正ス

明治三十九年三月九日

大藏大臣法學博士阪谷芳郎

第二十七條中「五千斤」ヲ「四百斤」ニ改ム

附則

本令ハ明治三十九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

大藏省令第二十二號鹽專賣法施行細則(明治三十八年四月一日)抄錄
第二十七條 鹽ノ賣渡ハ第十三條第二項ノ場合ヲ除ク外一回五千斤以上トス但シ外國鹽ニ付テハ二萬斤以上トス

○大藏省令第十號

明治三十九年法律第十號ニ依リ地租ノ免除ヲ受ケントスル者ハ土地ノ番號、地目、段別、地價、地租ヲ記載シ且收穫皆無クシ事實ヲ證明シテ所轄稅務署ニ出願スヘシ但シ段別、地價、地租ニ付テハ

各筆ノ記載ヲ省略シ地目別合計額ヲ記載スルモ妨ナレ
明治三十六年法律第三號ニ依リ地租延納ノ許可ヲ爲シタル者ハ明治三十九年法律第十號ニ依リ地租免除ノ許可ヲ爲シタル者ト看做ス

明治三十九年三月十七日

大藏大臣法學博士阪谷芳郎

○大藏省令第十一號

明治三十二年大藏省令第十四號中陸奥國青森ノ項ヲ削除シ明治三十九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十九年三月三十日

大藏大臣法學博士阪谷芳郎

〔參照〕

明治三十二年四月二日大藏省令第十四號ハ税關監視署設置ノ件ナリ

○大藏省令第十二號

鹽專賣法施行細則中左ノ通改正ス

明治三十九年三月三十日

大藏大臣法學博士阪谷芳郎

第一條第三項中「鹽田ヲ作ラムトスル際」ノ下ニ「鹽田ニ依ラスレテ鹽ヲ製造セムトスル者ハ其ノ設備ニ著手セムトスル際」ヲ加フ

第三十七條第一項ニ左ノ各號ヲ加フ

六 讓渡シタル鹹水ノ容量、比重、價額、讓渡月日及讓受人

七 讓受ケタル鹹水ノ容量、比重、價額、讓受月日及讓受人

第三十七條第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

鹹水ノミノ製造ヲ爲ス者ハ少クとも毎日前項第一號及第六號ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

第四十條ノ二 鹹水ノ製造ニ關シテハ第一條乃至第十一條ノ規定ヲ準用ス

附 則

本令ハ明治三十九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

大藏省令第二十二號鹽專賣法施行細則(明治三十八年四月一日)抄録

第一條第三項

新ニ鹽田ヲ作り鹽ヲ製造セムトスル者ハ鹽田ヲ作ラムトスル際第一項ノ出願ヲ爲スヘシ

第三十七條 鹽製造者ハ少クとも毎日左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

一 採取シタル鹹水ノ容量及比重

○大藏省令第十三號

含鹽礦物輸入移入規則左ノ通相定ム

大藏大臣法學博士阪谷芳郎

明治三十九年三月三十日

含鹽礦物輸入移入規則

第一條 鹽專賣法第三條第二項ニ掲ケタル礦物ヲ輸入シタル者アル場合ニ於テ税關カ其ノ礦物百分中四十以上ノ鹽化曹達ヲ含有スルモノナリト檢定シタルトキハ輸入者ハ税關、指揮監督ニ從ヒ其ノ礦物ノ變性ヲ施スヘシ

前項輸入礦物ノ變性ハ其ノ礦物ノ重量百ニ對シ智利硝石ニ付テハ百分中五以下ノ鹽化曹達ヲ含有スル智利硝石六十「カイニット」シルヴィニット「シリヴィニット」「ポリハリット」「キーゼリット」「カルナリット」「ハルトザルツ」其ノ他ノ礦物ニ付テハ百分中五以下ノ鹽化曹達ヲ含有スル智利硝石「カイニット」「シルヴィニット」「ポリハリット」「キーゼリット」「カルナリット」「ハルトザルツ」若ハ其ノ他ノ礦物

六十ヲ混和シテ之ヲ爲スモノトス

第二條 鹽專賣法第三條第二項ニ掲ケタル礦物ヲ鹽專賣法ヲ施行セサル地ヨリ移入シタル者ハ直ニ移入地所轄ノ鹽務局ヘ共ノ品名用途數量仕入地名及積載船舶名ヲ記載シタル移入申告書ヲ提出スヘシ

第三條 前條ノ移入申告アリタル場合ニ於テ鹽務局カ共ノ礦物百分中四十以上ノ鹽化曹達ヲ含有スルモノナリト檢定シタルトキハ移入者ハ第一條ニ準シ鹽務局ノ指揮監督ニ從ヒ共ノ礦物ノ變性ヲ施スヘシ

附則

本令ハ明治三十九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○司法省令第二號

明治三十九年、同四十年、同四十一年ニ施行スヘキ判事檢事登用第一回試験及辯護士試験ニ於テハ外國語ノ試験ハ之ヲ行ハス

明治三十九年三月十六日

司法大臣松田正久

○司法省令第三號

明治三十六年三月司法省令第五號監獄醫、教誨師、教師、藥劑師、看守及女監取締ノ定員中左ノ通改正ス

「三十八」ヲ「四十五」ニ改ム

附則

本令ハ明治三十九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

(參照)

明治三十六年三月司法省令第五號中三十八ハ教師ノ定員ナリ

○文部省令第一號

明治三十七年文部省令第十三號東京外國語學校ノ修業年限、學科、學科目及其ノ程度並研究生、選科生及專修科ニ關スル規程ヲ東京外國語學校ノ修業年限、學科、學科目及其ノ程度並研究生、選科生、專修科及速成科ニ關スル規程ト改メ且同規程中左ノ通改正ス

明治三十九年三月三十一日

文部大臣牧野伸顯

第六條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第七條 實用ヲ主トシテ露、清、韓ノ三語學ヲ學修セントスル者ノ爲ニ速成科ヲ置ク

速成科ノ修業年限ハ一箇年トス共ノ每週教授時數ハ文部大臣ノ許可ヲ得テ學校長之ヲ定ムヘシ

附則

本令ハ明治三十九年四月一日ヨリ施行ス

○文部省令第二號

第五高等學校工學部ヲ明治三十九年四月一日ヨリ熊本高等工業學校トス

文部大臣牧野伸顯

○農商務省令第四號

大林區署ニ於テ徵收スル拂下代金、貸下料共ノ他ノ收入金ハ郵便爲替、日本銀行若ハ共ノ代理店ニ宛タル送金手形又ハ日本銀行若ハ共ノ代理店ニ於テ證明シタル小切手ヲ以テ之ヲ納付スルコトヲ得

農商務大臣松岡康毅

明治三十九年三月八日

農商務省令第五號

種牛牧場種牛拂下規程左ノ通相定ム

明治三十九年三月十日

農商務大臣松岡康毅

種牛牧場種牛拂下規程

- 第一條 種牛ヲ拂受ケムト欲スル者ハ別記書式ニ依リ隨時種牛牧場長ニ拂下願書ヲ提出スヘシ
- 第二條 前條ノ出願アリタルトキハ種牛牧場長ハ現ニ拂下クヘキ種牛ノ種類、性、生年月、特徴及拂下代價ヲ出願人ニ通知シ期間ヲ定メ拂受希望ノ種牛ヲ撰擇指定シテ之ヲ届出テシムヘシ
- 出願人ニ於テ指定期間内ニ前項ノ届出ヲ爲ササルトキハ出願ハ其ノ效力ヲ失フ
- 第三條 種牛牧場長ハ第一條ニ依ル種牛拂下願書受理後滿三箇月ヲ經過スルモ尙ホ拂下クヘキ種牛ナキトキハ願書ヲ出願人ニ返付スヘシ
- 第四條 種牛牧場長出願ヲ許可シタルトキハ代金納付ノ期限及種牛引渡ノ期間ヲ指定シ拂下許可證ヲ下付スヘシ
- 第五條 拂受人正當ノ事由ナクシテ前條指定期限迄ニ拂下代金ヲ納付セサルトキハ拂下ノ許可ハ其ノ效力ヲ失フ
- 第六條 拂受人種牛ノ引渡ヲ請求スルトキハ拂下許可證及代金納付ノ證書ヲ種牛牧場長ニ呈示スヘシ
- 拂受人前項ノ書面ヲ呈示セサルトキト雖種牛牧場長ニ於テ其ノ拂下許可ヲ受ケ且拂下代金ヲ納付シタル者ナルコトヲ認メタルトキハ引渡ヲ爲スコトヲ得
- 種牛牧場長ニ於テ必要ト認ムルトキハ何時タリトモ拂受人ニ通知シテ種牛引渡ノ期間ヲ變更ス

ルコトヲ得

- 第七條 拂受人引渡期間内ニ引渡ヲ請求セサルトキハ期間後一頭ニ付一日金五十錢ノ割合ヲ以テ飼養費ヲ引渡請求ノ際納付スヘシ
- 第八條 拂受人引渡期間後二週間内ニ引渡ヲ請求セサルトキハ拂下ノ許可ハ其ノ效力ヲ失フ此ノ場合ニ於テハ既納ノ代金ハ之ヲ還付セス
- 第九條 引渡前ニ於テ拂下ノ目的タル種牛カ滅失シ又ハ廢疾ニ罹リタルトキハ拂受人ノ請求ニ因リ代金ヲ還付スヘシ
- 拂受人ハ隠レタル瑕疵ヲ事由トシテ拂下許可ノ取消代金ノ減額又ハ損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得ス
- 第十條 種牛牧場長ハ拂受人ニ種牛引渡ノ際其ノ血統證ヲ交付スヘシ
- 第十一條 拂受人又ハ拂下種牛ノ所有者若ハ管理者ハ左ノ各號ヲ遵守スヘシ
 - 一 拂受ケタル種牛ヲ讓渡シ若ハ貸付ケタルトキハ讓受人又ハ借受人ノ住所、氏名若ハ名稱及其ノ事由ヲ具シ三十日以内ニ種牛牧場長ニ届出ツヘシ
 - 二 拂受ケタル種牛斃死若ハ逸走シ又ハ之ヲ屠殺若ハ撲殺シタルトキハ其ノ事由ヲ具シ三十日以内ニ種牛牧場長ニ届出テ同時ニ血統證ヲ返納スヘシ
 - 三 前年ニ於ケル拂受種牛ノ交尾蕃殖ノ狀況、子牛ノ生育、改良ノ成績等ヲ毎年一月三十一日迄ニ種牛牧場長ニ報告スヘシ
 - 四 牛ノ飼養管理及改良上ニ關シ農商務大臣又ハ種牛牧場長ヨリ諮問アリタルトキハ速ニ之ニ答申スヘシ

附則

明治三十五年農商務省告示第五百五十八號種牛拂下規程ハ之ヲ廢止ス

(別記書式)

種牛拂下願

一何々種 姓(牝)牛 頭

一同 同

右種牛收買種牛拂下規程ヲ遵守シ牛ノ改良蕃殖ニ從事致度候間御拂下相成度此段相願候也

住所職業

氏

名又ハ名稱

年月日

何々種牛牧場長宛

○農商務省令第六號

明治三十五年農商務省令第十七號畜牛結核病検査講習生規則ハ明治三十九年三月三十一日限り之ヲ廢止ス

但シ同規則第七條及第八條第三號第四號ハ明治四十三年十二月三十一日迄效力ヲ有ス

明治三十九年三月十七日

農商務大臣松岡康毅

○農商務省令第七號

明治三十五年農商務省令第七號漁業法施行規則中左ノ通改正ス

明治三十九年三月二十八日

農商務大臣松岡康毅

第八條ニ左ノ一項ヲ加フ

公益上必要アリト認ムルトキハ制限又ハ條件ヲ附シテ漁業免許ヲ與フルコトヲ得

第十八條第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

前項ニ依ル代表者ノ届出又ハ記載ナキトキハ行政官廳ハ代表者ヲ指定スヘシ

第二十五條ニ左ノ一項ヲ加フ

前項但書ノ場合ニ於テハ入會漁業者連印シテ出願シタルモノト認ムルコトヲ得

第二十八條第一項ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ行政官廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ新ニ漁場圖ヲ調製シ其ノ副本ヲ添附シ之ヲ下付スルコトヲ得

第二十九條ニ左ノ一項ヲ加フ

前項但書ノ場合ニ關シテハ前條第一項但書ノ規定ヲ準用ス

第三十八條第一項中第六號ヲ左ノ通改メ第六號ノ次ニ左ノ三號ヲ加ヘ第十號中「漁業權」ノ次ニ又

ハ入漁ノ權利ヲ加ヘ第二項中「第五號及第六號」トアルヲ「第五號乃至第六號ノ二」ニ改ム

六ノ二 入漁登錄ニ關シテハ第四十二條ノ二第二項第二號乃至第五號ニ掲ケタル事項

六ノ二 第四十三條第一項ニ依ル變更ノ登錄ニ關シテハ其ノ事項及年月日

六ノ三 登錄證ノ訂正ニ關シテハ其ノ事項及年月日

六ノ四 登錄證ノ書換ニ關シテハ相續又ハ讓渡ニ在リテハ其ノ事由、年月日及相續人若ハ讓受

人又ハ其ノ代表者ノ氏名若ハ名稱及住所、共有又ハ代表者ノ變更ニ在リテハ其ノ事由、年月日及代表者ノ氏名若ハ名稱及住所

第四十二條中「登錄ヲ受ケムトスル」ノ次ニ「漁場圖正副二通ヲ添附シ」ヲ加フ

第四十二條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第四十二條ノ二 入漁申請ニ對シ登錄アリタルトキハ登錄證ヲ下付スヘシ

登録證ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 免許番號
- 二 登録番號
- 三 登録年月日
- 四 入漁者又ハ代表者ノ氏名若ハ名稱及住所
- 五 入漁者ノ權利義務
- 六 登録シタル官廳名

行政官廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ登録證ニ漁場圖ヲ添附シテ下付スルコトヲ得

第四十三條 登録シタル入漁者ノ權利義務ニ變更ヲ生シタルトキハ申請書ニ共ノ事由ヲ具シタル書面及登録證ヲ添附シ變更ノ登録ヲ三十日以内ニ申請スヘシ

前項ノ登録ニ關シテハ第二十九條第一項但書、第二項、第三項及第四十二條ノ規定ヲ準用ス

第四十三條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第四十三條ノ二 第三十一條第三十三條第三十四條及第三十五條第一項ノ規定ハ登録證ニ關シ之ヲ準用ス

第四十六條中「登録シタル入漁者及」ヲ削除シ第二項中「前條ノ規定ハ」ノ次ニ「登録シタル入漁者ノ權利並」ヲ加フ

第四十八條中「前五條」トアルヲ「第四十三條及第四十四條乃至第四十七條」ニ改ム

第四十九條中「第二號及第四號」トアルヲ「第二號、第四號乃至第六號ノ二、第六號ノ四」ニ改ム

第六十五條第一號中「又ハ第五十六條ノ規定ニ違背シタルトキ」トアルヲ「第五十六條ノ規定ニ違背

シ又ハ入漁者ノ權利ニ付相續、讓渡若ハ共有アリタル場合ニ登録證ノ書換ヲ申請セサルトキ」ニ改
 第六十六條第一號中「又ハ第五十七條ノ規定ニ違背シタルトキ」トアルヲ「第五十七條ノ規定ニ違背
 シ又ハ第四十二條ノ二、第二項第四號ニ掲ケタル事項ニ變更ヲ生シタル場合若ハ代表者ニ變更アリ
 タル場合ニ訂正若ハ書換ヲ申請セス又ハ入漁ノ權利ヲ消滅シタル場合ニ於テ登録證ヲ返納セサル
 トキ」ニ改ム

〔參照〕

農商務省令第七號漁業法施行規則(明治三十五年五月十七日抄録)

第十八條 二人以上共同シテ漁業ニ關スル權利ヲ享有行使シ又ハ漁業ニ關シ出願者ハ申請ヲ爲ストキハ内一人ヲ選定シテ

代表者ト爲シ之ヲ行政官廳ニ届出テ又ハ出願者ハ申請ノ書面ニ記載スヘシ代表者ノ變更アリタルトキ亦同シ

第二十五條 從來ノ慣行又ハ契約ニ因リ共有ノ性質ヲ有スル入會ヲ爲シタル者カ從來ノ慣行ニ因リ專用漁業ノ免許ヲ受ケ

ムトスルトキハ入會漁業者連印シテ出願スヘシ但シ連印ヲ爲ササル者アルトキハ其ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ願書ニ添

附スヘシ

第二十八條 漁業免許ヲ與フルトキハ免許狀ニ漁場圖ノ副本ヲ添附シテ之ヲ下付スヘシ

第二十九條 前條第二項第六號及第七號ニ掲ケタル事項又ハ漁場ノ區域ヲ變更セムトスルトキハ願書ニ免許狀ヲ添附シ變

更ノ免許ヲ行政官廳ニ出願スヘシ但シ漁場ノ區域ヲ變更セムトスルトキハ第二十四條ノ規定ニ依リ漁場圖正副二通ヲ作

製シテ添附スヘシ

前項ノ出願ヲ免許スルトキハ更ニ免許狀ヲ下付スヘシ但シ漁場ノ區域ノ變更ヲ免許スルトキハ之ニ漁場圖ノ副本ヲ添附

スヘシ

第三十八條 行政官廳ハ免許漁業原簿ヲ備ヘ左ノ事項ヲ登録スヘシ

六 入漁ニ關シテハ入漁者ノ權利義務及入漁者又ハ其ノ代表者ノ氏名若ハ名稱及住所

十 漁業權ノ消滅ニ關シテハ其ノ事由及年月日

前項第五號及第六號ニ掲ケタル事項ハ申請ニ因リ之ヲ登録スルモノトス

第四十二條 他人ノ專用漁場ニ入漁スル權利ヲ有スル者登録ヲ受ケムトスルトキハ當事者雙方連印シテ之ヲ申請スヘシ但

シ連印ヲ得ルコト能ハサルトキハ事由ヲ具シテ之ヲ申請スヘシ

- 第二十六條ノ入漁者前項ノ登録ヲ申請スルトキハ申請書ニ其ノ權利ヲ證明スヘキ書面ヲ添付スヘシ
- 第四十三條 登録シタル入漁者ノ權利義務ニ變更ヲ生シタルトキハ事由ヲ具シ三十日以内ニ變更ノ登録ヲ申請スヘシ
- 第四十六條 登録シタル入漁者及借主ノ權利並漁業權共有者、登録シタル共同入漁者及共同借主ノ持分ニ相續、譲渡者ハ共有アリタルトキハ相續人又ハ當事者雙方ハ其ノ事由ヲ證明スヘキ書面ヲ添付三十日以内ニ登録ヲ申請スヘシ
- 前條ノ規定ハ前項ノ權利及持分ニ之ヲ準用ス
- 第四十八條 前五條ノ外當事者ノ申請ニ因リテ登録シタル事項ニ變更ヲ生シ又ハ其ノ事項カ消滅シタルトキハ當事者ハ之ヲ證明スヘキ書面ヲ添付三十日以内ニ變更又ハ消滅ノ登録ヲ申請スヘシ但シ代表者ノ變更ハ此ノ限ニ在ラス
- 第四十九條 行政官廳ニ於テ第三十八條第一項第一號第二號及第四號乃至第十一號ニ掲ケタル事項ヲ登録シタルトキハ價行ノ公布式ニ依リテ之ヲ告示スヘシ
- 第六十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス
- 一 第三十三條第一項第五十一條第五十四條又ハ第五十六條ノ規定ニ違背シタルトキ
- 第六十六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ科料ニ處ス
- 一 第三十一條第三十三條第三十五條第一項又ハ第五十七條ノ規定ニ違背シタルトキ

○農商務省令第八號

明治三十五年農商務省令第十二號中左ノ通改正ス

明治三十九年三月二十八日

農商務大臣松岡康毅

- 第一條第四號ノ次ニ左ノ四號ヲ加ヘ第五號以下順次繰下シ
- 五 入漁ノ權利義務變更ノ登録申請書 每一件金五十錢
- 六 入漁登録證ノ訂正申請書 每一件金十錢
- 七 入漁登録證ノ書換申請書 每一件金二十錢
- 八 入漁登録證ノ再下付申請書 每一件金二十錢

〔參照〕

農商務省令第十二號(明治三十五年六月十三日)抄録

第一條 漁業ニ關シ左ニ掲ケル事項ヲ發出ス者ハ手数料トシテ下ニ定ムル金額ヲ納ムヘシ

○農商務省令第九號

明治三十八年農商務省令第七號蠶病豫防法施行規則中左ノ通改正ス

明治三十九年三月三十日

農商務大臣松岡康毅

- 第五條中「燒棄シ又ハ」ノ下ニ「熱湯」ヲ加ヘ「テ之ヲ滅殺シ」ヲ削除シ「乾燥」ノ下ニ「シ又ハ熱湯中ニ投入シテ其ノ病源ヲ滅殺」ヲ加フ
- 第六條中「他ニ移シ病蠶」ノ下ニ「及蟻蠶」ヲ加ヘ「準」テ滅殺ヲ「據リテ處理」ニ改メ「其ノ蠶室以下ヲ其ノ蠶室ニハ」フオルマリシ「ヲ撤布シ蠶具ニハ」フオルマリシ「撤布消毒蒸氣消毒又ハ蟻酸アルデヒート」瓦斯消毒ヲ行フヘシニ改ム
- 第七條第一項但書ヲ左ノ通改ム
- 但シ繭ノ障板ニ接觸スル場合ニ於テハ其ノ繭ノ高サヨリ二寸以上ヲ保タシムヘシ
- 第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加ヘ第二項中「前項」ヲ「第一項」ニ「第三項中第一項又ハ第二項」ヲ「蠶阻若ハ其ノ繭ノ散逸ヲ防止スヘキ」ニ改ム
- 蠶阻及其ノ繭ノ散逸ヲ防クニ足ルヘキ構造ノ室ナルトキ又ハ同様ノ容器中ニ生繭ヲ保存スル場合ニ於テハ前項ノ設備ヲ爲スヲ要セス
- 第十條第一項中其ノ使用後ヲ削除シ左ノ但書ヲ加フ
- 但シ新築ノ蠶室又ハ新繭ノ蠶具ニシテ當該吏員必要ナシト認めタルモノハ此ノ限ニ在ラス
- 第二項ヲ削除シ第三項中第一項又ハ第二「項」ヲ「前」ニ改ム
- 第十六條ニ左ノ但書ヲ加フ

第二十六條ノ入漁者前項ノ登録ヲ申請スルトキハ申請書ニ其ノ權利ヲ證明スルハキ書面ヲ添付スヘシ
 第四十三條 登録シタル入漁者ノ權利義務ニ變更ヲ生シタルトキハ事由ヲ具シ三十日以内ニ變更ノ登録ヲ申請スヘシ
 前條ノ規定ハ前項ノ申請ニ之ヲ準用ス
 第四十六條 登録シタル入漁者及借主ノ權利或漁業權共有者、登録シタル共同入漁者及共同借主ノ持分ニ相續、譲渡者ハ共
 有アリタルトキハ相續人又ハ當事者雙方ハ其ノ事由ヲ證明スヘキ書面ヲ添ヘ三十日以内ニ登録ヲ申請スヘシ
 前條ノ規定ハ前項ノ權利及持分ニ之ヲ準用ス
 第四十八條 前五條ノ外當事者ノ申請ニ因リテ登録シタル事項ニ變更ヲ生シ又ハ其ノ事項カ消滅シタルトキハ當事者ハ之
 ノ體スヘキ書面ヲ添ヘ三十日以内ニ變更又ハ消滅ノ登録ヲ申請スヘシ但シ代表者ノ變更ハ此ノ限ニ在ラス
 第四十九條 行政官廳ニ於テ第三十八條第一項第一號第二號及第四號乃至第十一號ニ掲ケタル事項ヲ登録シタルトキハ價
 行ノ公布式ニ依リテ之ヲ告示スヘシ
 第六十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス
 一 第三十三條第一項第五十一條第五十四條又ハ第五十六條ノ規定ニ違背シタルトキ
 第六十六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ科料ニ處ス
 一 第三十一條第三十三條第二項第三十五條第一項又ハ第五十七條ノ規定ニ違背シタルトキ

○農商務省令第八號

明治三十五年農商務省令第十二號中左ノ通改正ス

明治三十九年三月二十八日

農商務大臣松岡康毅

- 第一條第四號ノ次ニ左ノ四號ヲ加ヘ第五號以下順次繰下ク
- 五 入漁ノ權利義務變更ノ登録申請書 每一件金五十錢
- 六 入漁登録證ノ訂正申請書 每一件金十錢
- 七 入漁登録證ノ書換申請書 每一件金二十錢
- 八 入漁登録證ノ再下付申請書 每一件金二十錢

〔參照〕

農商務省令第十二號(明治三十五年六月十三日)抄録

○農商務省令第九號

明治三十八年農商務省令第七號蠶病豫防法施行規則中左ノ通改正ス

明治三十九年三月三十日

農商務大臣松岡康毅

第一條 漁業ニ關シ左ニ掲ケル書類ヲ提出ス者ハ手数料トシテ下ニ定ムル金額ヲ納ムヘシ
 第五條中「燒棄シ又ハ」ノ下ニ「熱湯」ヲ加ヘ「テ之ヲ滅殺シ」ヲ削除シ「乾燥」ノ下ニ「シ又ハ熱湯中ニ投
 入シテ其ノ病原ヲ滅殺」ヲ加フ
 第六條中「他ニ移シ病蠶」ノ下ニ「及蟻蠶」ヲ加ヘ「俾シテ滅殺」ヲ「據リテ處理」ニ改メ「其ノ蠶室以下」ヲ
 「其ノ蠶室ニハ」ヲ「オルマリン」ヲ撤布シ「蠶具ニハ」ヲ「オルマリン」撤布消毒、蒸氣消毒又ハ蟻酸アルデ
 ヒート瓦斯消毒ヲ行フヘシニ改ム
 第七條第一項但書ヲ左ノ通改ム
 但シ繭ノ障板ニ接觸スル場合ニ於テハ其ノ繭ノ高サヨリ二寸以上ヲ保タシムヘシ
 第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加ヘ第二項中「前項」ヲ「第一項」ニ「第三項中第一項又ハ第二項」ヲ「蠶蛆若
 ハ其ノ蛹ノ散逸ヲ防止スヘキ」ニ改ム
 蠶蛆及其ノ蛹ノ散逸ヲ防クニ足ルヘキ構造ノ室ナルトキ又ハ同様ノ容器中ニ生繭ヲ保存スル場
 合ニ於テハ前項ノ設備ヲ爲スヲ要セス
 第十條第一項中其ノ使用後ヲ削除シ左ノ但書ヲ加フ
 但シ新築ノ蠶室又ハ新調ノ蠶具ニシテ當該吏員必要ナシト認メタルモノハ此ノ限ニ在ラス
 第二項ヲ削除シ第三項中第一項又ハ第二「」ヲ「前」ニ改ム
 第十六條ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ不越年原種ニ在リテハ第三號ノ検査ハ第二號ノ検査前ニ之ヲ行フコトヲ得

第十八條第二項但書ヲ第三項トシ「病毒」ノ上ニ前項検査ノ場合ニ於テ「ヲ加フ

第十九條中「不越年製絲用種」ノ下「ノヲ」ハ其ノ「ニ」ハ之ヲ無効ヲ「ニ」ニ様式第九號消印ヲ押捺シ之ヲ

第二十条中「ニ依ル不越年製絲用種」ノ卵ト出殼鹵ヲ削除シ「第二項但書ニ依ル製絲用種卵」ヲ「第三

第二十三條ニ左ノ但書ヲ加フ
但シ不越年原種ノ卵ト出殼鹵ノ検査ハ地方長官カ第四十六條ノ手續中ニ之ヲ規定シタル場合ニ

第二十七條第二項中「原種用ト製絲用」ノ下及「蠶紙ノ敷製絲用」ノ下ニ種用ヲ加フ第三項中原種用

第二十八條中「第二項但書」ヲ「第三項」ニ改ム
第二十九條ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ蠶兒ヲ讓渡シタル場合ニ於テ其ノ蠶兒ノ掃殻ハ此ノ限ニ在ラス
第三十四條第一項「押捺」ノ下ニ「シ」其ノ有毒印ヲ押捺シタル區ハ之ヲ不合格トシ「第二項中「亡失」ノ

第五項中「自己ノ認印」以下ヲ「様式第十五號繼印」ノ押捺ヲ受クヘシ」ニ改ム

第三十六條ニ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ場合ニ於テ地方長官病毒存在ノ疑アリト認ムルトキハ顯微鏡ヲ用井テ卵ノ検査ヲ行フコ

第四十條第一項中「其ノ都度」及「第四項」ヲ削除ス

第四十條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ
第四十條ノ二 前條ノ認可ヲ受ケムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ農商務大臣ニ差出

- 一 名稱及所在
- 二 研究ノ目的
- 三 研究ノ方法

四 研究ニ従事スル者及之ヲ主管スル者ノ姓名並履歷ノ要領

但シ他人ヨリ讓受ケタル蠶兒又ハ鹵ヲ以テ製造シタル原種ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第三項ヲ削除ス

第四十二條第二項ヲ削除ス

第四十二條ノ次ニ左ノ二條ヲ加フ
第四十二條ノ二 第四十條ノ二第一號乃至第三號若ハ第四十二條第一號乃至第三號ニ掲ケタル事

第四十二條ノ三 農商務大臣必要アリト認ムルトキハ第四十條又ハ第四十一條ノ認可ヲ取消スコトヲ得

第四十八條中「第十三條」ノ上ニ「第二條」ヲ「讓渡シ」ノ下ニ「若ハ情ヲ知リテ讓受ケ」ヲ加フ

第二號中「場所欄」字ノ下ニ「番地」ヲ加フ
第三號ヲ左ノ通改ム

年月日
道廳府縣郡市町村字番地(製造ノ場所)
蠶種製造者 氏名
蠶病消毒濟證
道廳府縣 印

第十三號「朱」ヲ「青」ニ改ム
第十九號第六表備考中ニ第二項トシテ左ノ一項ヲ加フ
蠶製ノ製絲用種アルトキハ前項ニ準スヘシ
本令ハ明治三十九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

農商務省令第七號蠶病豫防法施行規則(明治三十八年二月二十五日)抄録
第五條 蠶種製造者又ハ養蠶者蠶兒ノ四齡以後ニ於テ病蠶ヲ發見シタルトキ又ハ蠶師若ハ蠶師ヲ發見シタルトキハ直チニ之ヲ燒棄シ又ハ「フオルマリ」ニ若ハ石灰水中ニ投入シテ之ヲ滅殺シ死體腐又ハ蠶皮腐ヲ發見シタルトキハ直チニ之ヲ乾燥スヘシ

第六條 蠶兒飼育中多數ノ病蠶ヲ生シ蠶病蔓延ノ虞アル場合ニ於テハ蠶種製造者又ハ養蠶者ハ蠶兒ヲ他ニ移シ病蠶ヲ前條ニ規定シタル方法ニ準シテ滅殺シ其ノ蠶室及器具ニ「フオルマリ」ヲ撒布スヘシ

第七條 蠶種製造者、養蠶者、生絲製造者又ハ生繭ノ賣買者ハ蠶師乾菌ニ從事スル者ハ生繭ヲ集散又ハ保存スル室ニ蠶蛆及其ノ蛹ノ放逐ヲ防クニ足ルヘキ目振ヲ爲シ又ハ濾紙其ノ他適當ナル目ノ敷物ヲ布キ且室ノ内圍ニ下部ヨリ二寸ヲ下ラサル障板ヲ設クヘシ但シ蠶蛆及其ノ蛹ノ放逐ヲ防クニ足ルヘキ構造ノ室ナルトキ又ハ同様ノ容器中ニ生繭ヲ保存スル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ハ室ノ一部ニ生繭ヲ集散又ハ保存スル場合ニ之ヲ準用ス

當該吏員第一項又ハ第二項ノ設備不完全ナリト認ムルトキ又ハ蠶蛆若ハ其ノ蛹潛伏ノ虞アリト認ムルトキハ床下掃除又ハ蠶蛆若ハ其ノ蛹ノ滅殺ヲ行フヘキコトヲ命スヘシ

第十條 蠶種製造者ハ養蠶ノ季節毎ニ地方長官ノ定ムル規定ニ從ヒ蠶室ニ付テハ左記第一號又ハ第二號ニ定メタル方法、器具ニ付テハ左記各號ノ一ニ定メタル方法ニ依リ其ノ使用後消毒ヲ行フヘシ

- 一 「フオルマリ」ヲ撒布消毒
- 二 蠶種アルテロー「式」消毒
- 三 蒸氣消毒

前項ノ消毒ハ使用前ニ於テ之ヲ行フコトヲ妨ケス此ノ場合ニ於テハ次ノ季節ニ於テモ亦使用前消毒ヲ行フヘシ

當該吏員第一項又ハ第二項ノ消毒ヲ完全ナリト認ムルトキハ機械式第三號蠶病消毒濟證ヲ蠶種製造者ニ下付シ不完全ナリト認ムルトキハ更ニ之ヲ行フヘキコトヲ命スヘシ

第十六條 蠶病豫防法第十條ニ依ル検査ハ左ノ順序ニ依リ之ヲ行フ

- 一 收繭後ニ於テ繭ト原種ノ掃殺ノ検査
- 二 繭卵後ニ於テ卵ト出殼繭ノ検査
- 三 原種ニ在リテハ前二號ニ掲ケタルモノノ外其ノ製造ニ供用シタル原種ノ検査

第十八條 地方長官必要ト認ムルトキハ不越年製絲用種ノ卵ノ検査ヲ受ケシムルコトヲ得

前項ノ検査ハ肉眼ニ依リ卵ト出殼繭トヲ對照シテ之ヲ行フ但シ病潛存在ノ疑アリト認ムルトキハ顯微鏡ヲ用テ卵ノ検査ヲ行フコトヲ得

第十九條 卵ノ顯微鏡検査ハ蠶種一枚ニ付十鏡面ヲ檢シ四鏡面以上ノ微粒子ヲ發見シタルトキハ越年製絲用種ハ之ヲ不適合格トシ不越年製絲用種ノ検査合格ノ蠶印ハ之ヲ無効トス

第二十條 第十六條第一號ノ検査、同條第二號ニ依ル越年製絲用種ノ検査並第廿八條第二項ニ依ル不越年製絲用種ノ卵ト出殼繭ノ検査ハ蠶種製造ノ場所ニ付テ之ヲ行フ第廿六條第三號ノ検査第廿七條但書又ハ第廿八條第二項但書ニ依ル製絲用種卵ノ検査並第廿六條第二號ニ依ル不越年製絲用種ノ卵ト出殼繭ノ検査ハ蠶病豫防事務所ニ於テ之ヲ行フ

第二十三條 蠶種製造者ハ第十六條第一號ノ検査ヲ終ル迄發給及附テ第十六條第二號ノ検査ヲ終ル迄出殻ノ蠶種製造ノ場所以外ニ搬出スルコトヲ得ス

第二十七條 蠶種製造者不越年蠶種ノ種簡明書ノ下付ヲ受ケタルトキハ表面ニ産卵セシムヘキ蠶數ヲ記載シタル蠶紙及種簡明書ヲ所轄蠶病豫防事務所ニ差出シ原種用ノ印又ハ製絲用種検査合格ノ印ヲ捺捺シテコトヲ得

前項ノ請求アリタルトキハ機式第六號原種用ノ印又ハ機式第七號製絲用種検査合格ノ印ヲ捺捺シテ裏面ニ捺捺シ原種用ト製絲用トニ區別シ原種用ニ在リテハ蠶紙ノ數製絲用ニ在リテハ蠶紙及母蠶ノ數ヲ種簡明書ノ餘白ニ記載ス

原種用ノ印又ハ製絲用種検査合格ノ印ハ第十六條第二號又ハ第十八條第二項ノ検査ニ合格セサルトキハ之ヲ無効トス

第二十八條 不越年蠶種ニシテ第十六條第二號第十八條第二項又ハ第十八條第二項ノ検査ニ合格シタルトキハ種簡明書ニ機式第八號出殻検査済ノ印ヲ捺捺シ蠶種製造ニ供用セザリシ蠶紙アルトキハ前條第二項ニ依リ捺捺シタル印ニ機式第九號消印ヲ捺捺ス

第二十九條 蠶種製造者不越年原種ノ第十六條第二號及第三號ノ検査ヲ受ケムトスルトキハ製造後直チニ原種出殻及母蠶ヲ所轄蠶病豫防事務所ニ差出スヘシ

第三十四條 母蠶ノ顯微鏡検査ニ於テ微粒子ヲ發見シタルトキハ機式第十一號有毒ノ印ヲ捺捺シテ發見セサルトキハ機式第十二號無毒ノ印ヲ捺捺シタル區ニ捺捺ス

第三十條 母蠶ノ發見シタルトキハ機式第十三號缺蠶ノ印ヲ捺捺シタル區ニ捺捺ス

有毒ノ印又ハ缺蠶ノ印ヲ捺捺シタル區ハ之ヲ除去シタル後蠶紙ノ裏面ニ機式第十四號原種検査合格ノ印ヲ捺捺ス

蠶種製造者除去セラレタル缺蠶ノ印又ハ有毒ノ印ヲ捺捺シタル區ニ無毒ノ印ヲ捺捺シタル區ヲ填補セムトスルトキハ所轄蠶病豫防事務所ニ於テ之ヲ爲スヘシ此ノ場合ニ於テハ其ノ蠶目ニ機式第十五號機印ヲ捺捺ス

前項ノ場合ニ於テ填補セムトスル無毒ノ印ヲ捺捺シタル區ハ第十六條第三號ノ検査前蠶種蠶紙ノ各區ニ化性及蠶種ノ名稱ヲ記載シタルモノナルトキハ填補セラルヘキモノト同一ノ化性及蠶種ノ名稱ヲ有スル場合ニ限リ所轄蠶病豫防事務所以外ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ蠶目ニ自己ノ認印ヲ捺捺スヘシ

第三十六條 原種ノ製造ニ供用シタル母蠶カ亡失又ハ混亂シタルトキハ其ノ蠶種ニ對シ製絲用種検査合格ノ認印ヲ請求スルコトヲ得

第四十條 學術研究ノ爲メ蠶種製造、養蠶、生絲製造又ハ設備改良ヲ爲サントスル者ハ其ノ都府農商務大臣ノ認可ヲ受ケヘシ

農商務大臣必要アリト認ムルトキハ第一項ノ認可ヲ取消スコトヲ得

第四十二條 前條ノ認可ヲ受ケムトスル學校、講習所又ハ試驗場ハ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ

- 一 名稱及所在
- 二 蠶種ニ關スル設備
- 三 蠶種ノ製造、検査及配付ニ關スル規程
- 四 蠶種ニ關スル職員ノ氏名及職階

前項第一號乃至第三號ニ掲ゲタル事項ヲ變更シ又ハ職員ニ異動ヲ生シタルトキハ直チニ其ノ旨ヲ農商務大臣ニ届出ツヘシ

第四十八條 第十三條第二十三條、第二十四條ニ違背シタル者第十四條第二項不越年蠶種ニ關スル規定ニ違背シタル者又ハ産卵ニ供用セザリシ蠶紙ニシテ第二十八條ノ消印ナキモノヲ他人ニ譲渡シタル者ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

○農商務省令第十號

産業試験費講習費國庫補助法施行規則左ノ通相定ム

農商務大臣松岡康毅

明治三十九年三月三十一日

産業試験費講習費國庫補助法施行規則

第一條 明治三十九年法律第九號産業試験費講習費國庫補助法ニ規定スル補助金ハ本則ニ依リ之ヲ交付ス

第二條 北海道及府縣試驗場講習所補助金ノ交付ヲ受ケムトスルトキハ地方長官ハ申請書ニ其ノ試驗場講習所ノ收支豫算書ヲ添附シテ農商務大臣ニ差出スヘシ

前項ノ收支豫算書ニハ前年度豫算額及之ニ對スル比較増減ヲ示シ且其ノ細目ニ付詳細ナル説明ヲ附スヘシ

試驗場講習所カ新ニ設立セラレタル場合ニ於テハ其ノ年度ニ限リ前項ノ規定ヲ適用セス

第三條 地方長官ハ補助年期間毎年十二月限り翌年度ノ收支豫算書ヲ差出シ農商務大臣ノ認可ヲ

受クヘシ

豫算ノ變更又ハ追加豫算ニ付テハ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第四條 補助金額ハ月割ヲ以テ交付ス但シ用途ヲ指定シ特別ニ交付スル補助金ハ此ノ限ニ在ラス

第五條 補助金ハ四月及十月ニ交付ス但シ新ニ許可シタル場合又ハ用途ヲ指定シタル場合ニ於テ交付スル補助金ハ此ノ限ニ在ラス

第六條 郡市區試験場講習所試験材料、機械又ハ装置ノ費用補助金ノ交付ヲ受ケムトスルトキハ郡市區長ハ申請書ニ材料、機械装置ニ要スル費用概算書及詳細ナル説明書ヲ添附シ地方長官ヲ經由シテ農商務大臣ニ差出スヘシ

第七條 地方長官ハ毎年道會又ハ府縣會ノ承認ヲ經テ補助ヲ受ケタル試験場講習所ノ前年度收支決算書ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ

前項ノ規定ハ郡市區試験場講習所ニ之ヲ準用ス此ノ場合ニ於テハ郡市區長ヨリ差出スヘキ書類ハ地方長官ヲ經由スヘシ

附則

第八條 本則ハ明治三十九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十二年農商務省令第十九號府縣農事試驗場國庫補助法施行規則ハ之ヲ廢止ス

○逓信省令第八號

明治三十八年二月逓信省令第四號ハ之ヲ廢止ス

明治三十九年三月十四日

逓信大臣山縣伊三郎

〔參照〕

明治三十八年二月逓信省令第四號ハ明治三十二年省令第四十八號(在清國本邦郵便局ニ於テ賣下ヘキ郵便切手ニハ支那ノ文字ヲ赤色又ハ黑色ヲ以テ印刷シ之カ符號トスルノ件)ヲ野戰郵便局ニ適用セサルノ件ナリ

○逓信省令第九號

明治三十年十二月逓信省令第三十二號電話料及電話呼出料ノ部中左ノ通改正シ本月十六日ヨリ施行ス

明治三十九年三月十五日

逓信大臣山縣伊三郎

〔湯水箱根間〕ノ次ニ左ノ通加フ

小倉八幡間 金二十錢 金十錢

若松八幡間 金二十錢 金十錢

高崎大宮間ノ次ニ左ノ通加フ

直方八幡間 金二十五錢 金十五錢

飯塚八幡間 金二十五錢 金十五錢

福岡八幡間 金二十五錢 金十五錢

門司八幡間 金二十五錢 金十五錢

下關八幡間 金二十五錢 金十五錢

○逓信省令第十號

明治三十三年九月逓信省令第四十五號郵便爲替規則第十條第一項中「伊豆諸島ノ下」及「臺灣」ヲ「臺灣及樺太」ト改メ同第二項中「千島國」ノ下ニ「及樺太」ヲ追加ス

明治三十九年三月十七日

逓信大臣山縣伊三郎

〔參照〕

逓信省令第四十五號郵便爲替規則(明治三十三年九月一日)抄録

第十條 千島開球諸國小笠原島伊豆諸島及臺灣ニ設置シタル郵便局所ト取組ミタル郵便爲替證書ノ有効期間ハ百二十日トス但シ同一國內又ハ同一島内ニ取組ミタルモノハ此ノ限ニ在ラス
千島開ニ設置シタル郵便局所ト取組ミタル通幣爲替證書及電信爲替證書ニ對シテハ毎年十二月一日ヨリ翌年四月三十日マテハ其ノ有効期間ニ算入セス

○逓信省令第十一號

明治三十八年三月三十一日逓信省令第十三號ハ本月三十一日限り之ヲ廢止ス

明治三十九年三月三十日

逓信大臣山縣伊三郎

〔參照〕

明治三十八年三月三十一日逓信省令第十三號ハ當分ノ内長距離電話ハ電信法第四條ニ依リ軍事上直接ノ關係ヲ有スル官廳公署及公共團體等ノ加入電話機ニ依ル相互間ノ通話ニ限ル件ナリ

○逓信省令第十二號

明治三十年三月二十二日逓信省令第三十二號中左ノ通改正シ本年四月一日ヨリ施行ス

明治三十九年三月二十日

逓信大臣山縣伊三郎

- 一 附加使用料ノ部中「長距離電話」ノ一項ヲ左ノ通改正
 - 一 長距離電話 年額 一箇毎ニ 普通金六圓 特別金十二圓
 - 二 電話料及電話呼出料ノ部中左ノ通追加
- 「甲府千葉間」ノ次ニ 金五十錢 金二十錢
- 「廣島岡山間」ノ次ニ 金五十錢 金二十錢
- 「佐世保小倉間」ノ次ニ 金五十五錢 金二十錢
- 「岡山吳間」 金五十五錢 金二十錢
- 「若松佐世保間」 金五十五錢 金二十錢

「廣島小倉間」ノ次ニ	若松吳間	金六十錢	金二十錢
「下關佐世保間」ノ次ニ	廣島若松間	金六十五錢	金二十錢
	小倉吳間	金六十五錢	金二十錢
「神戸半田間」ノ次ニ	廣島福間	金七十五錢	金二十錢
	福間吳間	金八十五錢	金二十錢
「横濱半田間」ノ次ニ	大阪廣島間	金九十五錢	金二十錢
	名古屋横濱廣島間	金九十五錢	金二十錢
「名古屋岡山間」ノ次ニ	大阪吳間	金一圓	金二十五錢
「廣島佐世保間」ノ次ニ	京都廣島間	金一圓十錢	金二十五錢
	「神戸門司間」ノ次ニ	金一圓三十錢	金二十五錢
	京都横濱廣島間	金一圓四十錢	金二十五錢
「茨木池上間」ノ次ニ	大阪下關間	金一圓四十錢	金二十五錢
	大阪門司間	金一圓四十錢	金二十五錢
	神戸小倉間	金一圓四十錢	金二十五錢

神戸若松間	金一圓四十錢	金二十五錢
大阪横須賀間	金一圓四十錢	金二十五錢
京都浦和間ノ次ニ		
大阪小倉間	金一圓五十錢	金二十五錢
大阪若松間	金一圓五十錢	金二十五錢
神戸若松間	金一圓五十錢	金二十五錢
神戸横須賀間	金一圓五十錢	金二十五錢
堺浦和間ノ次ニ		
京都下關間	金一圓六十錢	金二十五錢
京都門司間	金一圓六十錢	金二十五錢
大阪門司間	金一圓六十錢	金二十五錢
神戸浦和間ノ次ニ		
京都福岡間	金一圓八十錢	金二十五錢
神戸長崎間ノ次ニ		
東京岡山間	金二圓	金二十五錢
大阪佐世保間	金二圓	金二十五錢
大阪長崎間	金二圓十錢	金二十五錢
京都長崎間	金二圓十錢	金二十五錢
横濱廣島間	金二圓四十錢	金二十五錢
廣島横須賀間	金二圓四十錢	金二十五錢
吳横須賀間	金二圓四十錢	金二十五錢
東京吳間ノ次ニ		
横濱門司間	金二圓九十錢	金二十五錢
横須賀門司間	金二圓九十錢	金二十五錢

「東京小倉間」ノ次ニ

東京福岡間	金三圓二十錢	金二十五錢
横濱長崎間	金三圓五十錢	金二十五錢
長崎横須賀間	金三圓五十錢	金二十五錢

○逓信省令第十三號
 明治三十三年九月逓信省令第五十號私設電信ニ依ル公衆通信取扱規則中左ノ通改メ本年四月一日ヨリ施行ス

明治三十九年三月三十一日

逓信大臣山縣伊三郎

第三條 公衆通信ノ取扱ヲ爲サシムルトキハ電報取扱料トシテ左ノ區別ニ依リ其ノ私設者ニ之ヲ支給ス但シ同文電報ノ送受ニ對シ支給スヘキ料金ハ第一號乃至第四號料金ノ半額トス

- 一 官報、私報ノ發信 一通毎ニ金五錢
- 二 官報、私報ノ著信 一通毎ニ金四錢
- 三 官報、私報ノ中繼信 一通毎ニ金五錢
- 四 官報、私報ノ交換通信 一通毎ニ金一錢
- 五 電報直配達區域内ノ配達 一通毎ニ金四錢

第四條ヲ删除ス
 第七條ニ左ノ但書ヲ加フ
 但シ第三條ノ取扱料金ハ鐵道所屬ノモノヲ除クノ外當該官廳ノ請求ナキトキハ之ヲ支給セス

〔參照〕

逓信省令第五十號私設電信ニ依ル公衆通信取扱規則(明治三十三年九月一日)抄録
 第三條 私設ノ電報又ハ電話ヲ以テ公衆通信ノ取扱ヲ爲サシムルトキハ其ノ私設者ノ請求ニ依リ電報取扱料ヲ支給ス

前項電報取扱料ハ電報料ノ三分ノ一以内トス
 第四條 前條ノ電報取扱料ハ公衆逓信取扱所ノ發信ニ付テハ其ノ發信所ノ私設者ニ郵便電信局電信局ノ發信ニ付テハ其ノ
 發信所ノ私設者ニ之ヲ支給ス
 第七條 此ノ規則ハ明治三十三年九月勅令第三百五十六號第二項ニ依リ公衆逓信ノ用ニ供スル電信電話ニ之ヲ準用ス

○逓信省令第十四號

明治三十年三月十二號逓信省令第三十二號電話料及電話呼出料ノ部中左ノ通改正シ來四月一日ヨリ施行
 ス

明治三十九年三月三十一日

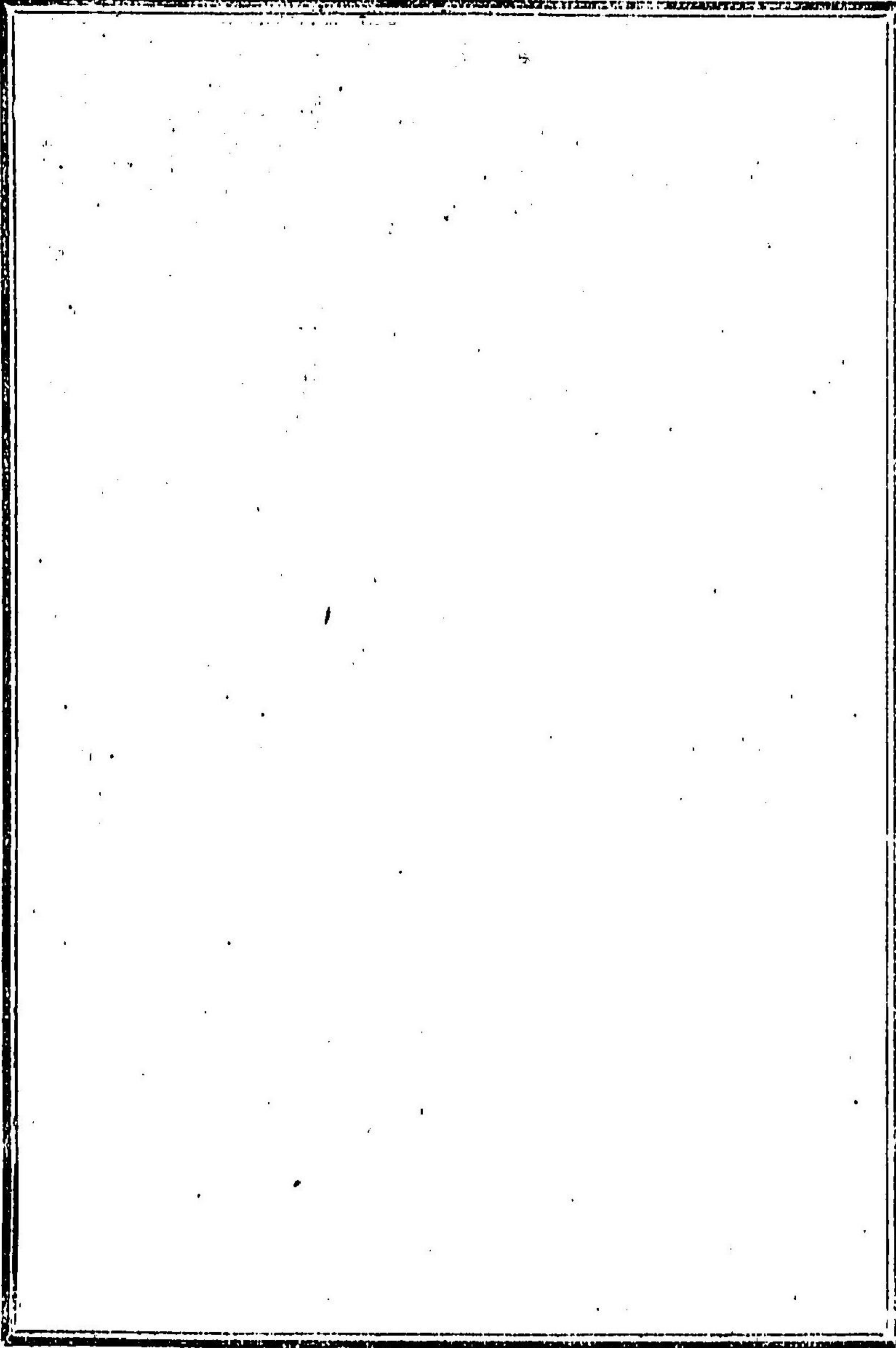
逓信大臣山縣伊三郎

下關八幡間ノ次ニ左ノ通加フ

豐橋岡崎間	金二十五錢	金二十五錢
豐橋龜崎間	金二十五錢	金二十五錢
豐橋中田間	金二十五錢	金二十五錢
豐橋一宮間	金二十五錢	金二十五錢
名古屋豐橋間	金二十五錢	金二十五錢
岡崎龜崎間	金二十五錢	金二十五錢
岡崎中田間	金二十五錢	金二十五錢
岡崎一宮間	金二十五錢	金二十五錢
名古屋岡崎間	金二十五錢	金二十五錢
岐阜岡崎間	金二十五錢	金二十五錢
桑名岡崎間	金二十五錢	金二十五錢
四日市岡崎間	金二十五錢	金二十五錢
東京箱根間ノ次ニ左ノ通加フ	金三十錢	金三十錢
岐阜豐橋間	金三十錢	金三十錢
桑名豐橋間	金三十錢	金三十錢

福岡大村間ノ次ニ左ノ通加フ

四日市豐橋間	金三十五錢	金三十五錢
津岡崎間	金三十五錢	金三十五錢
小樽増毛間ノ次ニ左ノ通加フ	金四十錢	金四十錢
津豐橋間	金四十錢	金四十錢
若松佐世保間ノ次ニ左ノ通加フ	金五十五錢	金五十五錢
京都岡崎間	金五十五錢	金五十五錢
若松吳間ノ次ニ左ノ通加フ	金六十錢	金六十錢
京都豐橋間	金六十錢	金六十錢
小倉吳間ノ次ニ左ノ通加フ	金六十五錢	金六十五錢
大阪岡崎間	金六十五錢	金六十五錢
堺半田間ノ次ニ左ノ通加フ	金七十錢	金七十錢
堺岡崎間	金七十錢	金七十錢
廣島福岡間ノ次ニ左ノ通加フ	金七十五錢	金七十五錢
大阪豐橋間	金七十五錢	金七十五錢
神戸岡崎間	金七十五錢	金七十五錢
横濱豐橋間	金七十五錢	金七十五錢
堺豐橋間	金八十錢	金八十錢
福岡吳間ノ次ニ左ノ通加フ	金八十五錢	金八十五錢
神戸豐橋間	金八十五錢	金八十五錢
東京豐橋間	金八十五錢	金八十五錢
横濱岡崎間	金八十五錢	金八十五錢
名古屋橫須賀間ノ次ニ左ノ通加フ	金九十五錢	金九十五錢
東京岡崎間	金九十五錢	金九十五錢



○内務省令第二號

東京府ニ於テ主管セル衛生事項中左ノ事項ハ警視廳主管トス

- 一 賣藥規則ニ依ル事務
- 一 藥品巡視ノ件
- 一 賣藥部外品ニ關スル事務
- 一 鍼灸術營業ニ關スル事務
- 一 入齒齒抜口中治療接骨營業ニ關スル事務
- 一 病院設立許否ニ關スル件

明治三十九年四月十八日

内務大臣原敬

○内務省令第三號

明治二十五年^{四月}内務省令第四號中左ノ通改正ス
「衛生試驗所」ノ下ニ「傳染病研究所」ノ六字ヲ加フ

明治三十九年四月二十八日

内務大臣原敬

〔參照〕

明治二十五年^{四月}内務省令第四號ハ内務省土木出張所及衛生試驗所ハ各其司業事務ニ係ル民事訴訟ニ付圖ヲ代表スル件ナリ

○大藏省令第十四號

第一條 煙草專賣法施行ノ際現存シタル内國製造卷煙草ヲ販賣スル者ハ明治三十九年四月十日ニ於テ現ニ其ノ所持ニ係ル紙卷煙草及葉卷煙草ノ名稱及數量ヲ左記様式ニ準シ同月二十日限り所

糖葉煙草收納所ニ申告スヘシ

前項ノ卷煙草ニハ煙草專賣局ノ定メタル證券ヲ貼付ス
第二條 前條ノ卷煙草ニシテ包裝又ハ函ノ裝置ナキモノハ葉煙草收納所ノ指示スル數量毎ニ包裝
ヲ施スヘシ

明治三十九年四月二日

大藏大臣法學博士阪谷芳郎

(様式)

民製卷煙草現在高申告書

一紙卷煙草何々

何 本

但シ煙筒何本入何箇

何 本

一葉卷煙草何々

何 本

但シ煙筒何本入何箇

何 本

右申告候也

何 本

明治何年何月何日

營業場所在地

煙草販賣者 氏

名印

葉煙草收納所長宛

○大藏省令第十五號

明治三十七年六月大藏省令第二十六號中葉煙草收納所長又ハ煙草製造所長ヲ葉煙草收納所長煙草
製造所長又ハ煙草販賣所長ニ改ム

明治三十九年四月十三日

大藏大臣法學博士阪谷芳郎

〔参照〕

明治三十七年六月大藏省令第二十六號ハ煙草專賣法ニ依リ國稅徵收法ノ規定ヲ準用スル場合ニ同法施行細則準用ノ件
ナリ

○大藏省令第十六號

明治三十二年十月大藏省令第四十五號中「大藏省所管臨時稅關工事部」トアルヲ「大藏省臨時建築部」ニ
第三條第一項ヲ左ノ如ク改ム

第一項 店舗ニ關シテハ左ノ各號ノ一ニ該當スルコト

一 日本ニ本店ヲ有スル者ニシテ歐洲又ハ北米合衆國市府ニ支店若クハ代理店ヲ有スルカ或
ハ現ニ供給セントスル物品ノ製作地ニ於テ其物品購入ニ關スル件ヲ委任セル代理者ヲ有
スルコト

二 歐洲又ハ北米合衆國市府ニ本店ヲ有スル者ニシテ日本ニ支店若クハ代理店ヲ有スルコト
同第二項中「拾萬圓」トアルヲ「五萬圓」ニ改ム

同三十三年四月同第十八號中「臨時稅關工事部」トアルヲ「大藏省臨時建築部」ニ改ム又特種ノ機械ノ
製造若クハ「下ニ重要ナル」ヲ加フ

同三十三年十月同第三十二號ハ之レヲ廢止ス

明治三十九年四月二十一日

大藏大臣法學博士阪谷芳郎

〔参照〕

大藏省令第四十五號(明治三十二年十月十日)抄録
大藏省所管臨時稅關工事部用外國製船舶諸器械供給ノ競争ニ加ハラントスルモノハ會計規則第六十九條第一項ノ外尙本令
ニ據テ資格ヲ備フルコトヲ要ス
但シ種類ニ依リ特ニ之ヲ輕減スルコトアルヘシ

第三條 營業ニ關スル資格左ノ如シ

第一項 歐洲大陸市府英國市府若クハ北米合衆國市府ニ於テ支店又ハ代理店ヲ有スルカ又ハ現ニ供給セントスル物品ノ製造地ニ於テ其物品購入ニ關スル件ヲ委任セル代理者ヲ有スルコト
第二項 入札當時ノ年ヨリ起算シ既往三箇年中ノ少クモ一箇年ニ於テ總計金拾萬圓以上ノ外國製船舶諸器械類ノ供給契約ヲ完全ニ履行シタル確證アルコト

大藏省令第十八號(明治三十三年四月十四日)抄録
臨時稅關工部部ニ於テ要スル淺深船小蒸汽船特種ノ構造ヲ要スル材料運搬船汽機汽罐ヲ摺付クヘキ機軸蓋船其他之ニ準スヘキ船舶及特種ノ機軸ノ製造者クハ修繕ノ競争ニ加ハラントスル者ハ會計規則第六十九條ニ定メタル資格ノ外尙ホ左ノ資格ヲ備フルコトヲ要ス

明治三十三年十一月三日 大藏省令第三十二號ハ臨時稅關工部部用汽機汽罐供給競争者資格ノ件ナリ

○大藏省令第十七號

明治三十八年大藏省令第十八號鹽務局出張所名稱、位置及管轄區域中左ノ通改正ス

明治三十九年四月二十七日

大藏大臣法學博士阪谷芳郎

長崎ノ欄喜々津出張所管轄區域西彼杵郡ノ下喜々津村ノ前ニ矢上村ヲ加ヘ北高來郡ノ下眞津山村ヲ削ル
同欄早岐出張所管轄區域西彼杵郡ノ前ニ佐世保市ヲ加ヘ北松浦郡佐々村以下ヲ削ル
同欄伊萬里出張所管轄區域北松浦郡ノ下福島村ノ前ニ今福村、福島村ノ次ニ鷹島村ヲ加フ
同欄島原ノ次ニ左ノ如ク加フ

佐々	同縣北松浦郡佐々村	同縣	北松浦郡黑島村、江迎村、鹿町村、小佐々村、佐々村、吉井村、世知原村、中里村、山口村、大野村、香瀬村、柳木村
平戸	同縣同郡平戸町	同縣	北松浦郡黑島村、今福村、福島村、鷹島村、江迎村、鹿町村、小佐々村、佐々村、吉井村、世知原村、中里村、山口村、大野村、香瀬村、柳木村ヲ除ク

仙臺ノ欄石巻出張所管轄區域牡鹿郡ノ下ニ石巻町、蛸田村ヲ加フ
同欄石巻ノ次ニ左ノ如ク加フ

波 波 同縣同郡渡波町 同縣牡鹿郡(石巻町、蛸田村ヲ除ク)

金澤ノ欄輪島出張所管轄區域鳳至郡ノ下括弧内岩倉村ヲ削ル

同欄大谷出張所管轄區域ノ内鳳至郡岩倉村ヲ削ル

赤穂ノ欄大鹽出張所管轄區域ノ内飾磨郡ヲ削ル

同欄大鹽ノ次ニ左ノ如ク加フ

白 波 同縣飾磨郡白濱村 同縣飾磨郡

同欄網干ノ次ニ左ノ如ク加フ

新 渡 同縣赤穂郡新渡村 同縣 宍粟郡尾崎村、新濱村、坂越村、那波村、相生村、若狹野村、矢野村、高田村、上郡村、鞍屋村、赤松村

尾道ノ欄吳ノ前ニ左ノ如ク加フ

廣 島 廣島縣廣島市 廣島縣 廣島市、安藝郡仁保島村

同欄吳出張所管轄區域廣島縣吳市ヲ 同縣吳市ニ改メ、及安藝郡ノ下ニ(仁保島村ヲ除ク)ヲ加フ

三田尻ノ欄福川ノ次ニ左ノ如ク加フ

西 浦 同縣佐波郡西浦村 同縣佐波郡西浦村

○陸軍省令第二號

明治三十九年法律第二十號附則ニ依ル陸軍軍人恩給取扱手續左ノ通定ム

明治三十九年四月一日

陸軍大臣寺内正毅

第一條 明治三十九年法律第二十號附則ニ依リ恩給ヲ請求スル手續ハ同年閣令第一號ニ規定セルモノノ外此ノ細則ニ準據スヘシ

第二條 退職恩給免除恩給増加恩給賑恤金ノ更正請求書ハ第一乃至第三書式ニ示シタル書類ヲ具備シ所管聯隊區司令官ニ提出シ同官ハ之ヲ調査シ(退職恩給免除恩給ニ付テハ計)所管長官ニ呈シ所管長官ハ之ヲ陸軍大臣ニ進達スヘシ

第三條 増加恩給更正請求者ニシテ軍人恩給法第十條第二項ニ當ルモノハ其ノ請求書ニ第二書式備考ノ如ク附記シ且前ノ給與ニ關スル診斷證書ノ寫ヲ添附スヘシ

第四條 賑恤金更正請求者ニシテ明治三十九年法律第二十號附則第三項ニ當ルモノハ其ノ請求書ニ第三書式備考ノ如ク附記シ期限内ニ居住地所管ノ師團長ニ検査ヲ請求スヘシ

現役ヲ離レタル後未タ賑恤金ヲ受ケスシテ重症ニ趨キ若ハ免除恩給ヲ受クルカ爲賑恤金ヲ受ケサリシ者ニ在リテモ亦前項ニ準シ検査ヲ請求スヘシ

第五條 師團長前條ノ請求ヲ受ケタルトキハ醫官ヲシテ其ノ症狀ヲ實查セシメ診斷證書(陸軍軍取扱手續第五書式ニ準ス)ヲ作ラシム其ノ診斷證書ノ審査ニ係ル取扱ハ陸軍軍人恩給取扱手續第三條ノ例ニ依ル

第六條 賑恤金更正請求者ニシテ既ニ受ケタル辭令書ヲ保存セサル者ニ在リテハ閣令第一號第一條第三號ニ依リ第四書式ノ證明書ヲ添附スヘシ

第七條 閣令第一號第二條第二項ノ傷疾疾病ノ等差ノ策定ニ關スル書式ハ第五書式ニ依ル

第八條 本手續ニ於テ特別ノ規定ヲ設ケサルモノハ總テ陸軍軍人恩給取扱手續ノ例ニ依ル

第一書式(用紙美濃白紙)

退職(免除)恩給更正請求書

明治三十何年何月何日現役ヲ離レ退職(免除)恩給下賜相成候處明治三十九年法律第二十號附則ニ依リ更正下賜相成度履歷書及恩給證書相添此段請求仕候也

年 月 日

所管長官宛

何府(縣)何市區(郡)何村(番地並(土)族(平民))
何府(縣)何市區(郡)何村(番地寄留)
(元)官 氏 名 ㊦

(添附ス(半書類))

履歷書

恩給證書

第二書式(用紙美濃白紙)

増加恩給更正請求書

職團(公務)ノ爲メ傷疾ヲ受ケ(疾病ニ罹リ)職地ニ於テ流行病ニ罹リタル故ヲ以テ明治三十何年何月何日現役ヲ離レ恩給及増加恩給下賜相成候處明治三十九年法律第二十號附則ニ依リ増加恩給更正相成度恩給證書相添此段請求仕候也

年 月 日

所管長官宛

何府(縣)何市區(郡)何村(番地並(土)族(平民))
何府(縣)何市區(郡)何村(番地寄留)
(元)官 氏 名 ㊦

(備考) 軍人恩給法第十條第二項ニ當ルモノハ本文ノ次ニ左ノ如ク附記スヘシ

道ア軍人恩給法第十條第二項ニ依リ相當ノ捐給下賜相成度此段併テ請求仕候也

(添附ス(半書類))

恩給證書

軍人恩給法第十條第二項ニ當ルモノハ陸軍證書寫

第三書式(用紙美濃白紙)

賑恤金更正請求書

賑恤(公務)ノ爲メ傷疾ヲ受ケ(疾病ニ罹リ)戰地ニ於テ流行病ニ罹リタル故ヲ以テ明治三十九年何月何日現役ヲ離レ賑恤金下賜相成候處明治三十九年法律第二十號附則ニ依リ更正下賜相成度賑恤金辭令書(地方廳證明書)相添此段請求仕候也

何府(縣)何市區(郡)町(村)番地第(士)族(平民)
何府(縣)何市區(郡)町(村)番地第

(元)官氏 名

年 月 日

所管長官宛

(備考) 明治三十九年法律第二十號附則第三項ニ當ルモノハ本文ノ次ニ左ノ如ク附記スヘシ

追テ現役ヲ離レタル後重症ニ趨キタルニ付テハ明治三十九年法律第二十號附則第三項ニ依リ更正下賜相成度此段併テ請求仕候也

(現役ヲ離レ未タ賑恤金ヲ受ケサルモノニシテ重症ニ趨キ明治三十九年法律第二十號附則第三項ニ當ルモノハ普通ノ賑恤金請求書ニ前記追書ノ通附記シ普通ノ添附書類ヲ添付スヘシ)

(添付スヘキ書類)

附則第三項ニ當ルモノハ陸軍證書

附則第三項ニ當ルモノハ陸軍證書

第四書式

明治三十九年開令第一號第一條第三號ニ記載ノ地方廳證明書(用紙美濃白紙)

賑恤金辭令書第 號

明治何年何月何日付

元 何官何 某

賑恤金何圓
右ハ明治三十九年開令第一號第一條第三號ニ依リ證明ス

第五書式

何 應

診斷證書寫

本文

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

陸軍省醫務局長

○陸軍省令第三號

明治二十三年七月陸軍省令第二十二號陸軍軍人恩給取扱手續中左ノ通改正ス

明治三十九年四月一日

陸軍大臣寺内正毅

第五號表備考ニ左ノ一項ヲ加フ

軍人恩給法第十條第二項ニ當ルモノハ本文末段ヲ「軍人恩給法第九條第一項症ニ第何項症ヲ加フルモノト診斷候也」ト記載スヘシ

○海軍省令第一號

明治三十九年法律第二十號附則ニ依ル海軍軍人恩給取扱手續左ノ通定ム

明治三十九年四月一日

海軍大臣齋藤實

海軍軍人恩給取扱手續

第一條 明治三十九年法律第二十號附則ニ依リ恩給ヲ請求スル手續ハ同年閣令第一號ニ規定セルモノ、外此ノ細則ニ準據スヘシ

第二條 退職恩給免除恩給増加恩給、賑恤金ノ更正請求書ハ第一乃至第三書式ニ掲ケタル書類ヲ具備シ准士官以上ニ在テハ海軍大臣、下士卒ニ在テハ在籍鎮守府司令長官ニ提出スヘシ

第三條 増加恩給更正請求者ニシテ軍人恩給法第十條第二項ニ當ルモノハ其ノ請求書ニ第二書式備考ノ如ク附記シ且ツ前ノ給與ニ關スル覆覈證書ノ寫(本條及第二第三第五書式ノ覆覈證書ハ本省ニ於テ調製添附ス)ヲ添付スヘシ

第四條 賑恤金更正請求者ニシテ明治三十九年法律第二十號附則第三項ニ當ルモノハ其ノ請求書ニ第三書式備考ノ如ク附記シ期限内ニ於テ在籍鎮守府司令長官ニ檢査ヲ請求スルコトヲ得

現役ヲ離レタル後未タ賑恤金ヲ受ケサルモノニシテ重症ニ趨キ若ハ免除恩給ヲ受クルカ爲賑恤金ヲ受クルコトヲ得ザリシ者ニ在テモ亦同シ

第五條 鎮守府司令長官前條ノ請求ヲ受ケタルトキハ軍醫官ヲシテ其ノ症狀實査ノ上診斷證書ヲ作ラシムヘシ

前項ノ場合ニ於テ軍醫官ヲシテ診斷セシムルコト能ハサル場合ニ在テハ其ノ原因經過療法及現症ヲ詳記シタル醫師二名以上連署ノ診斷證書ヲ差出サシムヘシ

第六條 賑恤金更正請求者ニシテ既ニ受ケタル辭令書ヲ保存セサル者ニ在テハ閣令第一號第一條第三號ニ依リ第四書式ノ證明書ヲ添付スヘシ

第七條 本令ニ於テ特別ノ規定ヲ設ケサルモノハ總テ恩給扶助料取扱手續ノ例ニ依リ第一書式(用紙美濃白紙ニ通ワ要ス)

退職(免除)恩給更正請求書

明治三十九年何月何日現役ヲ離レ退職(免除)恩給下賜相成候處明治三十九年法律第二十號附則ニ依リ更正下賜相成度履歴書及恩給證書相添此段請求仕候也

年 月 日

海軍大臣 氏名殿

下士卒ハ專所管長官ニ宛ツヘシ

添附スヘキ書類

恩給證書

恩給證書

第二書式(用紙美濃白紙ニ通ワ要ス)

増加恩給更正請求書

戦闘(公務)ノ爲傷疾ヲ受ケ(疾病ニ罹リ)(戦地ニ於テ流行病ニ罹リ)タル故ヲ以テ明治三十九年何月何日現役ヲ離レ恩給及増加恩給下賜相成候處明治三十九年法律第二十號附則ニ依リ増加恩給更正相成度恩給證書相添此段請求仕候也

年 月 日

所管長官宛

(備考)

軍人恩給法第十條第二項ニ當ルモノハ本文ノ次ニ左ノ如ク附記スヘシ

追テ軍人恩給法第十條第二項ニ依リ相當ノ増加下賜相成度此段併テ請求仕候也

添附スヘキ書類

恩給證書

軍人恩給法第十條第二項ニ當ルモノハ覆覈證書寫

第三書式(用紙美濃白紙)

賑恤金更正請求書

職團(公務)ノ爲傷災ヲ受ケ(疾病ニ罹リ)(戦地ニ於テ流行病ニ罹リ)タル故ヲ以テ明治三十九年何月何日現役ヲ離レ賑恤金下賜相成候處明治三十九年法律第二十號附則ニ依リ更正下賜相成度賑恤金辭令書(地方廳證明書)相添此段請求仕候也

何府(縣)何市(郡)何町(村)何番地(士)族(平民)
何府(縣)何市(郡)何町(村)何番地(密)

元官(職) 氏 名印

年 月 日 所管長官宛

(備考)

明治三十九年法律第二十號附則第三項ニ當ルモノハ本文ノ次ニ左ノ如ク附記スヘシ

追テ現役ヲ離レタル後重症ニ趨キタルニ付テハ明治三十九年法律第二十號附則第三項ニ依リ更正下賜相成度此段併テ請求仕候也

現役ヲ離レ未タ賑恤金ヲ受ケサルモノニシテ重症ヲ趨キ明治三十九年法律第二十號附則第三項ニ當ルモノハ普通ノ賑恤金請求書前記追書ノ通附記シ普通ノ添附書類ヲ添付スヘシ

添付スヘキ書類
辭令書

附則第三項ニ當ルモノハ覆覈證書寫

第四書式

明治三十九年開令第一號第一條第三號ニ記載ノ地方廳證明書(用紙美濃白紙)

賑恤金辭令書第一號 號

元何官(職) 何 某

賑恤金何圓

右ハ明治三十九年開令第一號第一條第三號ニ依リ證明ス

第五書式

覆覈證書寫

何 廳

本文

增加恩給ノ更正請求者ニシテ軍人恩給法第十條第二項ニ當ルモノ、預定ハ前ニ給與ノ際ノ覆覈證書全部ノ寫ノ末ニ左ノ通記載スヘシ

右更ニ覆覈候處兩眼ヲ盲シ(二肢ヲ亡シ)且ツ何々ニ因リ第一項症ニ加フルニ第何項症ノモノト認定候也

明治 年 月 日

海軍省醫務局長

○司法省令第四號

明治二十三年司法省令第二號執達更登用規則中左ノ通改正ス

第二十三條第三項中「日本勸業銀行發行勸業債券」ノ下ニ「及貯蓄債券」ヲ加フ

明治三十九年四月二十七日 司法大臣松田正久

[參照]

司法省令第二號執達更登用規則(明治二十三年八月一日)抄錄

第二十三條第三項

保證金ハ相當ノ價格アル公債證書日本勸業銀行發行勸業債券日本勸業銀行發行債券若ハ日本銀行債券ヲ以テ之ニ代ユルコトヲ得

○司法省令第五號

明治十九年司法省令甲第二號公證人規則施行條例中左ノ通改正ス

第十七條中「日本勸業銀行發行勸業債券」ノ下ニ「及貯蓄債券」ヲ加フ

明治三十九年四月二十七日

司法大臣松田正久

〔參照〕

司法省令甲第二號公證人規則施行條例(明治十九年八月三十日)抄錄
第十七條 公證人ニ任セラレタル者ハ身元保證金トシテ現金又ハ相當ノ價格アル公債證書日本勸業銀行發行勸業債券 日本
興業銀行發行債券若クハ日本銀行株券ヲ管轄管轄裁判所ニ納ム可シ

○司法省令第六號

橫濱地方裁判所管内橫濱區裁判所管轄橫濱市山内町壹丁目ヲ同區裁判所神奈川出張所ノ管轄ニ屬
セシメ明治二十六年司法省令第十號登記管轄區域表中間出張所ノ管轄欄内「林町」ノ次ニ「山内町壹
丁目」ヲ加フ

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十九年四月二十七日

司法大臣松田正久

○司法省令第七號

橫濱地方裁判所管内橫濱區裁判所神奈川出張所管轄武藏國橫濱市山内町壹丁目ニ屬スル商業登記
ノ事務ハ橫濱區裁判所ニ於テ之ヲ取扱フ
本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十九年四月二十七日

司法大臣松田正久

○文部省令第三號

明治三十五年文部省令第八號臨時教員養成所規程中左ノ通改正ス

明治三十九年四月二日

文部大臣牧野伸顯

第九條中「認可ヲ受ケ」ノ下「修業年限ヲ延長シ」ヲ加フ

第十一條中「中學校卒業」ヲ「男子ニ在リテハ中學校卒業女子ニ在リテハ修業年限四箇年ノ高等女學

校卒業」ニ改ム

第十八條ノ次ニ左ノ三條ヲ加フ

第十九條 特別ノ必要アリト認メタルトキハ生徒ニ學資ヲ補給スルコトアルヘシ

第二十條 前條ニ依リ學資ノ補給ヲ受ケタル者ハ卒業ノ日ヨリ學資ノ補給ヲ受ケタル年限ト同一

期間文部大臣ノ指定ニ從ヒ就職ニ従事スヘキ義務アルモノトス但シ特別ノ事情アル者ハ其ノ免

除又ハ猶豫ヲ文部大臣ニ出願スルコトヲ得

第二十一條 左ノ各號ニ該當スル者ハ在學中補給シタル學資ヲ償還セシム但シ文部大臣ハ情狀ニ

依リ其ノ全部又ハ一部ノ償還ヲ免除スルコトアルヘシ

一 第十四條ニ依リ退學ヲ命セラレタル者

二 第十五條但書ニ依リ退學シタル者

三 前條ノ義務ヲ盡サ、ル者

四 服務年限中懲戒免職又ハ免許狀褫奪ノ處分ヲ受ケタル者

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

〔參照〕

文部省令第八號臨時教員養成所規程(明治三十五年三月二十九日)抄錄

第九條 特別ノ事情アルトキハ管理者ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ學科目ヲ加減シ教授時數ヲ増減スルコトヲ得
 第十一條 入學試験ハ中學校卒業ノ程度ニ依リテ之ヲ行フ但シ中學校及師範學校ノ卒業者ニ限り時立ニ因リ試験ヲ行ハサ
 ルコトヲ得

○文部省令第四號

明治三十七年文部省令第十二號盛岡高等農林學校規程中左ノ通改正ス

明治三十九年四月十日

文部大臣 牧野伸顯

第三條第一項ヲ左ノ如ク改ム
 各學科ノ學科目及其ノ程度ハ左ノ如シ

農學科

科目	第一學年			第二學年			第三學年		
	每週	教授	時數	每週	教授	時數	每週	教授	時數
倫理	-	-	-	同上	同上	同上	-	-	-
作物	-	-	-	同上	同上	同上	(二)二	(二)二	(二)二
園藝	-	-	-	同上	同上	同上	(一)二	(二)二	(一)二
地質土壤及 土地改良	-	-	-	同上	同上	同上	二	二	二
肥料	-	-	-	同上	同上	同上	二	二	二
農具	-	-	-	同上	同上	同上	二	二	二
測量及製圖	(三)一	-	-	三	三	三	三	三	三
音聲	-	-	-	三	三	三	三	三	三

獸醫學大意	(三)二	(三)二	二	(四)一	-	-	-
養蠶	(三)二	(三)二	二	-	(三)一	(三)一	-
農産製造	-	-	-	-	-	(一)三	(一)三
農業經濟及 行政	-	-	-	-	-	三	三
法律及經濟	二	二	二	二	二	三	三
物理及氣象	三	三	三	二	二	(三)	(三)
化學	四	四	四	二	二	(三)	(三)
分析化學	-	-	-	一	(六)一	(六)一	(六)一
動物及昆蟲	二	二	二	三	三	(三)	(三)
植物及植物 病理	二	二	(三)二	三	三	(三)	(三)
植物營養論	-	-	-	三	三	(三)	(三)
細菌學	-	-	-	二	(三)一	(三)一	(三)一
林學大意	-	-	-	二	(三)	(三)	(三)
教育學	-	-	-	-	-	-	-
外國語	四	四	四	四	四	四	四
體操	二	二	二	一	一	一	一
合計	(三)五	(六)六	(六)五	(四)二	(二)三	(六)五	(六)五

第九條 特別ノ事情アルトキハ管理省ハ文部大臣ノ認可ヲ受テ學科目ヲ加除シ教授時數ヲ増減スルコトヲ得
 第十一條 入學試驗ハ中學校卒業ノ程度ニ依リテ之ヲ行フ但シ中學校及師範學校ノ卒業者ニ限り時宜ニ因リ試驗ヲ行ハサ
 ルコトヲ得

○文部省令第四號

明治三十七年文部省令第十二號盛岡高等農林學校規程中左ノ通改正ス
 明治三十九年四月十日

文部大臣 牧野伸顯

第三條第一項ヲ左ノ如ク改ム
 各學科ノ學科目及其ノ程度ハ左ノ如シ

農學科

科目	第一學年			第二學年			第三學年		
	每週	放	授時數	每週	放	授時數	每週	放	授時數
倫理	-	-	-	隨時	同上	同上	-	-	-
作物	-	-	-	二	二	二	二	二	二
園藝	-	-	-	二	二	二	二	二	二
地質土壤及 土地改良	-	-	-	二	二	二	二	二	二
肥料	-	-	-	二	二	二	二	二	二
農具	-	-	-	二	二	二	二	二	二
測量及製圖	-	-	-	三	三	三	三	三	三
畜産	-	-	-	三	三	三	三	三	三

科目	第一學年			第二學年			第三學年		
	每週	放	授時數	每週	放	授時數	每週	放	授時數
獸醫學大意	-	-	-	二	二	二	二	二	二
養蠶	-	-	-	二	二	二	二	二	二
農産製造	-	-	-	二	二	二	二	二	二
農業經濟及 行政	-	-	-	二	二	二	二	二	二
法律及經濟	-	-	-	二	二	二	二	二	二
物理及氣象	-	-	-	三	三	三	三	三	三
化學	-	-	-	四	四	四	四	四	四
分析化學	-	-	-	二	二	二	二	二	二
動物及昆蟲	-	-	-	二	二	二	二	二	二
植物及植物 病理	-	-	-	二	二	二	二	二	二
植物營養論	-	-	-	三	三	三	三	三	三
細菌學	-	-	-	三	三	三	三	三	三
林學大意	-	-	-	二	二	二	二	二	二
教育學	-	-	-	二	二	二	二	二	二
外國語	-	-	-	四	四	四	四	四	四
體操	-	-	-	二	二	二	二	二	二
合計	(三)五	(三)五	(三)五	(六)六	(六)六	(六)六	(四)二	(四)二	(四)二

實 習 無定時 同上 同上 同上 同上 同上 同上 同上 同上 同上

林學科

(備考) 教育學ハ志望者ニノミ之ヲ課ス

科目	第一學年			第二學年			第三學年		
	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期
倫理	一	一	一	隨時	同上	同上	同上	同上	同上
造林及保護				(-)三	(-)三	(-)三	(-)三	(-)三	(-)三
森林數學及經理				(-)三	(-)三	(-)三	(-)三	(-)三	(-)三
森林利用及林產製造				(-)三	(-)三	(-)三	(-)三	(-)三	(-)三
森林土木				(-)三	(-)三	(-)三	(-)三	(-)三	(-)三
經濟學				(-)三	(-)三	(-)三	(-)三	(-)三	(-)三
財政學									
森林政策及木材商況									
森林行政及現行法規									
法律及行政大意									
數學	四	三	三	(-)三	(-)三	(-)三	(-)三	(-)三	(-)三
森林測量及製圖		(三)三	三	(-)三	(-)三	(-)三	(-)三	(-)三	(-)三
物理及氣象	三	三	三	(-)三	(-)三	(-)三	(-)三	(-)三	(-)三

(備考) 行政事務見習ハ三四兩月間之ヲ課ス

獸醫學科

科目	第一學年			第二學年			第三學年		
	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期
化學及分析	二	二	二						
森林動物及昆蟲	二	二	二						
森林植物及樹木	(二)二	二	二						
地質及土壤	二	二	二						
狩獵									
農學大意									
外國語	六	六	六	五	五	五	四	四	四
體操	二	二	二	一	一	一	一	一	一
合計	(二)六	(三)六	(三)七	(六)五	(六)五	(二)五	(三)五	(三)五	(三)五
行政事務見習									無定時
實習及演習	無定時	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上

科目	第一學年			第二學年			第三學年		
	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期
倫理	一	一	一	隨時	同上	同上			
解剖及組織	三	(七)三	三	(三)	(一)	(五)			
生理	四	(八)三	三	(三)	(一)	(五)			

外國語	動物	化學及分析	物理及氣象	農學大意	獸醫警察	馬學	病體解剖	寄生動物	衛生及細菌	縮綫及蹄病	畜産科	胎生學	外科	内科	病理通論	藥物及調劑
四	二	四	三						(二)二							
四	二	四	三						(二)一						三	
四	二	四	三						(二)						三	
四		(六)二	二		二				(三)一	二			五	三	二	三
四		(二)	二		二		一		(三)一	二			五	三	二	三
四		(二)	二		二		二		(三)一	二			五	三	三	
四				二	(一)二		(三)三		(二)三	二	二	二	二	一		
四				二	(一)二		(三)三		(二)三	二	二	一	二	一		
四				二	(一)二		(三)三		(二)三	二	二	二	二	一		

(授業時數中括弧ヲ付スルモノハ實験ノ時數トス)

實習	合計	體操	雜句
無定時	(二)六	二	一
同上	(九)六	二	一
同上	(〇)五	二	一
同上	(二)五	一	
同上	(二)六	一	
同上	(〇)五	一	
同上	(六)四	一	
同上	(六)三	一	
同上	(六)三	一	

附則

本令ハ明治三十九年五月一日ヨリ施行ス

本令施行ノ際現ニ在學スル生徒ニ課スヘキ學科目及其ノ程度ニ關シテハ學校長ニ於テ文部大臣ノ許可ヲ受ケ從前ノ規定ヲ斟酌シテ之ヲ定ム

○文部省令第五號

明治十六年太政官布達第三十四號醫術開業試驗規則中左ノ通改正ス

明治三十九年四月十七日

文部大臣 牧野伸顯

第二條ヲ左ノ如ク改ム

第二條 文部大臣ハ毎年二回醫術開業試驗ヲ舉行ス但シ東京ニ於テハ本文ノ外隨時ニ後期實地試驗ヲ舉行スルコトアルヘシ

試驗ヲ舉行スヘキ地方及試驗期日ハ文部大臣之ヲ告示ス

第五條中「醫術開業試驗」ノ上ニ「齒科醫術開業試驗」ヲ除ク外ニ加ヘ但書ヲ削ル

第六條ニ左ノ一項ヲ加フ

前項後期試驗科目中第一乃至第五ヲ學說試驗科目トシ第六ヲ實地試驗科目トス學說試驗ト實地

試験トハ分テ之ヲ受クルコトヲ得此場合ニ於テハ學說試験ヲ先ニシ實地試験ヲ後ニス
第七條ニ左ノ一項ヲ加フ

前項試験科目中第一乃至第四ヲ學說試験科目トス學說試験ト實地試験トハ分テ之ヲ受クルコト
ヲ得此場合ニ於テハ學說試験ヲ先ニシ實地試験ヲ後ニス

第九條ヲ左ノ如ク改ム

第九條 試験ヲ受ケントスル者ハ願書(書式第一號)ニ履歷書(書式第二號)ハ戸籍謄本及ヒ寫眞ヲ添
ヘ毎年一月六月中ニ共ノ試験ヲ受クヘキ地ノ地方廳ニ差出スヘシ但シ實地試験ノミヲ受ケント
スル者ハ居住地ノ地方廳ニ差出スヘシ

東京ニ於テ後期實地試験ヲ受ケントスル者ハ前項ノ期限ニ拘ラス隨時出願スルコトヲ得

願書及ヒ履歷書ハ本人之ヲ自書シ履歷書中受験資格ニ關シテハ在學シタル學校、病院ノ校長院
長又ハ就學シタル教師ノ保證ヲ附シ寫眞ハ手札形(約四寸五分)トシ出願前六箇月以内ニ脱帽ノ
儘撮影シタルモノニシテ其ノ裏面ニハ撮影年月日、出願シタル試験ノ種類及ヒ族籍、氏名ヲ記入
スヘシ

地方廳ニ於テハ前項ノ願書及附屬書類ヲ調査シ願書受領後十五日以内ニ文部省ニ進達スヘシ

第十三條 削除

第十四條中「後期金九圓」以下ヲ左ノ如ク改ム

後期 金九圓 學說試験ノミヲ受クル者ハ金六圓五拾
齒科 金九圓 學說試験ノミヲ受クル者ハ金六圓五拾
附則 實地試験ノミヲ受クル者ハ金六圓

第十五條 本令ハ明治三十九年六月一日ヨリ施行ス

第一號

願書式(用紙美濃紙)

醫術開業試験願

收入
印紙

本籍
居所
族稱

出願試験ノ種類
試驗ヲ受クヘキ地
附則(齒科)試驗又ハ後期(學說、齒科)試驗
何地

右試驗相受度別紙履歷書戸籍謄本及寫眞相添ヘ此段相願候也

年月日

年 月 日 生

氏 名

右 氏 名 印

文部大臣宛

第二號

履歷書式(用紙美濃紙)

履歷書

族籍

氏 名

年 月 日 生

受験資格

- 一 明治何年何月ヨリ何年何月マテ何處何處何學校ニ於テ又ハ何處ニ就キ何學修業
- 一 明治何年何月ヨリ何年何月マテ何處何處何病院ニ於テ又ハ開業醫何處ニ就キ何科實習
- 一 明治何年何月何地ニ於テ前期試験(後期學說、齒科)試験ヲ受ケ及第證書(學說合格承認書)第何號ヲ受ケ

受験資格以外ノ學業

- 一 明治何年何月何日何小學校ニ於テ（修業）小學科卒業又ハ第何學年修了
- 一 明治何年何月何日何府縣何中學校ニ入り何年何月卒業又ハ第何年級修了
- 一 明治何年何月何日何年何月マテ何（修業）何學校ニ於テ又ハ何階ニ就キ何學修業
- 職業
- 一 明治何年何月何日何年何月マテ何（修業）ニ於テ何職ニ從事シ又ハ何業ヲ營ム
- 右之通相違無之候也

族籍 氏 名 印

前記受験資格ノ確實ナルコトヲ保證ス

何學校長又ハ教師 氏 名

〔參照〕

太政官布達第三十四號醫術開業試驗規則(明治十六年十月二十三日)抄録

第二條 文部大臣ハ毎年二回醫術開業試驗ヲ舉行スヘシ但試驗ヲ舉行スヘキ地方及ヒ試驗期日ハ豫メ之ヲ文部大臣ヨリ告示スヘシ

第五條 醫術開業試驗ハ之ヲ二期ニ分チ前期試驗後期試驗トス前後二期ノ試験ヲ同時ニ受クルコトヲ得ス

但齒科醫術開業試験ハ全科一時ニ受クルモノトス

第九條 前期試験ヲ受ケントスル者ハ其願書ニ修業ノ履歷書ヲ副(後期試験ヲ受ケントスル者ハ其願書ニ履歷書及前期試験及第ノ證書ヲ副)毎年一月七月中地方廳ニ送付スヘシ地方廳ハ翌月十五日迄ニ其書類ヲ取纏メ文部省ニ送達スルモノトス

但履歷書ニハ其師若クハ他ノ開業醫師二名以上ノ保證アルヲ要ス

第十三條 試験ニ落第シタル者ハ半年ヲ終ルニ非レハ再試験ヲ請フコトヲ得ス

第十四條 醫術開業試験ヲ出願スル者ハ其ノ際左ノ手数料ヲ納ムヘシ

但納付シタル手数料ハ返付セズ

前期 金六圓五十錢

後期 金九圓

齒科 金九圓

○文部省令第六號

明治二十二年內務省令第三號藥劑師試驗規則中左ノ通改正ス

明治三十九年四月十七日

文部大臣 牧野伸顯

第三條ニ左ノ一項ヲ加フ

學說試験ト實地試験トハ分テ之ヲ受クルコトヲ得此場合ニ於テハ學說試験ヲ先ニシ實地試験ヲ後ニス

第四條ヲ左ノ如ク改ム

第四條 試験ヲ受ケントスル者ハ願書(書式第一號)ニ履歷書(書式第二號)、戶籍謄本及ヒ寫眞ヲ添へ毎年一月六月中ニ共ノ試験ヲ受クヘキ地ノ地方廳ニ差出スヘシ但シ實地試験ノミヲ受ケントスル者ハ居住地ノ地方廳ニ差出スヘシ

願書及ヒ履歷書ハ本人之ヲ自書シ寫眞ハ手札形(縦約四寸横約二寸五分)トシ出願前六箇月以内ニ脱帽ノ儘撮影シタルモノニシテ其裏面ニハ撮影年月日、出願シタル試験ノ種類及ヒ族籍氏名ヲ記入スヘシ

地方廳ニ於テハ前項ノ願書及ヒ附屬書類ヲ調査シ願書受領後十五日以内ニ文部省ニ進達スヘシ

附則

第六條中「金六圓」ノ下ニ「學說試験ノミヲ受クル者ハ金四圓」ヲ加フ

第一號

願書式(用紙美濃紙)

本令ハ明治三十九年六月一日ヨリ施行ス

藥劑師試驗願

收入 本籍 居所 族稱

出願試驗ノ種類 學說及實地(學說又ハ實地)試驗
試驗ヲ受クヘキ 地何地又ハ 實地ハ何地

右試驗相受度別紙履歷書ヲ繕本及寫眞相添ヘ此段相願候也
年月日

文部大臣宛

第二號

履歷書式(用紙樂流紙)

履歷書

族籍

氏

年月日生

氏

年月日生

右

氏

年月日生

試驗科目ノ修業

一 明治何年何月ヨリ何年何月マテ何處何處ニ於テ又ハ何處ニ就キ何學修業

一 明治何年何月ヨリ何年何月マテ何處何處ニ於テ又ハ何處ニ就キ何科實習

一 明治何年何月何處ニ於テ藥劑師試驗ニ合格シ承認證第何號ヲ受ク

普通學ノ修業

一 明治何年何月何處ニ於テ何處ニ於テ小學科卒業又ハ第何學年修了

一 明治何年何月何處何處中學校ニ入り何年何月卒業又ハ第何年級修了

一 明治何年何月ヨリ何年何月マテ何處何處何處ニ於テ又ハ何處ニ就キ何學修業

職業

一 明治何年何月ヨリ何年何月マテ何處何處ニ於テ何職ニ從事シ又ハ何業ヲ營ム
右之通相違無之候也

明治何年何月何日

族籍

氏

名印

〔參照〕

內務省令第三號藥劑師試驗規則(明治二十二年三月二十七日)抄錄

第四條 試驗ヲ受ケントスル者ハ其願書ヲ毎年一月七月中地方廳ニ差出スヘシ地方廳ハ翌月十五日迄ニ其書類ヲ取纏メ文部省ニ進達スヘシ

第六條 藥劑師試驗ヲ出願スル者ハ其際試驗手数料金六圓ヲ納付スヘシ但納付シタル手数料ハ返付セス

○文部省令第七號

明治二十四年文部省令第七號府縣小學校教員恩給基金管理規則中左ノ通改正ス

明治三十九年四月二十一日

文部大臣牧野伸顯

第二條 小學校教員恩給基金ハ現金又ハ國債府縣債證書ト爲スヘシ

現金國債證書ハ大藏省預金ニ寄託スヘシ

〔參照〕

文部省令第七號府縣小學校教員恩給基金管理規則(明治二十四年十月九日)抄錄

第二條 小學校教員恩給基金ハ現金又ハ國債證書トシ總テ金庫ニ寄託スヘシ

○農商務省令第十一號

獸疫檢疫規則左ノ通相定ム

明治三十九年四月十二日

農商務大臣松岡康毅

獸疫檢疫規則

- 第一條 韓國、清國、西伯利其ノ他檢疫官ニ於テ有病地ト認ムル諸港ヨリ又ハ之ヲ經テ獸類、其ノ屍體及皮骨類其ノ他獸疫傳播ノ虞アル物品ヲ輸入スル船舶ハ獸疫ノ檢疫ヲ受クヘシ
- 第二條 檢疫ハ神奈川縣橫濱港、兵庫縣神戸港、長崎縣長崎港、同縣嚴原港及山口縣下關港ニ於テ之ヲ行フ
- 第三條 第一條ノ船舶ニ搭載シタル獸類、其ノ屍體及皮骨類其ノ他獸疫傳播ノ虞アル物品ハ檢疫ヲ受ケタル後ニ非サレハ輸入ヲ爲スコトヲ得ス
- 第四條 檢疫官ハ第一條ノ船舶ニ臨檢シ左ノ事項ヲ船長又ハ船長ノ職務ヲ行フ者ニ尋問シ第一號様式ノ尋問書ニ署名セシムヘシ
 - 一 船籍、船種及船名
 - 二 發航ノ地名及年月日
 - 三 寄航ノ地名及年月日
 - 四 獸類ノ種類及頭數並其ノ皮骨類ノ種類、數量及性状
 - 五 獸類、其ノ皮骨類搭載ノ地名及年月日
 - 六 獸類、其ノ皮骨類ノ仕向地名
 - 七 獸疫發生シタル船舶又ハ獸疫流行地ヨリ來リタル船舶ト交通ノ有無
 - 八 他港ニ於テ檢疫ヲ受ケタル船舶ト有無
 - 九 航海中獸類ノ發病又ハ斃死シタル頭數及其ノ症狀

十 現時病獸及屍體ノ有無

- 第五條 檢疫官必要ト認ムルトキハ航海日誌ノ檢閱ヲ爲スコトヲ得
- 第六條 檢疫官ハ船舶ニ於テ獸類ノ檢診ヲ行フタル後左ノ處分ヲ爲スヘシ
 - 一 獸疫ニ罹リ又ハ其ノ感染ノ疑アル獸類ハ之ヲ撲殺、燒棄又ハ檢疫ヲ行フ場所ニ送致セシムルコト但シ必要ト認ムルトキハ船舶ニ之ヲ緊留セシムルコトヲ得
 - 二 前號ノ外ノ獸類ハ直チニ之ヲ檢疫所ニ送致セシムルコト
 - 三 獸類ノ屍體ハ燒棄所ニ送致セシムルコト
- 第七條 檢疫官獸疫傳播ノ虞アリト認ムルトキハ當該檢疫港ニ陸揚ヲ爲ササル獸類、其ノ屍體及皮骨類其ノ他ノ物品ニ付亦檢疫ヲ行フコトヲ得
- 第八條 第六條第一號ニ掲ケタル獸類ニシテ檢疫所ニ送致セラレタルモノ及同條第二號ニ掲ケタル獸類ハ十日以内檢疫所ニ緊留スヘシ 緊留中新ニ病獸ヲ發見シタルトキハ鎖鑰、隔離其ノ他獸疫豫防法ニ定メタル方法ニ依リ之ヲ處分シ同一場所ニ緊留シタル獸類ハ更ニ緊留期間ヲ延長スルコトヲ得
- 第九條 檢疫官ハ場所ヲ指定シテ皮骨類其ノ他獸疫傳播ノ虞アリト認ムル物品ヲ送致セシメ消毒ヲ行フヘシ但シ乾燥シタルモノニシテ獸疫傳播ノ虞ナシト認ムルモノハ此ノ限ニ在ラス
- 第十條 第六條及第九條ノ獸類其ノ屍體及皮骨類其ノ他病毒ニ汚染シ又ハ其ノ疑アル物品ハ檢疫官ノ許可ヲ受ケタル場合ノ外之ヲ他ニ移轉スルコトヲ得ス
- 第十一條 獸疫ニ罹リ若ハ其ノ感染ノ疑アル獸類、其ノ屍體及皮骨類、病毒ニ汚染シ若ハ其ノ疑アル物品又ハ其ノ搭載船舶ハ本則ノ規定ニ依ルノ外獸疫豫防法及同法施行規則ノ規定ニ依リ之ヲ

處分

- 第十二條 檢疫官檢疫ヲ終リタルトキハ第二號様式ノ證明書ヲ交付スヘシ
 - 第十三條 第一條ノ船舶内ニ獸疫ニ罹リ若ハ其ノ感染ノ疑アリ又ハ斃死シタル獸類アリタルトキハ檢疫及消毒ヲ終ル迄檢疫信號ヲ掲クヘシ
檢疫信號ハ晝間ハ船舶ノ前檣頭ニ第三號様式ノ旗ヲ掲ケ夜間ハ同シク前檣頭ニ紅色球燈一箇白色球燈二箇ヲ上下ニ連掲スヘシ
 - 第十四條 檢疫港所在地ノ地方長官ハ所屬官吏ニ檢疫官ヲ命スルコトヲ得
 - 第十五條 檢疫港所在地ノ地方長官ハ第四號様式ニ依リ前月中ノ獸疫檢疫成績表ヲ作製シ毎月十日迄ニ農商務大臣ニ之ヲ報告スヘシ
 - 第十六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス
 - 一 第四條ニ依ル檢疫官ノ尋問ニ對シテ答辯ヲ爲サス又ハ虚偽ノ事實ヲ答辯シタル者
 - 一 第五條ノ檢閱ヲ拒ミタル者
 - 一 第六條ノ命令ニ從ハサル者
 - 一 第九條ニ依リ送致ヲ命セラレタル場合ニ於テ其ノ命令ニ從ハサル者
 - 一 第十條ニ違反シタル者
 - 一 第十三條ニ違反シタル者
 - 第十七條 本則ハ明治三十九年五月一日ヨリ之ヲ施行ス
- 明治三十三年農商務省令第五號牛疫檢疫規則ハ之ヲ廢止ス
- 第一號様式

五 尋問書

<p>一 船籍</p> <p>一 船種</p> <p>一 船名</p> <p>一 發航ノ地名及年月日</p> <p>一 寄港ノ地名及年月日</p> <p>一 獸類ノ種類及頭數並皮膚類ノ種類數並及性狀</p> <p>一 獸類、皮膚類搭載ノ地名及年月日</p> <p>一 獸類、皮膚類ノ仕向地名</p> <p>一 獸疫發生シタル船舶又ハ獸疫流行地ヨリ來リタル船舶ト交通ノ有無</p> <p>一 他港ニ於テ檢疫ヲ受ケタルコトノ有無</p> <p>一 航海中獸類ノ發病又ハ斃死頭數及其ノ症狀</p> <p>一 現時病狀及屍體ノ有無</p> <p>右之通相違無之候也</p> <p>年月日時</p>	<p>尋問書</p> <p>何 某印</p> <p>何船長</p>
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------

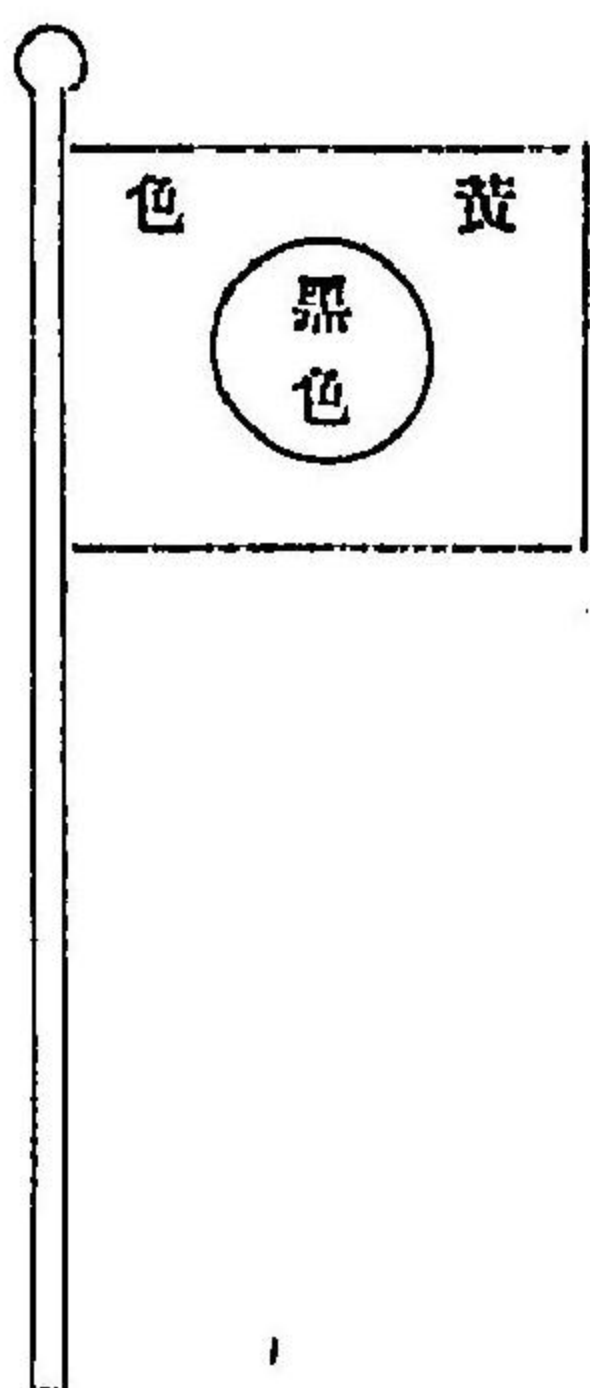
裏面ニハ表面ノ事項ノ英譯ヲ記載スヘシ

第一號樣式

五寸 證明書 輸入申告者 何某		品目	數量	單位
右ハ何國何港ヨリ到着ニ付明治二十九年法律第六十號獸疫檢防疫法第十五條ニ依リ制規ノ檢疫ヲ施行シ終了セシムコトヲ證明ス 年月日 何縣何港 檢疫官何某甲 檢疫官何某印		一牛		
		一馬		
右ハ何國何港ヨリ到着ニ付明治二十九年法律第六十號獸疫檢防疫法第十五條ニ依リ制規ノ檢疫ヲ施行シ終了セシムコトヲ證明ス 年月日 何縣何港 檢疫官何某甲 檢疫官何某印		一豚		
		一其ノ他ノ獸類		
右ハ何國何港ヨリ到着ニ付明治二十九年法律第六十號獸疫檢防疫法第十五條ニ依リ制規ノ檢疫ヲ施行シ終了セシムコトヲ證明ス 年月日 何縣何港 檢疫官何某甲 檢疫官何某印		一皮		
		一其ノ他ノ物品		

裏面ニハ裏面ノ事項ノ英譯ヲ記載スヘシ

第三號樣式



第四號樣式

獸疫檢疫成績表 明治何年何月分

船名	船籍	發航地名	搭載地名	仕向地名	入港月日	頭數				斤數	摘要	
						牛	馬	羊	豚			

備考
 本欄ニハ獸類健康ノ狀態檢疫及船舶消毒施行ノ狀況等ヲ記載スヘシ
 年月日
 農商務大臣宛
 地方長官氏名印

○農商務省令第十二號

明治三十三年農商務省令第十六號產業組合法施行規則中左ノ通改正シ明治三十九年法律第四十五號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十九年四月十九日

農商務大臣松岡康毅

第四條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第四條ノ二 總代會ハ千五百人以上ノ組合員ヲ有スル組合ニ非サレハ之ヲ設クルコトヲ得ス
總代會ヲ設ケムトスルトキハ定款中ニ總代ノ選任及解任ノ方法、員數並任期ニ關スル規定ヲ設クルコトヲ要ス

第八條第六號及第七號ヲ左ノ通改ム

六 事業ノ狀況及損益ノ計算

七 信用組合ニ在リテハ貸付シ又ハ償還ヲ受ケタル金額及件數、受入又ハ拂戻シタル貯金額及貯金ヲ爲シタル組合員數並貯金及貸付金ノ利率、販賣組合ニ在リテハ受入又ハ販賣シタル物ノ種目別ノ數量及價額、購買組合ニ在リテハ購買又ハ賣却シタル物ノ種目別ノ數量及價額、生産組合ニ在リテハ生産シタル物ノ種目別ノ數量又ハ加工若ハ使用ノ功程ヲ表示スヘキ事項

第十一條ヲ左ノ通改ム

剩餘金ノ配當ハ持分ノ全部若ハ一部又ハ取扱ヒタル物ノ數量、價額若ハ事業ノ分量ニ對スルノ外之ヲ爲スコトヲ得ス
持分ノ全部若ハ一部ニ對スル剩餘金配當ノ率ハ年六分ヲ超ユルコトヲ得ス

〔參照〕

農商務省令第十六號產業組合法施行規則(明治三十三年七月三日)抄録

第八條 組合ノ事業報告書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

六 事業ノ狀況

七 信用組合ニ在リテハ貸付シ又ハ償還ヲ受ケタル金額、受入又ハ拂戻シタル貯金額及ヒ貯金並ニ貸付金ノ利率其他ノ組合ニ在リテハ販賣、購買又ハ生産シタル物ノ種目別ノ數量及ヒ價額

第十一條 持分ニ對スル剩餘金分配ノ率ハ年六分ヲ越ユルコトヲ得ス

○農商務省令第十三號

明ケ三歳若ハ明ケ四歳ノ牡馬ニシテ地方長官ノ指定シタル方法ニ依リ去勢ヲ行ヒタル馬匹ノ所有者ニハ每一頭獎勵金三圓ヲ下付スヘシ

前項馬匹ニシテ去勢施術ノ爲斃死シ若ハ癱瘓トナリタルトキハ其ノ所有者ニ金三十圓以内ノ損失手當ヲ下付スルコトヲ得

前二項ノ規定ハ沖繩縣及種牡馬検査法ヲ施行セサル島嶼ニハ之ヲ適用セス

明治三十九年四月二十一日

農商務大臣松岡康毅

○遞信省令第十五號

明治三十八年五遞信省令第三十六號郵便貯金規則中左ノ通改正ス

明治三十九年四月七日

遞信大臣山縣伊三郎

第六條中「其ノ名稱ヲ」ノ下「記載調印シ且」ヲ記載シ其ノ印ヲ押捺スルカ又ハニ改ム

第十七條中「新舊代表者、管理者連署シ」ノ下「尙公共團體、社寺、學校等ノ印章ヲ押捺シ」ヲ削除ス

〔參照〕

逓信省令第三十六號郵便時金規則(明治三十八年五月十八日)抄録

第六條 公共團體、社寺、學校又ハ各種ノ法人若ハ團體ニ於テ本規則ノ定ムル所ニ依リ記名調印ヲ要スル場合ニ於テハ當該

書類ニ其ノ名稱ヲ記載調印シ且其ノ代表者管理若ニ於テ相當書類ヲ附シ記名調印スヘシ

第十七條 公共團體、社寺、學校又ハ各種ノ法人若ハ團體ノ代表者管理若ニ異動アリタルトキハ其ノ屆書ニ新舊代表者管理

者進著シ向公共團體、社寺、學校等ノ印章ヲ押捺シ且新代表者新管理若ノ印鑑ヲ添ヘ之ヲ郵便局所ニ差出スヘシ

○逓信省令第十六號

本月二十九日ヨリ陸軍凱旋觀兵式紀念トシテ郵便切手參錢及壹錢五厘ノ二種ヲ發行シ日、韓、清(本邦)郵便局所在(三國相互間)竝ニ右三國內ニ發著スル郵便物ニ限り使用セシム共ノ賣捌ヲ取扱フ郵便局ハ左ノ如シ

明治三十九年四月十六日

逓信大臣山縣伊三郎

一 本邦内地ノ一、二等局(小笠原沙那泊村、八重)一等局市内ニアル三等局及左記ノ各局

武藏國世田谷

丹波國福知山

越後國村松

下總國市川

對馬國鷓知

越前國金山

下總國佐倉

淡路國由良

越前國蘆江

下總國四街道

肥前國大村

下總國津田沼

越後國新發田

二 在清國本邦郵便局

○逓信省令第十七號

鐵道國有法附則ニ依ル貯藏物品ノ購入、建設費ノ増減及債務ノ負擔ニ付テノ認可申請手續左ノ通定ム

明治三十九年四月十七日

逓信大臣山縣伊三郎

第一條 貯藏物品購入ノ認可申請書ニハ購入スヘキ物品ノ總金額ヲ記載シ物品ノ種類、品質、數量

用途、使用期間、金額及單價表ヲ添附スヘシ(第一號様式)

前項認可後總金額、物品ノ種類、品質、數量ヲ變更セントスルトキハ事由ヲ具シ更ニ認可ヲ受ケルコトヲ要ス

會社ハ毎月末日ヲ以テ貯藏物品受拂表ヲ提出スヘシ(第二號様式)

第二條 建設費増減ノ認可申請書ニハ増減スヘキ事由竝金額ヲ記載シ共ノ金額ノ明細表ヲ添附スヘシ(第三號様式)

前項認可後決算ヲ終了シタルトキハ共ノ金額ノ明細表ヲ提出スヘシ

第三條 債務負擔ノ認可申請ハ資本勘定ニ屬スルモノニ限り之ヲ爲スモノトス

前項認可申請書ニハ債務負擔ノ事由、金額、期限、利率、元利償還ノ方法、契約書案及債權者ノ氏名住所ヲ記載スヘシ但シ手形行爲ニ因リ債務ヲ負擔スル場合ニ於テハ其ノ事由、一定ノ金額、年月日、一定ノ満期日及償還方法ヲ記載スヘシ

前項債務ノ履行ヲ終ハリタルトキハ一週間内ニ之ヲ届出ツヘシ

第四條 鐵道國有法發布前手形行爲ニ因リ負擔シタル債務ニシテ同法發布後履行スヘキモノニ付テハ本令施行ノ日ヨリ一週間内ニ前條但書ノ規定ニ準シテ之ヲ届出ツヘシ

第五條 鐵道國有法發布ノ際未決算又ハ施行中ノ工事ニ付第二條ニ依リ提出スル申請書ニハ其ノ工事ノ狀況ヲ附記スヘシ

前項申請書ハ本令施行ノ日ヨリ一箇月内ニ之ヲ提出スヘシ

第六條 會社ハ本令施行ノ日ヨリ一箇月内ニ明治三十九年三月三十一日ニ於ケル貯藏物品現在表及建設費豫算決算差引對照表ヲ提出スヘシ(第四號様式)

第一號樣式 (第一條第一項及第二項)		貯藏物品											
何鐵道株式會社		購入豫定表											
明治年月日申請													
種類品質	數量 稱呼	購入豫定高			現在高			合計		購入品ノ用途	購入品ノ 使用期間	備考	額未
		數量	單位	金額	數量	單位	金額	數量	金額				
材料素品													
上等丸鋼 (寸法)													
並丸鋼													
上等平鋼													
並平鋼													
上等角鋼													
並角鋼													
何何何													
何何何													
小計													
運轉用品													
何何何													
何何何													
小計													
停車場事務用品													
何何何													
何何何													
小計													
器具器械													
何何何													
何何何													
小計													
資用品													
何何何													

第二號樣式 (第一條第三項)		貯藏物品																	
何鐵道株式會社		受拂表																	
明治年月日																			
種類品質	數量 稱呼	受						拂						殘	備考				
		繰越高		當月受高		合計		決算		假出		喪却				缺損		合計	
		數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額			數量	金額	數量	金額
何																			
雜類																			
何何何																			
何何何																			
小計																			
小合計																			
備考		一 購入スヘキ物品ノ種類品質單位又ハ用途ノ異ナルモノハ其品名ヲ別々ニ記載スヘシ 二 現在高ニハ購入スヘキ物品ト種類品質同一ナル貯藏物品一切ヲ記載スヘシ但シ代金未拂其他金額未確定ノモノハ見積金額ヲ以テ記載シ備考欄ニ各其數量及見積金額ヲ記載スヘシ 三 假出物品ハ凡テ現在高ニ算入セザルモノトス 四 現在品ノ單位ハ數量ヲ以テ金額ヲ除シタル平均單位ヲ記載スヘシ 五 現在品ノ用途カ購入スヘキ物品ト異ナルトキハ備考欄ニ其用途數量及金額ヲ記載スヘシ																	

第三號樣式 (第二條)

何鐵道株式會社

何改築改造工事豫算金額明細表

明治 年 月 日 申請

項	目	數量	單價	金高	建設費	備考	項	目	數量	單價	金高	建設費	備考
測量費	用地						停車場費	木乘客貨跨何					
工事監督費	線路						波戶費	屋島上庫車橋					
用地費	路車道						器機場費	移家改新改					
土工費	切築						諸建費用	轉設築設築々					
橋梁費	何川橋梁						建費用	增改新改					
溝橋費	第何號溝橋						車費用	關					
伏越道費	何隧道改築						界費用	車車					
軌道費	軌條及附屬						杭費用	物械					

備考
建設費ノ認可申請書ニ添付スヘキ金額ノ明細表中
改築改造ニ係ル例ヲ示スモノニシテ改築改造工事ニ要
スル金高ヲ第五欄内ニ記載シ其内資本勘定ニ屬スルモ

設備及車止

ノハ建設費支辨欄内ニ又移轉其他營業費ニ屬スルモノノ
ノ關聯スルトキハ其金高ヲ備考欄内ニ朱記スヘシ
改築改造工事以外ノモノニ付テハ本例ニ準シテ之ヲ作
ルヘシ

第四號樣式 (第六條)

何鐵道株式會社

貯藏物品

現在表

明治三十九年三月三十一日

種類品質	數量稱呼	數量	單價	金額	備考
------	------	----	----	----	----

備考
一 本表ハ三十九年三月三十一日現在ノ一切ノ貯藏物品ヲ記載スヘシ但シ代金未拂其他金額未確定ノ
モノハ見積代金ヲ以テ記載シ備考欄ニ各其數量及見積金額ヲ記載スヘシ
二 貯藏物品ノ種類品質又ハ單價ノ異ナルモノハ其品名ヲ別々ニ記載スヘシ
三 本表附録ニハ鐵道國有法發布以前ニ於テ購入ヲ契約シタル貯藏物品ニシテ發布前ニ現品ヲ受入レ
發布後代金ヲ仕拂フ物品等ヲ記載スヘシ

第四號附錄樣式

何鐵道株式會社

鐵道國有法發布前ノ契約ニ係ル

貯藏物品

明治三十九年三月三十一日

摘要	種類品質	數量稱呼	數量	單價	金額	現品受入時期	代金仕拂時期	用途	使用期間	備考
發布前現品ヲ受入レ發布後代金ヲ仕拂フモノ	何	小計								
發布前代金ヲ仕拂レ發布後現品ヲ受入ルモノ	何	小計								
發布後現品ヲ受入レ且ツ代金ヲ仕拂フモノ	何	小計								
	何	合計								

○外務省令第二號

明治三十六年外務省令第一號外務省留學生規程中左ノ通改正ス

明治三十九年五月十五日

外務大臣侯爵西園寺公望

第十三條中尋常中學校ヲ「中學校ニ改ム
第十五條第二項ノ次ニ左ノ二項ヲ加フ

中學校以上ノ學校卒業生ニシテ外務大臣ノ認定シタル在清國學校ヲ卒業シタル者ハ第一項ノ規定ニ拘ラス外務省文官普通試験委員ノ審査ヲ經テ外務省留學生ヲ命シ清國ニ限リ留學セシムルコトヲ得

第九條第十條及本條第一項但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

〔參照〕

外務省令第一號外務省留學生規程(明治三十六年七月十一日)抄録
第十三條 外務省留學生試験ハ尋常中學校以上ノ學校ヲ卒業シタル者ニ限リ外務省文官普通試験委員ニ於テ第十一條ニ規定シタル出願書類ヲ調査シ適當ト認メタル者ヲ召集シ左ノ試験ヲ施行スヘシ
第十五條 外務省留學生ハ第十三條ノ試験ニ合格シタル者ノ中ヨリ之ヲ採用ス但別記乙號應形ニ依リ調整シタル證書ヲ提出スヘシ
試験合格ノ有効期限ハ六箇月間トス

○内務省令第四號

明治三十四年内務省令第八號島嶼在勤者月手當給與細則第一條中判任官ノ上ニ委任官(水産)ヲ加ヘ別表判任官六圓ノ上ニ委任官(水産)拾圓ヲ追加ス

明治三十九年五月十八日

内務大臣原敬

〔參照〕

內務省令第八號島嶼在勤者月手賃給與細則(明治三十四年四月二十二日)抄錄
第一條 本年勅令第六十四號ニ依リ島嶼ニ在勤スル地方官廳ノ判任官及巡查員ニ支給スル月手賃ハ別表ニ依ル

○大藏省令第十八號

明治三十八年大藏省令第四號煙草賣捌規則第十條第二項ヲ左ノ通改ム

明治三十九年五月三日 大藏大臣法學博士阪谷芳郎

政府ヨリ買受クル製造煙草ノ代金一回五百圓以上ニ達スル者ハ代金納付ノ擔保トシテ國債證券地方債證券若クハ煙草專賣局長ノ指定シタル株式會社ノ株券又ハ債券ヲ提供シ代金ノ延納ヲ請求スルコトヲ得

〔參照〕

省令第四號煙草賣捌規則(明治三十八年二月四日)抄錄
第十條第二項 政府ヨリ買受クル製造煙草ノ代金一回五百圓以上ニ達スル者ハ代金納付ノ擔保トシテ國債證券地方債證券若クハ政府ノ保證又ハ監視ヲ受クル株式會社ノ株券若クハ債券ヲ提供シ代金ノ延納ヲ請求スルコトヲ得

○大藏省令第十九號

明治三十九年法律第一號第五條ニ依リ發行スル大藏省證券ノ額面種類ハ十萬圓、一萬圓、千圓及五百圓ノ四種トス

明治三十九年大藏省令第二十六號ハ前項ノ大藏省證券ニ之ヲ準用ス

明治三十九年五月八日 大藏大臣法學博士阪谷芳郎

○大藏省令第二十號

明治三十二年大藏省令第六號土地登記規則施行細則中左ノ通改正ス

明治三十九年五月二十三日

大藏大臣法學博士阪谷芳郎

第三條第一項ノ次ニ左ノ二項ヲ加フ

第五條第一項ヲ左ノ通改ム
土地所有權ノ移轉又ハ負擔及地上權ノ設定、移轉、消滅若ハ地上權ノ期間ノ變更ハ登記所ヨリ通知アルニ非サレハ之ヲ登記セズ但シ國有地、御料地ノ拂下、讓與、下渡ニ因リ又ハ未登記土地ノ收用ニ因リ所有權ノ移轉シタル場合及未登記土地ノ國有ト爲リ又ハ河川法ニ依リ河川ノ敷地ト爲リタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

〔參照〕

大藏省令第六號土地登記規則施行細則(明治三十二年四月一日)抄錄
第三條 土地登記ノ請求書ニシテ本ノ其請求書ニ手数料ヲ添ヘ市ハ府縣廳町村ハ島嶼郡役所ニ申出ヘシ
第五條 土地所有權ノ移轉又ハ買入者ハ地上權ノ設定ハ登記所ヨリ通知アルニアラサレハ之ヲ登記セズ但シ未登記ノ土地ニ付收用ニ因リ所有權ノ移轉シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

○大藏省令第二十一號

鹽專賣法第二十條ノ二ニ依リ鹽買業者ノ販賣スル鹽ノ價格制限方左ノ通相定ム

明治三十九年五月二十八日 大藏大臣法學博士阪谷芳郎

第一條 鹽買業者ハ其ノ販賣スル鹽ノ價格ヲ店頭ニ揭示スヘシ

第二條 鹽務局長ハ必要ト認メタルトキハ大藏大臣ノ認可ヲ經テ鹽買業者ノ販賣スル鹽ノ價格ヲ制限スルコトヲ得
鹽務局長ハ前項ニ依リ鹽ノ價格ヲ制限シタルトキハ其ノ地方ノ新聞紙ヲ以テ之ヲ公告スヘシ

○大藏省令第二十二號

明治三十四年大藏省令第二十五號中橫濱神戸間ノ項左ノ通改正ス

明治三十九年五月二十八日

大藏大臣法學博士阪谷芳郎

橫濱名古屋間

官設鐵道

大阪神戸間

官設鐵道

名古屋大阪間

官設鐵道
小關西鐵道

(參照)

明治三十四年十一月廿一日大藏省令第二十五號ハ保稅倉庫法第四條ニ依ル通路ノ件ナリ

○大藏省令第二十三號

國債規則左ノ通之ヲ定ム

明治三十九年五月二十九日

大藏大臣法學博士阪谷芳郎

國債規則

第一章 取扱店

第一條 國債事務取扱店ノ位置及名稱ハ別ニ之ヲ告示ス

第二條 此ノ規則ニ於テ取扱店トアルハ登錄國債ニ關スル取扱ニ付テハ所管取扱店トス但シ特別

ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

第二章 證券

第三條 國債證券ノ見本ハ之ヲ各取扱店ニ配置シ其ノ旨ヲ告示ス但シ時宜ニ由リ見本ヲ配置セス

シテ様式ノ要項ヲ告示スルコトアルヘシ

何人ト雖モ取扱店ニ就キテ前項ノ見本ヲ閱覽スルコトヲ得

第四條 國債證券ニハ記號及番號ヲ附ス

記名國債證券ニハ記名紙ヲ貼附シ其ノ證券及利札ニハ記名ノ二字ヲ記ス

第五條 國債證券ノ額面金額ハ特別ノ規定アルモノヲ除ク外五十圓、百圓、二百圓、五百圓、千圓、一

千圓、五千圓及一萬圓ノ八種トス

第六條 大藏省ニ國債證券彙帳ヲ置ク

國債證券ヲ發行スルトキハ前項ノ彙帳ニ契印ス

第七條 國債ノ應募者ハ交付ヲ受クヘキ證券ニ付テ其ノ額面金額ノ種類ヲ選擇スルコトヲ得ス

第八條 國債證券カ汚染又ハ毀損シタルトキハ其ノ所有者ハ之カ引換ヲ請求スルコトヲ得此ノ場

合ニ於テハ左ノ事項ヲ記載シ及署名捺印シタル書面ニ該證券ヲ添ヘ之ヲ取扱店ニ提出スヘシ

一 證券ノ名稱額面金額ノ種類及枚數

二 證券ノ記號及番號

三 證券ノ附屬利札面ニ記載スル利子仕拂期

四 記名無記名ノ區別

五 請求ノ年月日

六 請求者ノ住所

第九條 記名國債證券ニ付テ登錄ノ變更若ハ登錄所管取扱店ノ轉換ヲ請求シ又ハ無記名國債證券

ヲ記名證券ニ變換ノ請求ヲ爲ス場合ニ於テ其ノ證券カ汚染又ハ毀損ニ係ルモノナルトキハ併セ

テ其ノ證券ノ引換ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ旨ヲ登錄ニ關スル請求書ニ附記ス

ルコトヲ要ス

第十條 汚染又ハ毀損シタル國債證券ト引換ノ爲交付スル代證券ノ附屬利札ハ現ニ存在スル原證券ノ附屬利札ニ從ヒ之ヲ附ス

第十一條 國債證券ノ所有者ハ額面金額ノ種類ニ從ヒ證券ノ分割又ハ併合ヲ請求スルコトヲ得但シ其ノ分割ハ最小限ヲ額面五十圓トス

第十二條 舊公債證券ヲ除ク外元金償還期ノ確定シタル國債證券ニ付テハ分割又ハ併合ヲ請求スルコトヲ得元金償還ノ爲抽籤ヲ執行スル場合共ノ抽籤セラルヘキ證券ニ付テハ償還告示ノ日ヨリ當籤廣告ノ日キテ亦同シ

起債年ノ異ナルモノ又ハ舊公債證券ヲ除ク外記號ノ異ナル國債證券ニ付テハ併合ヲ請求スルコトヲ得ス

第十三條 國債證券ノ分割又ハ併合ヲ請求セントスル者ハ左ノ事項ヲ記載シ及署名捺印シタル書面ニ該證券ヲ添ヘ之ヲ取扱店ニ提出スルモ

一 原證券ノ名稱額面金額ノ種類及枚數

二 原證券ノ記號及番號

三 原證券ノ附屬利札面ニ記載スル利子仕拂期

四 原證券ノ記名無記名ノ區別

五 代證券ノ額面金額ノ種類及枚數

六 請求ノ年月日

七 請求者ノ住所

原證券ノ附屬利札申未タ利子仕拂期ノ開始セサルモノ一枚又ハ二枚以上欠缺セルトキハ請求ノ

際其ノ欠缺利札ニ於ケル利子金額ニ相當スル現金ヲ取扱店ニ納付スルモ

第十四條 前二條ノ規定ハ臺灣事業公債法第三條第四項ノ規定ニ依ル公債ノ變換ニ之ヲ準用ス

第十五條 國債證券ノ附屬利札盡キタルトキハ其ノ所有者ハ該證券ヲ取扱店ニ提出シ次期以降利札ノ繼續ヲ請求スルモ但シ時宜ニ由リ更ニ次期以降ノ利札ヲ附シタル證券ヲ交付スルコトアルヘシ此ノ場合ニ於テハ豫メ之ヲ告示ス

第十六條 記名國債證券又ハ其ノ利札ノ滅失又ハ紛失ニ付テ届出ヲ爲サントスル者ハ左ノ事項ヲ記載シ及署名捺印シタル書面ヲ取扱店ニ提出スルモ發見ノトキ亦之ニ準ス

一 證券ノ名稱及額面金額ノ種類

二 證券又ハ利札ノ枚數

三 證券又ハ利札ノ記號及番號

四 證券ノ滅失又ハ紛失ニ在リテハ附屬利札面ニ記載スル利子仕拂期利札ノ滅失又ハ紛失ニ在リテハ其ノ利札面ニ記載スル利子仕拂期

五 證券ノ記名

六 滅失又ハ紛失ノ事由場所及年月日

七 届出ノ年月日

八 届出人ノ住所

第十七條 記名國債證券又ハ其ノ利札ノ滅失又ハ紛失ニ因リ代證券又ハ代利札ノ交付ヲ請求セントスル者ハ前條第一號乃至第五號及第七號ノ事項ヲ請求ノ年月日並ニ請求者ノ住所ヲ記載シ及署名捺印シタル書面ヲ取扱店ニ提出スルモ

前項ノ場合ニ於テ代證券ノ額面金額ノ種類ヲ選擇セントスル者ハ其ノ種類及枚數ヲ請求書ニ記載スヘシ

第十八條 消滅時効ノ完成シタル國債證券又ハ利札竝ニ滅失又ハ紛失ニ因リ效力ヲ失ヒタル記名國債證券又ハ利札ヲ所持スル者ハ直ニ之ヲ最寄取扱店ニ返還スヘシ

第三章 登録

第十九條 國債登録簿ハ甲乙二種トシ甲種ハ證券ヲ發行セサルモノヲ登録シ乙種ハ證券ヲ發行シタルモノヲ登録ス

甲種國債登録簿ハ日本銀行本店ニ乙種國債登録簿ハ別ニ告示スル取扱店ニ之ヲ備フ

第二十條 甲種國債登録簿ニハ副本ヲ設ケ之ヲ大藏省ニ置ク

第二十一條 國債登録簿ノ様式ハ別ニ之ヲ告示ス

第二十二條 甲種國債登録簿ノ登録金額ハ各種國債證券ニ於ケル最小額面金額ヲ以テ整除シ得ヘキモノニ限ル

乙種國債登録簿ノ登録金額ハ各種國債證券ニ於ケル額面金額ノ種類ニ從フ

第二十三條 甲種國債登録簿ハ國債ノ種別及其ノ起債年毎ニ口坐ヲ分チ其ノ登録國債ニハ記號及番號ヲ附ス

乙種國債登録簿ニ於ケル登録國債ノ記號及番號ハ國債證券ノ記號及番號ニ從フ

第二十四條 國債ノ登録ハ自然人ニ在リテハ其ノ氏名ヲ、法人ニ在リテハ其ノ名ヲ、法人ニ非サル組合其ノ他ノ團體ニ在リテハ其ノ管理者ノ氏名ヲ以テ之ヲ爲ス但シ法人ニ準スヘキ團體ニシテ從來其ノ名ヲ以テ登録スルノ慣習アルモノハ其ノ慣習ニ從フ

登録國債ニ對スル共有者カ多數ナルトキハ請求書ニ掲ケタル筆頭者ノ氏名及他ノ人員ヲ登録シ其ノ氏名ハ別ニ共有人名簿ニ記載ス

第二十五條 國債ノ應募者又ハ引受人登録ヲ請求セントスルトキハ募入決定又ハ引受ノ際左ノ事項ヲ記載シ及署名捺印シタル書面ヲ取扱店ニ提出スヘシ

一 國債ノ種別及登録金額

二 登録スヘキ記名

三 請求ノ年月日

四 請求者ノ住所但シ請求者ト記名者ト異ナルトキハ記名者ノ住所トモ

前項ノ場合ニ於テ記名國債證券ノ交付ヲ受ケントスル者ハ其ノ旨ヲ登録ノ請求書ニ附記スヘシ

第二十六條 無記名國債證券ノ所有者登録ヲ請求セントスルトキハ左ノ事項ヲ記載シ及署名捺印シタル書面ニ該證券ヲ添ヘ之ヲ取扱店ニ提出スヘシ

一 證券ノ名稱、額面金額ノ種類及枚數

二 證券ノ記號及番號

三 證券ノ附屬利札面ニ記載スル利子仕拂期

四 登録金額

五 登録スヘキ記名

六 請求ノ年月日

七 請求者ノ住所但シ請求者ト記名者ト異ナルトキハ記名者ノ住所トモ

前項ノ場合ニ於テ無記名國債證券ヲ記名證券ニ變換セントスル者ハ其ノ旨ヲ登録ノ請求書ニ附

記スヘシ

第一項ノ規定ニ依リ請求者ノ提出シタル國債證券ノ附屬利札中未タ利子仕拂期ノ開始セサルモ
ノ一枚又ハ二枚以上欠缺セルトキハ請求ノ際其ノ欠缺利札ニ於ケル利子金額ニ相當スル現金ヲ
取扱店ニ納付スヘシ

第二十七條 甲種國債登錄簿ニ登錄シタル國債ニ付テ登錄ノ變更ヲ請求セントスル者ハ左ノ事項
ヲ記載シ及署名捺印シタル書面ヲ取扱店ニ提出スヘシ

- 一 國債ノ種別及變更スヘキ登錄金額
 - 二 登錄ノ記號及番號
 - 三 原記名及新記名
 - 四 登錄變更ノ事由
 - 五 請求ノ年月日
 - 六 請求者ノ住所但シ請求者ト新記名者ト異ナルトキハ新記名者ノ住所トモ
前項ノ場合ニ於テ請求者ハ登錄變更ノ事由ヲ證スルニ足ルヘキ書類ヲ提出スルコトヲ要ス但シ
權利ノ移轉ニ因ル登錄ノ變更ヲ請求スル場合當事者雙方カ其ノ請求書ニ連署捺印ヲ爲シタルト
キハ此ノ限ニ在ラス
- 第二十八條 乙種國債登錄簿ニ登錄シタル國債ニ付テ登錄ノ變更ヲ請求セントスル者ハ左ノ事項
ヲ記載シ及署名捺印シタル書面ニ記名國債證券ヲ添ヘ之ヲ取扱店ニ提出スヘシ
- 一 國債ノ種別及變更スヘキ登錄金額
 - 二 證券ノ額面金額ノ種類及枚數

三 證券ノ記號及番號

四 證券ノ附屬利札面ニ記載スル利子仕拂期

五 原記名及新記名

六 登錄變更ノ事由

七 請求ノ年月日

八 請求者ノ住所但シ請求者ト新記名者ト異ナルトキハ新記名者ノ住所トモ

前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十九條 乙種國債登錄簿ニ登錄シタル國債ニ付テ甲種國債登錄簿ニ移記ヲ請求セントスル者

ハ左ノ事項ヲ記載シ及署名捺印シタル書面ニ記名國債證券ヲ添ヘ之ヲ取扱店ニ提出スヘシ

一 國債ノ種別及移記スヘキ登錄金額

二 證券ノ額面金額ノ種類及枚數

三 證券ノ記號及番號

四 證券ノ附屬利札面ニ記載スル利子仕拂期

五 登錄ノ記名

六 請求ノ年月日

七 請求者ノ住所

第三十條 甲種國債登錄簿ニ登錄シタル國債ニ付テ乙種國債登錄簿ニ移記ヲ請求セントスル者

ハ左ノ事項ヲ記載シ及署名捺印シタル書面ヲ取扱店ニ提出スヘシ

一 國債ノ種別及移記スヘキ登錄金額

- 二 登録ノ記號及番號
- 三 登録ノ記名
- 四 登録簿移記ニ因リ交付ヲ受クヘキ記名證券ノ額面金額ノ種類 枚數及附屬利札面ニ記載スル利子仕拂期
- 五 請求ノ年月日
- 六 請求者ノ住所
- 第三十一條 登録國債ニ付テ登録變更ノ請求ヲ爲ス者ハ併セテ登録簿ノ移記ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ移記スヘキ登録金額ヲ登録變更ノ請求書ニ附記シ尙乙種國債登録簿ニ移記ノ請求ヲ爲ス場合ニ在リテハ前條第四號ノ事項ヲモ附記スルコトヲ要ス
- 第三十二條 第二十七條 第二十八條及前條ノ規定ハ臺灣事業公債法第三條第四項ノ規定ニ依ル公債ノ變換ニ之ヲ準用ス
- 第三十三條 乙種國債登録簿ニ登録シタル國債ニ付テ登録所管取扱店ノ轉換ヲ請求セントスル者ハ左ノ事項ヲ記載シ及署名捺印シタル書面ニ記名國債證券ヲ添ヘ之ヲ現所管取扱店ニ提出スヘシ
 - 一 國債ノ種別及轉換スヘキ登録金額
 - 二 證券ノ額面金額ノ種類及枚數
 - 三 證券ノ記號及番號
 - 四 證券ノ附屬利札面ニ記載スル利子仕拂期
 - 五 登録ノ記名

- 六 轉換先取扱店名
- 七 請求ノ年月日
- 八 請求者ノ住所
- 第三十四條 國債ノ登録變更又ハ登録簿移記ノ請求ヲ爲ス者ハ併セテ登録所管取扱店ノ轉換ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ前條第六號ノ事項ヲ登録變更又ハ登録簿移記ノ請求書ニ附記スルコトヲ要ス
- 第三十五條 國債ノ登録變更、登録簿移記及登録所管取扱店轉換ノ請求ハ第三十一條及前條ノ規定ニ準シ必要ノ事項ヲ附記シ併セテ之ヲ爲スコトヲ得
- 登録變更又ハ登録所管取扱店轉換ノ請求ト記名國債證券ノ分割若ハ併合又ハ滅失若ハ紛失ニ因ル代證券交付ノ請求トニ付テ亦前項ノ例ニ準ス
- 第三十六條 甲種國債登録簿ニ登録シタル國債ニ付テ登録ノ除却ヲ請求セントスル者ハ左ノ事項ヲ記載シ及署名捺印シタル書面ヲ取扱店ニ提出スヘシ
 - 一 國債ノ種別及除却スヘキ登録金額
 - 二 登録ノ記號及番號
 - 三 登録ノ記名
 - 四 登録除却ニ因リ交付ヲ受クヘキ無記名證券ノ額面金額ノ種類 枚數及附屬利札面ニ記載スル利子仕拂期
 - 五 請求ノ年月日
 - 六 請求者ノ住所

第三十七條 乙種國債登錄簿ニ登錄シタル國債ニ付テ登錄ノ除却ヲ請求セントスル者ハ左ノ事項ヲ記載シ及署名捺印シタル書面ニ記名國債證券ヲ添ヘ之ヲ取扱店ニ提出スヘシ

一 國債ノ種別及除却スヘキ登錄金額

二 證券ノ額面金額ノ種類及枚數

三 證券ノ記號及番號

四 證券ノ附屬利札面ニ記載スル利子仕拂期

五 登錄ノ記名

六 請求ノ年月日

七 請求者ノ住所

前項ノ場合ニ於テ登錄除却ニ因リ交付ヲ受ケヘキ無記名國債證券ノ額面金額ノ種類ヲ選擇セントスル者ハ其ノ種類及枚數ヲ請求書ニ記載スヘシ

第三十八條 記名國債證券ノ滅失又ハ紛失ニ因リ代證券交付ノ請求ヲ爲ス者ハ併セテ登錄ノ除却ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ旨ヲ代證券交付ノ請求書ニ附記スルコトヲ要ス

第三十九條 第十一條ノ規定ニ依リ無記名國債證券ト記名國債證券トノ併合ヲ請求スル者ハ同時ニ新規登錄又ハ登錄除却ノ請求ヲ爲スコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ其ノ旨ヲ併合ノ請求書ニ附記スヘシ

第四十條 登錄國債ニ付テ質權設定又ハ轉質ノ登錄ヲ請求セントスル者ハ左ノ事項ヲ記載シ及當事者雙方ノ連署捺印ヲ爲シタル書面ヲ取扱店ニ提出スヘシ

一 國債ノ種別及質權ノ目的ト爲シタル登錄金額

二 登錄ノ記號及番號又ハ證券ノ額面金額ノ種類記號及番號

三 登錄ノ記名

四 債權ノ金額及其ノ辨濟期

五 債權ニ付利息ニ關スル定メアルトキ、違約金又ハ賠償額ノ定メアルトキ、債權ニ條件ヲ附シタルトキ及民法第三百四十六條但書ノ定メアルトキハ其ノ事項

六 質權設定者カ債務者ニ非サルトキハ債務者ノ住所氏名

七 請求ノ年月日

八 請求者ノ住所

第二十二條第一項ノ規定ハ質權ノ目的ト爲ス國債ノ登錄金額ニ之ヲ準用ス

第四十一條 前條ノ規定ハ登錄國債ニ關スル債權ノ移轉ニ因リ登錄ヲ變更シ及質權ノ消滅ニ因リ登錄ヲ抹消スル場合ニ之ヲ準用ス

第四十二條 取扱店ニ於テ甲種國債登錄簿ニ新規、變更、移記及質權ノ登錄ヲ爲シタルトキハ其ノ國債ノ種別、登錄金額、記號、番號、記名及登錄濟年月日其ノ他ノ要件ヲ記載シタル登錄濟證書ヲ請求者ニ交付ス乙種國債登錄簿ニ質權ニ關スル登錄ヲ爲シタルトキ亦同シ

第四十三條 登錄國債ノ元金償還又ハ買入銷却アリタルトキハ取扱店ニ於テ受取人ノ領收證書又ハ回收ノ記名國債證券ニ依リ之ニ對スル登錄ヲ除却ス

第四十四條 甲種國債登錄簿ニ登錄セラレタル記名者其ノ他ノ利害關係人ハ何時ト雖モ利害ノ關係アル部分ニ限リ甲種國債登錄簿ノ閲覧又ハ其ノ謄本若ハ抄本ノ交付ヲ取扱店ニ請求スルコトヲ得

前項ノ請求ハ書面ヲ以テ之ヲ爲シ且ツ他人ノ記名ニ係ル部分ノ閱覽又ハ謄本若ハ抄本ノ交付ニ付テハ其ノ利害關係ヲ證スルニ足ルヘキ書類ヲ提出スルコトヲ要ス但シ當該記名者カ請求書ニ連署捺印ヲ爲シタルトキハ證據書類ノ提出ヲ要セス

第四十五條 登錄國債ノ記名者及其ノ權利ヲ行使スル者ハ印鑑ヲ取扱店ニ提出シ置クコトヲ要ス改印ノトキ亦同シ

取扱店ハ其ノ須要ニ因リ關係人ノ印鑑ヲ徵スルコトヲ得

第四十六條 登錄國債ノ記名者住所ヲ轉シタルトキハ直ニ之ヲ取扱店ニ届出ツヘシ

第四章 償還及仕拂

第四十七條 國債元金ノ一部償還ハ特別ノ規定アルモノヲ除ク外抽籤ノ方法ニ依ル

抽籤ノ方法ハ日本銀行ニ於テ大藏大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ定ム

第四十八條 國債ノ元金ヲ償還スル爲抽籤ヲ執行スルトキハ其ノ償還額、償還期日及抽籤執行日ヲ定メ之ヲ告示ス

第四十九條 抽籤ハ日本銀行本店ニ於テ之ヲ執行ス

第五十條 當籤シタル國債證券ノ額面金額ノ種類、記號及番號並ニ甲種國債登錄簿ノ登錄金額、記號及番號ハ日本銀行之ヲ廣告ス

第五十一條 國債元金ノ全部償還ヲ爲ストキハ其ノ償還額及償還期日ヲ定メ豫メ之ヲ告示ス

第五十二條 國債利子ノ仕拂期ハ特別ノ規定アルモノヲ除ク外毎年二回トシ各其ノ日以前六箇月間ニ屬スルモノヲ仕拂フ但シ元金償還ノ場合ニ於ケル當期分利子ハ元金ト同時ニ之ヲ仕拂フ

前項ノ利子仕拂期日ハ起債ノトキ之ヲ定ム

第五十三條 起債當初ニ於ケル利子ノ計算方法ハ起債ノトキ之ヲ定メ國債元金償還ノ場合ニ於ケル利子ハ元金償還ノ期日マテ之ヲ附ス但シ特別ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

第五十四條 無記名國債證券ニ對スル元金及利子ハ證券又ハ利札ノ持參人ニ其ノ證券又ハ利札ト引換ニ之ヲ仕拂フ

第五十五條 登錄國債ノ元金及利子ハ甲種國債登錄簿ニ登錄シタル國債ニ在リテハ領收證書ト乙種國債登錄簿ニ登錄シタル國債ニ在リテハ證券又ハ利札ト引換ニ記名者又ハ其ノ權利ヲ行使スル者ニ之ヲ仕拂フ

第五十六條 證券ヲ發行シタル國債ノ元金ト同時ニ仕拂フヘキ利子ハ其ノ證券ニ對シテ之ヲ仕拂フ

第五十七條 滅失又ハ紛失シタル國債證券又ハ利札ニ對スル元金又ハ利子ハ領收證書ト引換ニ之ヲ仕拂フ

第五十八條 國債證券又ハ利札ノ所有者ハ元金償還期又ハ利子仕拂期ノ開始前該證券又ハ利札ヲ取扱店ニ預託シ置クコトヲ得

第五十九條 甲種國債登錄簿ニ登錄セラレタル記名者ハ所管外ノ取扱店ニ於テ其ノ元金又ハ利子ノ仕拂ヲ受クルコトヲ得此ノ場合ニ於テ其ノ仕拂請求ヲ爲サントスル者ハ左ノ事項ヲ記載セ及署名捺印シタル書面ニ印鑑ヲ添ヘ豫メ之ヲ取扱店ニ提出スヘシ

一 國債ノ種別及仕拂ヲ受クヘキ元金又ハ利子ニ對スル登錄金額

二 登錄ノ記號及番號

三 登錄ノ記名

- 四 仕拂ヲ受クヘキ元金額又ハ利子金額
- 五 元金償還期又ハ利子仕拂期
- 六 仕拂ノ取扱店名
- 七 請求ノ年月日
- 八 請求者ノ住所

第六十條 甲種國債登録簿ニ登録セラレタル記名者ハ利子ノ送付ヲ請求スルコトヲ得但シ送金ノ費用及危険ハ請求者ノ負擔トス
前項ノ場合ニ於テハ左ノ事項ヲ記載シ及署名捺印シタル書面ニ領收證書ヲ添ヘ之ヲ取扱店ニ提出スヘシ

- 一 國債ノ種別及仕拂ヲ受クヘキ利子ニ對スル登録金額
- 二 登録ノ記號及番號
- 三 登録ノ記名
- 四 仕拂ヲ受クヘキ利子金額及當該仕拂期
- 五 送付ヲ受クヘキ場所及送金ノ方法
- 六 請求ノ年月日
- 七 請求者ノ住所

第六十一條 滅失又ハ紛失シタル記名國債證券又ハ其ノ利札ニ對スル元金ノ償還又ハ利子ノ仕拂ヲ請求セントスル者ハ左ノ事項ヲ記載シ及署名捺印シタル書面ヲ取扱店ニ提出スヘシ
一 證券ノ名稱及額面金額ノ種類

- 二 證券又ハ利札ノ枚數
- 三 證券又ハ利札ノ記號及番號
- 四 證券ノ記名
- 五 仕拂ヲ受クヘキ元金額又ハ利子金額
- 六 元金償還期又ハ利子仕拂期
- 七 滅失又ハ紛失届出ノ年月日
- 八 請求ノ年月日
- 九 請求者ノ住所

第六十二條 滅失又ハ紛失シタル無記名國債證券又ハ其ノ利札ニ對スル元金ノ償還又ハ利子ノ仕拂ヲ請求セントスル者ハ左ノ事項ヲ記載シ及署名捺印シタル書面ニ印鑑ヲ添ヘ之ヲ取扱店ニ提出スヘシ

- 一 證券ノ名稱及額面金額ノ種類
- 二 證券又ハ利札ノ枚數
- 三 證券又ハ利札ノ記號及番號
- 四 仕拂ヲ受クヘキ元金額又ハ利子金額
- 五 元金償還期又ハ利子仕拂期
- 六 滅失又ハ紛失ノ事由場所及年月日
- 七 提供スヘキ擔保ノ種類及數額又ハ保證人ノ住所氏名
- 八 請求ノ年月日

九 請求者ノ住所

第六十三條 前條ノ場合ニ於テ取扱店ノ承認ヲ得タル者ハ滅失又ハ紛失シタル證券又ハ利札ノ持
參人カ償還又ハ仕拂ヲ受ケタル場合ニハ其ノ金額及其ノ仕拂ノ日以後ノ利子ヲ辨償スヘキ旨ノ
契約證書ヲ作り之ヲ取扱店ニ提出シ同時ニ之ニ對スル擔保ヲ提供スヘシ但シ保證人ヲ立テ擔保
ノ提供ニ代フル場合ニ於テハ契約證書ニ保證人ノ連署捺印ヲ爲シ及其ノ印鑑ヲ提出スルコトヲ
要ス

第五章 擔保及保證

第六十四條 無記名國債證券又ハ其ノ利札ヲ滅失又ハ紛失シタル者カ元金ノ償還又ハ利子ノ仕拂
ヲ受クル爲メ提供スヘキ擔保ハ現金、登錄國債又ハ國債證券其ノ他取扱店ノ確實ト認メタル有價
證券トス

第六十五條 前條ノ擔保額ハ償還ヲ受クヘキ元金又ハ仕拂ヲ受クヘキ利子ノ金額ニ其ノ仕拂フヘ
キ日ヨリ元金又ハ利子ノ消滅時効完成ノ日ニ至ルマテノ日數ニ應スル一箇年百分ノ五ノ利子金
額ヲ加ヘタルモノヲ以テ最下限トス

第六十六條 擔保物ノ價格ハ取扱店ノ認定ニ依ル
擔保物ノ價格減少シタルトキハ取扱店ノ指定シタル期日內ニ増擔保ヲ提供スルコトヲ要ス但シ
取扱店ノ承認ヲ經テ代保證人ヲ立ツルコトヲ妨ケス

第六十七條 現金又ハ有價證券ヲ以テ擔保ト爲ストキハ之ヲ供託シ其ノ供託受領證書ヲ取扱店ニ
提出スヘシ

第六十八條 甲種國債登錄簿ニ登錄シタル國債ヲ以テ擔保ト爲ストキハ質權設定ノ登錄ヲ爲スニ

必要ナル事項ヲ記載シタル擔保提供書ヲ取扱店ニ提出スヘシ

第六十九條 擔保ヲ提供シタル者カ其ノ擔保物ヲ變更セントスルトキハ新ニ提供スヘキ擔保ノ種
類及數量ヲ記載シ年月日、住所、氏名ヲ署シ及捺印シタル書面ヲ以テ之ヲ取扱店ニ請求シ其ノ承
認ヲ受クヘシ

前項ノ承認ヲ得タル者ハ直ニ前二條ノ規定ニ依リ新擔保物ノ提供ヲ爲スコトヲ要ス

第七十條 擔保ヲ提供シタル者ハ擔保ノ原因カ一部消滅シタル場合其ノ限度ニ應シ擔保ノ一部
解除ヲ取扱店ニ請求スルコトヲ得

第七十一條 擔保物ノ公賣ハ取扱店ニ於テ左ノ事項ヲ廣告シ最初廣告ノ日ヨリ少クトモ三日ヲ經
過シタル後入札ノ方法ヲ以テ之ヲ執行ス

一 公賣財産ノ名稱、數量及性質其ノ他重要ナル事項

二 入札及開札ノ場所及日時

三 保證金ヲ徵スルトキハ其ノ金額

四 代金納付ノ日限

第七十二條 公賣ノ場合取扱店ニ於テ必要ト認ムルトキハ保證金ヲ徵スルコトヲ得
落札者義務ヲ履行セザルトキハ其ノ保證金ハ之ヲ政府ノ所得トス

第七十三條 落札ト爲ルヘキ同價ノ入札ヲ爲シタル者二名以上アルトキハ其ノ同價ノ入札人ヲシ
テ追加入札ヲ爲サシメ落札者ヲ定ム追加入札ノ價格仍同シキトキハ抽籤ヲ以テ落札者ヲ定ム

第七十四條 擔保品ヲ公賣スルモ買受望人ナキカ又ハ其ノ價格見積價格ニ達セザルトキハ更ニ公
賣ヲ爲ス

落札者代金納付ノ期限マテニ代金ヲ完納セサルトキハ其ノ買買ヲ解除シ更ニ公賣ヲ爲ス

第七十五條 公賣シタル財産ニ付テ擔保提供者ヲシテ權利移轉ノ手續ヲ爲サシムルノ必要アルトキハ取扱店ニ於テ期限ヲ指定シ其ノ手續ヲ爲サシム

前項ノ期限マテニ擔保提供者カ其ノ手續ヲ爲ササルトキハ取扱店ニ於テ擔保提供者ニ代リ之ヲ爲スコトヲ得

第七十六條 公賣ノ決行前ニ擔保提供者カ辨償金ヲ完納シタルトキハ公賣ヲ止ム但シ公賣ノ費用ハ擔保提供者ノ負擔トス

第七十七條 公賣ノ費用ハ公賣代金ヲ以テ之ヲ支辨ス

公賣代金ヲ以テ辨償金及公賣費用ヲ支辨スルニ足ラサルトキハ取扱店ニ於テ納付ノ期日ヲ定メ之ヲ擔保提供者ニ通知ス前條但書ノ公賣費用ニ付テ亦同シ

第七十八條 擔保ノ提供ニ代フルコトヲ得ヘキ保證人ノ債務ハ主タル債務者ト連帶トス

第七十九條 保證人カ死亡シタルトキハ債務者ニ於テ速ニ代保證人ヲ立テ之ヲ取扱店ニ請求シ其ノ承認ヲ受クヘシ保證人ノ變更ヲ要スルトキ亦同シ

債務者ハ保證人ノ資産ノ減損ニ因リ取扱店ヨリ更ニ擔保ヲ提供スヘキコトヲ求メラレタルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス但シ取扱店ノ承認ヲ經テ代保證人ヲ立ツルコトヲ妨ゲス

第六章 雜則

第八十條 左ノ各號ノ請求ヲ爲ス者ハ下ニ掲グル割合ヲ以テ手数料ヲ納ムヘシ

- 一 汚染又ハ毀損シタル國債證券ノ引換 一枚毎ニ金二十錢
- 二 國債證券ノ分割又ハ併合 原證券一枚毎ニ金三錢 代證券一枚毎ニ金二十錢

三 滅失又ハ紛失シタル記名國債證券ノ代リ交付

原證券一枚毎ニ金二十錢

但シ代證券ノ枚數カ原證券ノ枚數ヨリモ多キトキハ其ノ超過枚數一枚毎ニ金十六錢ヲ加フ

四 滅失又ハ紛失シタル記名國債證券利札ノ代リ交付 一枚毎ニ金三錢

五 國債ノ新規登錄登錄變更及質權ニ關スル登錄

甲種國債登錄簿一件毎ニ金五錢

乙種國債登錄簿記名證券一枚毎ニ金五錢

六 國債登錄簿ノ移記 甲種國債登錄簿へ移記一件毎ニ金五錢

乙種國債登錄簿へ移記證券一枚毎ニ金二十錢

七 國債ノ登錄所管取扱店ノ轉換 證券一枚毎ニ金六錢

八 國債ノ登錄除却 甲種國債登錄簿一件毎ニ金五錢

但シ無記名國債證券ノ枚數カ記名證券ノ枚數ヨリモ多キトキハ其ノ超過枚數一枚毎ニ金十六錢ヲ加フ

九 國債登錄簿ノ閱覽 一回毎ニ金十錢

十 國債登錄簿ノ謄本又ハ抄本ノ交付 用紙一枚毎ニ金十錢一枚ニ滿タサルモノ亦同シ

前各條ノ規定ニ依リ前項各號中ノ事項ヲ併セ請求スル場合ニ於テハ各事項ノ手数料金額ヲ比較

シ其ノ多キ方ニ就キ之ヲ納ムヘシ

第八十一條 國債ノ登錄簿又ハ登錄簿ノ謄本若ハ抄本ノ郵送ヲ受ケントスル者ハ相當ノ郵送料ヲ取扱店ニ前納スヘシ

第八十二條 舊公債ノ賦金ニハ前各條中利子ノ規定ヲ、賦札ニハ前各條中利札ノ規定ヲ適用ス
第四條第二項及國債ノ登錄簿ニ關スル規定ハ舊公債ニハ之ヲ適用セス

附則

第八十三條 本令ハ明治三十九年七月一日ヨリ施行ス但シ明治三十八年以前發行大日本帝國政府五分利公債證書ノ分割又ハ併合ニ付テハ明治三十九年九月一日ヨリ本令ヲ適用ス
第八十四條 左ニ掲グル命令ハ之ヲ廢止ス

- 一 明治九年七月大藏省布達甲第十五號
- 二 同十九年十月同省令第三十號整理公債取扱順序
- 三 同二十年三月同省令第三號
- 四 同二十一年十一月同省令第十四號
- 五 同二十三年六月同省令第十六號
- 六 同二十六年三月同省令第五號鐵道公債取扱順序
- 七 同二十七年八月同省令第十五號軍事公債取扱順序
- 八 同年十一月同省令第二十號
- 九 同二十八年十月同省令第四號
- 十 同二十九年三月同省令第四號

十一 同年同省令第五號

十二 同三十七年二月同省令第四號國庫債券發行規程第十六條

十三 同年五月同省令第十七號第二回國庫債券發行規程第十六條

十四 同年十月同省令第四十號

十五 同年同省令第四十一號第三回國庫債券發行規程第十九條及第二十條

十六 同三十八年四月同省令第二十六號第五回國庫債券發行規程第十九條及第二十條

十七 同年十月同省令第四十八號

十八 同三十九年一月同省令第二號國債證券分合規則

十九 同年二月同省令第八號臨時事件公債規程第二十九條

本令施行前ニ整理公債條例ノ規定ニ依リ滅失又ハ紛失ノ届出ヲ爲シタル無記名國債證券及其ノ利札ノ處分ニ付テハ仍整理公債取扱順序ニ依ル

第八十五條 乙種國債登錄簿ハ當分ノ内從前取扱店ニ備ヘ置キタル記名簿ヲ以テ之ニ代用スルコトヲ得

○大藏省令第二十四號

國債規則中國債證券ノ汚染又ハ毀損ノ引換及分割又ハ併合ニ關スル規定ハ大藏省證券ニ之ヲ準用ス但シ仕拂期日ノ異ナル大藏省證券ニ付テハ併合ヲ請求スルコトヲ得ス

大藏省證券ニ關シ左ノ各號ノ請求ヲ爲ス者ハ下ニ掲グル割合ヲ以テ手数料ヲ納ムヘシ

- 一 汚染又ハ毀損シタル大藏省證券ノ引換 一枚毎ニ金十錢

二 大藏省證券ノ分割又ハ併合

〔原證券一枚毎ニ金三錢
代證券一枚毎ニ金十錢〕

本令ハ明治三十九年七月一日ヨリ施行ス

大藏大臣法學博士阪谷芳郎

明治三十九年五月二十九日

○大藏省令第二十五號

明治三十八年^{十一月}十一 大藏省令第五十號收入印紙ヲ以テ納ムヘキ手数料種目(明治三十八年十一月十六日)抄録

- 四 國債及大藏省證券ニ關スル手数料
- 五 削除
- 六 削除

本令ハ明治三十九年七月一日ヨリ施行ス

大藏大臣法學博士阪谷芳郎

明治三十九年五月二十九日

〔參照〕

- 大藏省令第五十號收入印紙ヲ以テ納ムヘキ手数料種目(明治三十八年十一月十六日)抄録
- 四 大藏省證券分割手数料
- 五 國債債券及國庫假借債券額面交換手数料
- 六 國債證券分合手数料

○陸軍省令第四號

明治三十三年陸軍省令第二十一號軍馬輸送規則ハ之ヲ廢止ス

陸軍大臣寺內正毅

明治三十九年五月三十一日

○司法省令第八號

和歌山地方裁判所管内和歌山區裁判所黒江出張所ヲ紀伊國海草郡日方町ニ移ス
本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

司法大臣松田正久

明治三十九年五月十六日

○司法省令第九號

那霸地方裁判所管内ニ左記甲號表ニ掲グル區裁判所出張所ヲ置キ明治二十六年司法省令第十號登記管轄區域表中宮崎地方裁判所欄ノ次ニ乙號表ノ一欄ヲ追加ス
本令ハ明治三十九年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

司法大臣松田正久

甲號

名	稱	位	區
那霸區裁判所糸滿出張所		琉球國島尻郡兼城間切糸滿村	
那霸區裁判所與那原出張所		同國同郡大里間切與那原村	
那霸區裁判所久米島出張所		同國同郡仲里間切儀間村	
那霸區裁判所首里出張所		同國首里區	
那霸區裁判所遊手納出張所		同國中頭郡北谷間切遊手納村	
那霸區裁判所具志川出張所		同國同郡具志川間切具志川村	
那霸區裁判所名護出張所		同國國頭郡名護間切名護村	

乙號		地方裁判所	區裁判所	出張所	管	市	區	町	村
那覇		那覇	那覇	那覇	那覇區	那覇區	那覇區	那覇區	那覇區
名護	具志川	嘉手納	首里	久米島	與那原	糸滿	那覇	那覇	那覇
琉球	琉球	琉球	琉球	琉球	琉球	琉球	琉球	琉球	琉球
名護郡ノ内	具志川郡ノ内	中頭郡ノ内	首里郡ノ内	島尻郡ノ内	島尻郡ノ内	島尻郡ノ内	那覇郡ノ内	那覇郡ノ内	那覇郡ノ内
名護間切	具志川間切	北谷間切	宜野灣間切	仲里間切	大里間切	兼城間切	伊平屋島	小祿間切	那覇間切
恩納間切	勝連間切	越來間切	中城間切	具志川間切	南風原間切	具志頭間切	波名喜島	豐見城間切	島尻郡ノ内
金武間切	與那城間切	讀谷山間切	浦添間切	島	玉城間切	東風平間切	粟國島	眞和志間切	那覇區
羽地間切	美里間切		西原間切		知念間切	眞壁間切	大東島	座間味間切	那覇區
久志間切					佐敷間切	喜屋武間切	渡嘉敷間切	那覇區	那覇區
						摩文仁間切			

那覇區裁判所大宜味出張所
同國同郡本部間切渡久地村

○文部省令第八號		明治三十六年文部省令第二十七號大阪高等工業學校規程中左ノ通改正ス	
大宜味	琉球	國頭郡ノ内	國頭間切
渡久地	琉球	國頭郡ノ内	本部間切
宮古	琉球	宮古郡	今歸仁間切
八重山	琉球	八重山郡	伊江島

明治三十九年五月九日 文部大臣牧野伸顯
第一條第一項中「採鑛冶金科」ニ改メ第二項中「冶金科」ニ關スル部分ヲ左ノ如ク改ム

採鑛冶金科

學科目	第一學年			第二學年			第三學年		
	學	數	時數	學	數	時數	學	數	時數
數學	五	三		二					
物理學	五	四							
無機化學	五								
機械工學大意				三			三		
電氣工學							二		
水力學							二		

兵式體操	簿記	工場建築法	工業總論	英語	算術	化學分析	製圖	鑛山法律大意	測量術	探礦學	吹管分析	冶金術	鐵冶金學	冶金學	地質學及鑛床學	礦物學
二				三		一〇	四			二						三
二				三		一三	四			二						二
二				三		一五	四			二				三	二	二
二				三		一〇	五		一	二	一	二	三	三	二	
二				三	一三		五		一	二	一	二	二	三	三	
二				三	一四		五		一	二	一	二	二	二	二	
二	一	一	一		二七			一						二		
二	一	一	一		二七			一						二		
二	一	一	一		二九											
合 計																
		三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九

附 則

本令ハ明治三十九年七月十一日ヨリ施行ス
 本令施行ノ際現ニ冶金科第二學年以上ニ在學スル生徒ニ課スヘキ學科課程ニ關シテハ學校長ニ於
 テ文部大臣ノ許可ヲ受ケ從前ノ規定ヲ斟酌スルコトヲ得

○農商務省令第十四號

輸出羽二重精練業法施行規則左ノ通相定ム

明治三十九年五月十日

農商務大臣松岡康毅

輸出羽二重精練業法施行規則

第一條 輸出羽二重精練業法第一條ニ依ル許可ヲ受ケムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル願書ニ
 工場及建物ノ位置、面積ヲ記載シタル圖面並機械配置ノ圖面ヲ添附シ法人ニ在リテハ尙定款ヲ
 添附シテ之ヲ差出スヘシ

- 一 精練業者ノ氏名又ハ名稱及住所
- 二 工場ノ位置並建物ノ面積及構造
- 三 精練ノ方法及精練劑ノ種類
- 四 工場ニ設備スヘキ機械ノ種類、名稱及箇數、第二條第一號乃至第三號ノ但書ノ場合ニ於テハ
 其ノ設備
- 五 一日ノ精練見込高

- 第二條 精練業者ハ左ノ設備方法ニ依リ精練ヲ爲スヘシ
- 一 蒸溜及乾燥ハ汽罐ヲ備ヘ蒸氣加熱ノ方法ニ依ルヘシ但シ乾燥ノ場合ニ於テ製品ノ毀損又ハ汚染ヲ防クヘキ設備ヲ爲ストキハ此ノ限ニ在ラス
 - 二 絞リ上ケニハ遠心方式絞水機ヲ用ウヘシ但シ製品ニ損傷ヲ生セサル方法ニ依ルトキハ此ノ限ニ在ラス
 - 三 仕上ケニハ「ロール」及霧吹器ヲ用ウヘシ但シ重目物ニ付テハ此ノ方法ニ依ラサルコトヲ得
- 第三條 精練業者第一條第三號及第四號ニ掲ケタル事項ヲ變更セムトスルトキハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ
- 第四條 精練業者營業ヲ開始シタルトキ第一條第一號若ハ第二號ニ掲ケタル事項ヲ變更シタルトキ又ハ營業ヲ休止シ若ハ再々營業ヲ開始シタルトキハ遲滞ナク地方長官ニ届出ツヘシ法人ニ在リテハ定款ヲ變更シタルトキ亦同シ
- 第五條 精練業者營業ノ許可ヲ得タルトキハ工場管理人ノ氏名及精練質ヲ十日以内ニ地方長官ニ届出ツヘシ之ヲ變更シタルトキ亦同シ
- 第六條 輸出羽二重精練業法第四條ノ届出ハ承継又ハ廢止ノ日ヨリ二週間以内ニ之ヲ爲スヘシ
- 第七條 精練業者ハ毎月十日以内ニ前月分ノ受入高及精練高其ノ他營業ノ狀況ヲ地方長官ニ届出ツヘシ
- 第八條 精練業者第三條ノ規定ニ違反シタルトキハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第九條 精練業者第四條 第五條又ハ第七條ノ届出ヲ怠リタルトキハ十圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第十條 地方長官カ輸出羽二重精練業法及本則ノ規定ニ依リ處分ヲ爲シタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ

農商務大臣ニ報告スヘシ

附則

第十一條 本則ハ輸出羽二重精練業法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○農商務省令第十五號

明治三十八年農商務省令第十七號鑛業法施行細則中左ノ通改正シ明治三十九年五月二十日ヨリ施行ス

農商務大臣松岡康毅

明治三十九年五月十一日

- 第十八條 第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ
- 前項 鄰接鑛業權者ノ承諾ヲ得タルトキハ願書ニ承諾書ヲ添附シテ差出スヘシ之ヲ添附セサルトキハ承諾ナキモノト看做ス
- 第二十六條 ノ末尾ニ「法人ノ代表者ヲ變更シタルトキ亦同シ」ノ十七字ヲ加フ
- 第三十六條 第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加ヘ第三項中「前二項」トアルヲ「前三項」ニ改ム
- 前項ノ期間内ニ登録ヲ申請シタルモ不受理ノ處分ヲ受ケタルモノハ其ノ處分ヲ受ケタル日ヨリ十五日以内ニ在リテハ前項ノ期間後ト變更ニ登録ヲ申請スルコトヲ得
- 第三十九條 第五號中「第二項」ヲ「第三項」ニ改ム
- 第四十條 ノ末尾ニ「法人ノ代表者ヲ變更シタルトキハ之ニ準シテ其ノ事實ヲ證スヘキ書面ヲ添ヘ其ノ旨ヲ鑛山監督署長ニ届出ヘシ」ノ四十九字ヲ加フ
- 第四十四條 第一項ヲ左ノ通改ム
- 鑛業施業案ニハ鑛床探鑛及開坑採鑛選鑛製鍊ニ關スル事項ヲ記載シ之ヲ説明スヘキ圖面ヲ添ヘ鑛業ニ著手ノ日ヨリ三十日以前ニ差出スヘシ

第四十七條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第四十七條ノ二 第二十三條ノ規定ハ坑内實測圖ニ關シ之ヲ準用ス

第六十三條第二項中「種目」ノ下ニ「面積」ノ二字ヲ「期間」ノ下ニ「立補償金及擔保」ノ七字ヲ加フ

第六十八條第一項ニ左ノ但書ヲ加フ
但シ交渉ヲ爲スコト能ハサルトキハ其ノ事由書ヲ以テ始末書ニ代フルコトヲ得
同條第四項ノ末尾ニ「申請書ノ交付ヲ爲スコト能ハサルトキ亦同シ」ノ二十字ヲ加フ
様式第十八號ヲ左ノ通改ム

様式第十八號甲 (三通)

明治 年鑛業明細表

種 類	採 取 部	種 別	越 高	採 掘 高	選 礦 元 高	製 鍊 元 高	販 賣 價 格	平均品位	製 鍊 元 高	販 賣 價 格	現 在 使 役 人 員	位 置		住 所
												名 稱	代 表 者	
工 數												何 府 縣 何 郡 何 町 村	何 鑛 山	何 某 印
工業日數											六月三十日 現在使役人員			

登 録 第 二 號

種 別	越 高	採 掘 高	選 礦 元 高	製 鍊 元 高	販 賣 價 格	平均品位	製 鍊 元 高	販 賣 價 格	現 在 使 役 人 員	位 置	
										名 稱	代 表 者
工 數										何 府 縣 何 郡 何 町 村	何 鑛 山
工業日數									六月三十日 現在使役人員		

備考

- 一 本表ハ金、銀、銅其ノ他一般ノ鑛物ニ關シ適用スルモノトス但シ石炭、亞炭及石油ヲ除ク
- 二 種別ノ欄ニハ採鑛ノ部ニ於テハ粗鑛ノ種類、名稱(金屬鑛ニ在リテハ金屬、銀鑛等ノ如シ)ヲ、選鑛ノ部ニ於テハ精鑛ノ種類、名稱ヲ、製鍊ノ部ニ於テハ製品ノ種類、名稱ヲ記載スヘシ
- 三 採鑛高ノ欄ニハ採鑛粗鑛ノ數量ヲ記載スヘシ
- 四 品位ハ金鑛、銀鑛、銅鑛、鉛鑛、鐵鑛、鋅及硫酸ヲ主トスル鑛山ニ關スルモノノ外之ヲ記載スルコトヲ要セス
- 五 選鑛元鑛高ノ欄ニハ選鑛ニ供シタル粗鑛ノ數量ヲ記載スヘシ
- 六 製鍊元鑛高ノ欄ニハ採鑛ノ部ニ於テハ製鍊ニ供シタル粗鑛、選鑛ノ部ニ於テハ製鍊ニ供シタル精鑛ノ數量ヲ記載スヘシ
- 七 粗鑛精鑛ハ實ク單位トシ製品ノ内金屬ハ又、鐵類ハ其ノ他ハ斤ヲ單位トス

様式第十八號乙 (三進)

明治 年鑛業明細表

第 録 登 縣					
種別	鑛		種別	鑛	
	亞炭	石炭		亞炭	石炭
計	越 高	產出高	計	越 高	產出高
	斤	斤		斤	斤

工 數	工 業 日 數	現 在 使 役 人 員

備考

- 一 本表ハ石炭又ハ亞炭ニ限り適用スルモノトス
- 二 種別ノ欄ニハ石炭ニ付テハ塊炭、粉炭、切込炭、粗炭、燄石ニ種別シ記入スヘシ

様式第十八號丙 (三進)

明治 年鑛業明細表

第 録 登 縣					
種別	油		種別	油	
	越 高	產出高		越 高	產出高
計	升	計	比 重	製 元	製 元
	升	升		高 油	高 油

工 數	現 在 使 役 人 員

事記	油			
	工數	工業日數	六月三十日現在使役人員	

備考
 一 本表ハ石油ニ限リ適用スルモノトス
 二 比東欄内ニハ「ボーム」比東計ニ依ル比東ヲ記入スヘシ
 三 製品ノ種別欄内ニハ揮發油、燈油、重油、機油、油等製品ノ普通名稱ニ依リ區別シ記入スヘシ

〔参照〕

農商務省令第十七號鑛業法施行細則(明治三十八年六月十五日)抄錄
 第十八條 鑛業出願人他人ノ鑛區ニ鄰接シテ鑛區ヲ定メトスルトキハ中間二十間以上ノ距離ヲ置クヘシ但シ鄰接鑛業權者ノ承諾ヲ得タルトキ又ハ試掘鑛區ノ範圍内ニ於テ採掘ヲ出願スルトキハ此ノ限ニ在ラス
 第二十六條 相續ニ因リテ鑛業出願人ト爲リタル者又ハ氏名、名稱若ハ住所ヲ變更シタル鑛業出願人ハ戶籍吏ニ届出タル日又ハ登記ノ日ヨリ十四日以内ニ其ノ事實ヲ登記スヘキ旨ヲ添テ其ノ旨ヲ鑛山監督署長ニ届出ヘシ
 第三十六條 鑛業ノ出願許可スヘキモノト決定シタルトキハ鑛山監督署長ハ其ノ旨ヲ出願人ニ通知スヘシ
 出願人ハ前項ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ登録ヲ申請スヘシ
 前二項ノ規定ハ第十條ノ出願ニ關シテ之ヲ準用ス
 第三十九條 左ノ場合ニ於テハ願符又ハ願書ヲ取下ス
 五 第十七條又ハ第十八條第二項ノ規定ニ依ル命令ノ期限内ニ區域増減ノ願書ヲ提出ササルトキ

第四十條 相續ニ因リテ鑛業權者ト爲リタル者又ハ氏名、名稱若ハ住所ヲ變更シタル鑛業權者ハ戶籍吏ニ届出タル日又ハ登記ノ日ヨリ十四日以内ニ其ノ登録ヲ申請スヘシ
 第四十四條 鑛業施業案ニハ左ニ掲クル事項ヲ記載シテ之ヲ説明スヘキ旨ヲ添テ鑛業ニ着手ノ日ヨリ三十日以前ニ提出スヘシ
 第六十三條第二項 前項ノ權利取得ニ關スル願書ニハ土地ノ名稱種目、所有者ノ氏名又ハ名稱、住所、使用ノ目的、時期及期間ヲ記載スヘシ
 第六十八條第一項及第四項 鑛業法第九十條第一項又ハ第九十二條第一項ノ規定ニ依ル申請書ニハ左ニ掲クル事項ヲ記載シテ請求地ニ於ケル工事又ハ鑛床ノ關係圖並所有者及關係人又ハ鄰接鑛業權者ト交渉シタル始末書ヲ添附スヘシ
 所有者及關係人又ハ鄰接鑛業權者前項ノ期間内ニ答辭書ヲ提出ササルトキハ鑛山監督署長ハ申請書ノミニ依リテ裁決スルコトヲ得

○農商務省令第十六號

明治三十八年農商務省令第十八號鑛業登録令施行細則中左ノ通改正シ明治三十九年五月二十日ヨリ施行ス
 明治三十九年五月十一日
 農商務大臣松岡康毅
 第七條乃至第十條ヲ削除ス
 第十二條第一項中「鑛業原簿見出帳」ノ七字ヲ削除ス
 第五號及第六號様式ヲ削除ス

〔参照〕

農商務省令第十八號鑛業登録令施行細則(明治三十八年六月二十一日)抄錄
 第七條 試掘原簿及採掘原簿ニ付各其ノ見出帳ヲ設クヘシ
 前項ノ見出帳ハ數區畫ヲ通シテ一冊ト爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ鑛業原簿ヲ分設シタル區域毎ニ見出帳ヲ附スヘシ
 第八條 鑛業原簿見出帳ハ第五號及第六號ノ様式ニ依リテ之ヲ製スヘシ
 第九條 鑛業原簿見出帳ニハ登録用紙ニ登錄番號ヲ記載スル毎ニ其ノ登錄用紙ヲ編綴セル鑛業原簿ノ冊數、丁數及登錄番號

ヲ記入スヘシ

第十條 鑛業權消滅ノ登録ヲ爲シタルトキハ鑛業原簿見出帳ニ事由ヲ記入シ前條ノ記入事項ヲ抹消スヘシ
第十二條 鑛山監督署ニハ登録事務ニ關シ鑛業原簿、共同人名簿、鑛區圖說込帳、鑛業原簿見出帳及登録受附簿ノ外左ノ帳簿ヲ備フヘシ

○農商務省令第十七號

採掘ノ出願ニ關シ鑛山監督署長ヘ委任ノ件左ノ通定ム

農商務大臣松岡康毅

明治三十九年五月十一日

第一條 採掘ノ出願ニ關シ左ニ掲ケタル事項ハ之ヲ鑛山監督署長ニ委任ス

一 出願地カ鑛區ト重複スル場合ニ於テ其ノ重複スル部分ノ出願ノ不許可ニ關スル件

二 出願地カ他人ノ鑛區ト十間以上ノ距離ヲ置カサル場合ニ於テ其ノ間隔ニ必要ナル部分ノ出願ノ不許可ニ關スル件

三 鑛業法施行細則第三十九條中第一號、第二號、第七號及第八號ニ掲ケタル場合ヲ除キ願書又ハ届書ノ却下ニ關スル件

第二條 鑛山監督署長ハ前條ニ依リ處理シタルモノヲ每一箇月取纏メ翌月十日迄ニ農商務大臣ニ報告スヘシ

附則

第三條 本令ハ明治三十九年五月二十日ヨリ之ヲ施行ス

○逓信省令第十八號

明治三十四年三月逓信省令第十三號郵便爲替證書引讓渡規則ハ之ヲ郵便振替貯金拂出證書ニ準用ス

明治三十九年五月八日

逓信大臣山縣伊三郎

○逓信省令第十九號

明治三十八年五月逓信省令第三十六號郵便貯金規則中左ノ通改正シ來六月一日ヨリ施行ス

明治三十九年五月十五日

逓信大臣山縣伊三郎

第八十六條ニ左ノ但書ヲ追加ス

但シ公共團體ヨリ其ノ所有ニ係ル證券ノ保管ヲ請求スル場合ニ於テハ其ノ保管料金を徴收セス

〔參照〕

逓信省令第三十六號郵便貯金規則(明治三十八年五月十八日)抄錄
第八十六條 證券購入保管又ハ賣却ニ關スル料金を別ニ之ヲ告示ス

○逓信省令第二十號

明治三十七八年戰役ニ關シ下賜セラレタル公債證書ヲ其ノ受領者ヨリ郵便貯金規則ニ依リ郵便官署ニ保管ヲ請求スル場合ニ於テハ當分ノ内保管料金を徴收セス

前項ノ請求ヲ爲サントスル者ハ其ノ下賜ニ關スル辭令書ヲ呈示シ又ハ市區町村長ノ證明書若ハ其ノ他ノ方法ニ依リ郵便官署ニ對シ其ノ受領者タルコトヲ證明スヘシ

明治三十九年五月十五日

逓信大臣山縣伊三郎

○逓信省令第二十一號

參錢及壹錢五厘郵便切手ノ著色ヲ左ノ通改ム
但シ當分ノ内從前ノ分ヲ取交セ使用セシム

明治三十九年五月十五日

逓信大臣山縣伊三郎

- 一 參錢郵便切手 老紅色
- 一 壹錢五厘郵便切手 董色

○逓信省令第二十二號

明治三十二年^七逓信省令第三十四號水先人試験規程中左ノ道改正ス

明治三十九年五月十七日

逓信大臣山縣伊三郎

第三條 左ニ掲クル履歴ノ一ヲ有スル者ハ水先人試験ヲ受クルコトヲ得

一 一年以上總噸數五百噸以上ノ航洋船ニ乗組ミ船長ノ職ヲ執リ且六月以上試験ヲ受ケントスル水先區ニ於テ水先修業生ト爲リ實務ヲ練習シタルコト

二 二年以上總噸數五百噸以上ノ航洋船ニ乗組ミ船長ノ職ヲ執リ且其間ニ於テ試験ヲ受ケントスル水先區ノ航海ニ從事シタルコトアルコト

第五條ニ左ノ一號ヲ加フ

四 試験ヲ受ケントスル水先區ノ航海ニ從事シタル履歴航海日誌又ハ船舶所有者ノ證明書

第六條第二項ヲ削ル

第八條ニ左ノ一號ヲ加ヘ第一號以下順次繰下ノ

一 英語

第九條第二項及第三項ヲ削ル

第十條 船舶職員試験規程第十五條第十七條乃至第二十一條ノ規定ハ水先人試験ニ之ヲ準用ス

第十條ノ二 學術試験ノ成績ハ試験官吏ニ於テ受験人カ當該水先區ノ航海ニ從事シタル經歷ノ多

少ヲモ參考シテ之ヲ定ム

(合格證書書式)

合格證書
逓信省令第三十四號水先人試験規程(明治三十二年七月二十九日)抄録
氏名
出生年月日
右者水先人試験規程ニ依リ(水先區ノ名稱)水先人試験ヲ受ケ合格ス依テ此ノ證書ヲ付與ス
明治 年 月 日
海軍局長氏名印

(備考) 合格證書ノ寸法ハ縦七寸六分横一尺八分トス

〔參照〕

逓信省令第三十四號水先人試験規程(明治三十二年七月二十九日)抄録

第三條 左ニ掲クル履歴ノ一ヲ有スル者ハ水先人試験ヲ受クルコトヲ得

一 一年以上總噸數五百噸以上ノ航洋船ニ乗組ミ船長ノ職ヲ執リタルコト

一 六月以上總噸數五百噸以上ノ航洋船ニ乗組ミ船長ノ職ヲ執リ且六月以上試験ノ目的タル水先區ニ於テ水先修業生ト爲リ實務ヲ練習シタルコト

先區ニ於テ水先修業生ト爲リ實務ヲ練習シタルコト

第五條 履歴ハ左ニ掲クル種類ヲ以テ之ヲ證明スヘシ

第六條 身分書ニハ左ノ事項ヲ記載シ第一號乃至第三號ノ事項ニ付テハ戶籍吏第四號ノ事項ニ付テハ本籍市區町村長ノ證明ヲ受クヘシ

一 氏名

二 本籍地

三 出生ノ年月日

四 水先法第三條第二號及第三號ノ事項ニ該當セザルコト

外國人ノ身分書ハ前項第一號乃至第四號ノ事項ヲ記載シ本國領事之ヲ證明シタルモノナルコトヲ要ス

第八條 學術試験ハ試験官吏ノ見込ニ依リ筆記試験又ハ口述試験トシ左ノ事項ニ就キ之ヲ行フ

一 航路標識、潮流、地勢、水路、港灣、儲地及危險物ノ説明

二 船舶ノ嚮導及運航方法

三 羅針遠送ノ檢定方法

四 船舶衝突ノ豫防、水路港灣ノ取締其他水先人本分ノ職務ニ關スル法規

筆記試験及口述試験ヲ併セ行フ場合ニハ筆記試験ニ合格シタル者ニアラザレハ口述試験ヲ受クルコトヲ得ス

第九條 受験申請人ハ體格検査ニ付テハ五十錢、學術試験ニ付テハ水先區一區毎ニ七圓ノ手数料ヲ納付スヘシ

手数料ハ手数料納附書ニ相當ノ收入印紙ヲ貼用シテ之ヲ納付スヘシ

前項ニ依リ貼用シタル印紙ハ管海官廳ニ於テ消印スヘキモノトス但申請人ニ於テ自己ノ便宜上消印スルハ妨ナシ

第十條 海員試験規程第十二條第十三條第十五條乃至第十八條ノ規程ハ水先人試験ニ之ヲ準用ス

○逓信省令第二十三號

左記各地間ニ發受スル私報ノ通常電報料左ノ通之ヲ定メ明治三十九年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十五年ノ逓信省令第四十九號ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

明治三十九年五月二十四日

逓信大臣山縣伊三郎

和文片假名十五字以内

金四十錢

一 内地ト臺灣又ハ樺太トノ間

五字以内ヲ加フル毎ニ金十錢ヲ増ス

二 臺灣樺太間

歐文五語以内

金五十錢

一語ヲ加フル毎ニ金十錢ヲ増ス

〔參照〕

明治三十五年十一月三逓信省令第四十九號ハ内地臺灣間ニ發受スル私報ノ通常電報料金ナリ

○逓信省令第二十四號

明治三十年ノ逓信省令第十八號外國新聞電報規則中左ノ通り改メ本日ヨリ施行ス

明治三十九年五月二十六日

逓信大臣山縣伊三郎

第四條中普通ノ英語ノ下ニ「佛語若ハ獨語」ノ六字ヲ加ヘ同條第一號ヲ削リ第二號中清國ノ下ニ「上海」ノ二字ヲ加フ

〔參照〕

逓信省令第十八號外國新聞電報規則(明治三十年六月二十六日)抄録

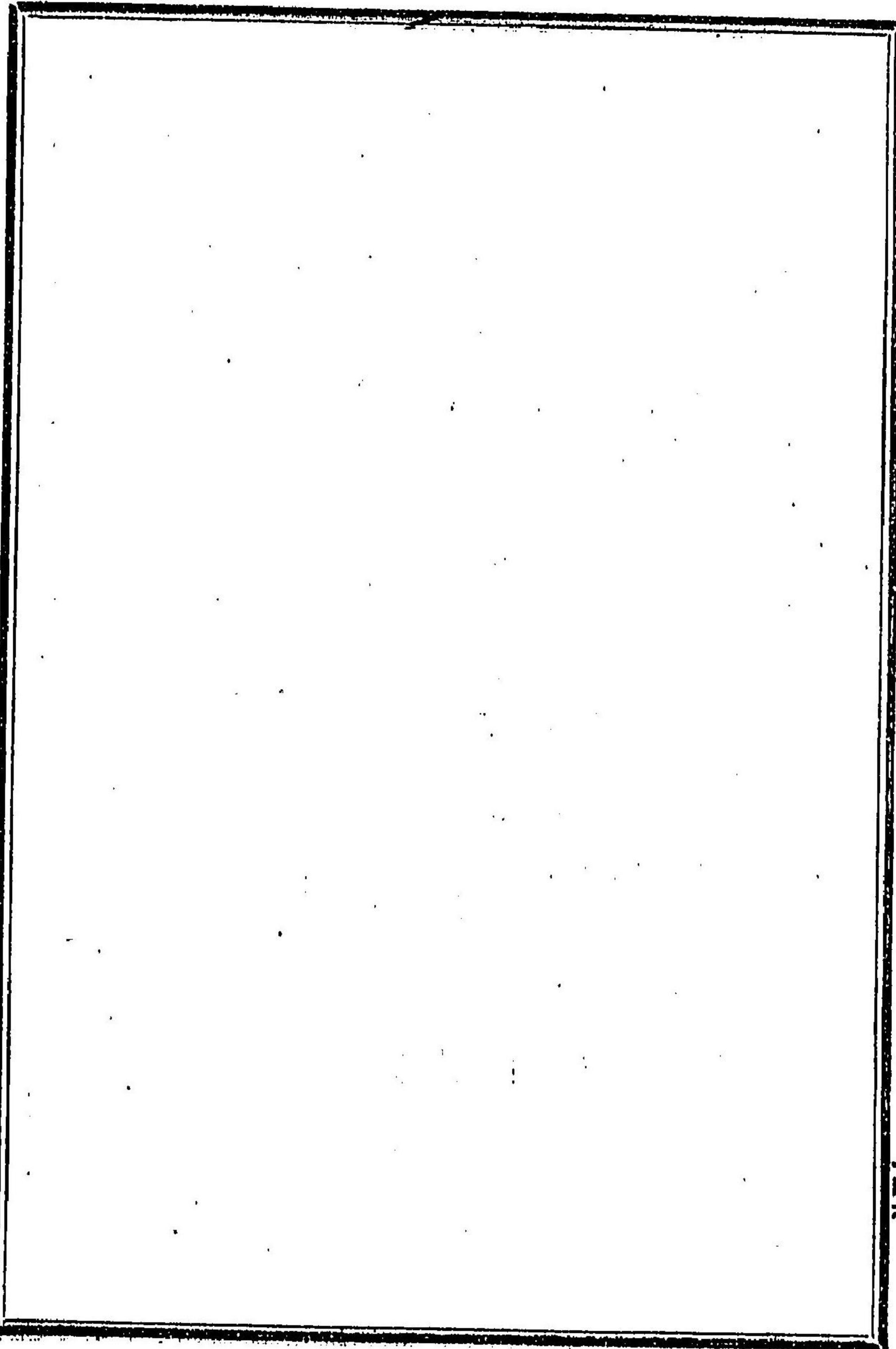
第四條 新聞電報ハ左ノ場合ヲ除クノ外普通ノ英語ヲ以テ記載シタルモノニ限ル

但數字又ハ文字ヲ以テ示シタル商標者ハ商號ハ普通語ト見做ス

一本邦ト清國上海トノ間ニ送受スルモノハ普通ノ日本語ヲ羅馬文字ヲ以テ記載シ若ハ普通ノ獨逸語ヲ以テ記載スルコトヲ得

一本邦ト清國北京天津及芝罘トノ間ニ送受スルモノハ普通ノ日本語ヲ羅馬文字ヲ以テ記載スルコトヲ得

一本邦ト韓國トノ間ニ送受スルモノハ普通ノ日本語ヲ羅馬文字若ハ片假名ヲ以テ記載スルコトヲ得ト雖モ羅馬文字ト片假名トヲ混用スルヲ得ス



○外務省令第三號

明治三十七年三月外務省令第二號外務書記生試驗規則中左ノ通改正ス

明治三十九年六月二十五日

外務大臣 寺島謙吉

第一條 外務書記生試驗志願者ハ中學校以上ノ學校ヲ卒業セタル者ニ限ル
前項ノ志願者ハ試驗期日十日前ニ甲號離形ニ依リ調製シタル出願書ニ乙號離形ニ依リ調製シタル履歷書並ニ該出願書及履歷書ノ英譯文又ハ佛譯文及醫師ハ體格検査ヲ經タル證明書ヲ添ヘ外務省文官普通試驗委員ニ差出スヘシ但出願書 履歷書及其譯文ハ出願者ノ自筆タルヘシ

第五條 第二次試驗ハ左ノ科目ヲ用非之ヲ行フ

- 一 歴史 本邦及外國近世史
 - 二 地理 本邦及外國地理
 - 三 法學通論
 - 四 算術
 - 五 會計法、會計規則及在外公館費用條例
- 以上ノ科目ハ試驗ノ際選擇取捨スルコトヲ得ス
- 一 國際公法
 - 二 國際私法
 - 三 經濟學
 - 四 統計 本邦輸出入品及貿易地
- 以上ノ科目ハ受験者ヲシテ其中ニ就キ豫メ一科目ヲ選擇セシメ之ヲ試験ス

〔參照〕

外務省令第二號外務書記生試験規則(明治二十七年二月一日)抄録

第一條 外務書記生試験ヲ受ケント欲スル者ハ試験期日十日前ニ甲號離形ニ依リ調製シタル出願書及乙號離形ニ依リ調製シタル履歴書並ニ英文又ハ佛文ヲ以テ記載シタル其譯文及醫師ノ體格検査ヲ經タル證明書ヲ添ヘ外務省文官普通試験委員ニ差出スヘシ

前項ノ書類ハ檢テ出願人ノ自筆タルヘシ

第五條 第二次試験ハ左ノ科目ヲ用非テ之ヲ行フ

- 一 筆跡
 - 二 算學
 - 三 簿記
 - 四 會計法及會計規則
 - 五 在外公館費用條例
- 以上ノ科目ハ試験ノ際選擇取捨スルコトヲ得ス
- 一 歴史
 - 二 統計
 - 三 國際公法
 - 四 刑法
 - 五 民法
- 以上ノ科目ハ受験者ヲシテ其中ニ就キ豫メ一科目ヲ選擇セシメテ之ヲ試験ス

○内務省令第五號

明治三十年十月内務省令第三十二號徵兵旅費規則中左ノ通改正シ明治三十九年六月ヨリ施行ス

明治三十九年六月二日

内務大臣原敬

第二條中「金參錢」ヲ「金五錢」ニ「金貳拾五錢」ヲ「金四拾五錢」ニ「金貳拾錢」ヲ「金參拾錢」ニ改ム

第三條中「金七錢」ヲ「金拾錢」ニ改ム

第四條中「金五錢」ヲ「金八錢」ニ「金參拾錢」ヲ「金四拾五錢」ニ「金貳拾五錢」ヲ「金四拾錢」ニ改ム

〔參照〕

内務省令第三十二號徵兵旅費規則(明治三十年十月二十五日)抄録

第二條 検査旅費ハ左ノ規定ニ依ル

- 一 片道三里以上ノ旅行ヨリ里數ニ應シ陸路雜費一里ニ付金參錢ヲ支給ス但一里未滿ノ端數ハ切捨トス
- 二 官ノ都合ニ依リ特ニ滞在ヲ命シタルトキハ日數ニ應シ滞在日當金貳拾五錢ヲ支給ス
- 三 川留等支等ニテ旅行途中ニ滞在スルトキハ其地市區町村長月長及之ニ準スヘキ者ノ證明書ヲ添ヘ請求スルトキハ滞在日當金貳拾五錢ヲ支給スルコトヲ得
- 四 片道三里以上ノ旅行ニシテ渡航ニ在ラサレハ至リ難キ場所若クハ地勢上渡航又ハ汽車乗用ヲ便トスルトキハ第一號ノ陸路雜費ヲ給セス渡航費(汽船賃)ノ下等實費ヲ支給ス
- 五 第四號ノ場合ニ於テハ尙夜數ニ應シ宿泊料金貳拾錢ヲ給ス其ノ徒歩旅行ト跨ルル日ハ其ノ徒歩旅行ニ對シテハ第一號ノ陸路雜費ヲ支給ス
- 六 片道三里未滿ノ旅行ト雖モ官ノ都合ニ依リ特ニ宿泊ヲ命シタルトキハ夜數ニ應シ宿泊料金貳拾錢ヲ支給ス
- 七 第三條 檢丁若クハ呼出ニ係ル檢丁ノ父兄痼疾不具等ニシテ歩行シ能ハサルトキハ第二條第一號陸路雜費ノ外尙ホ片道一里以上ヨリ里數ニ應シ金七錢ノ車馬賃ヲ支給ス但一里未滿ノ端數ハ切捨トス
- 八 第四條 入營旅費ハ左ノ規定ニ依ル
- 一 片道三里以上ノ旅行ヨリ里數ニ應シ陸路雜費一里ニ付金五錢ヲ支給ス但一里未滿ノ端數ハ切捨トス
- 二 第二條ノ第二號乃至第八號ハ入營旅費ニ適用シ滞在日當金參拾錢宿泊料ハ金貳拾五錢トス

○内務省令第六號

明治三十年十月内務省令第二十八號中登記印紙ヲ「收入印紙」ニ改メ左ノ種目ヲ追加ス

一 明治三十五年内務省令第九號第三條ニ依ル健全證書交付手数料

明治三十九年六月五日

内務大臣原敬

〔參照〕

明治三十年十月十省令第二十八號ハ登記印紙ヲ以テ納ムヘキ手数料等種目ノ件ナリ

○内務省令第七號

明治三十三年^四内務省令第十五號牛乳營業取締規則中第十九條ノ次ニ左ノ一條ヲ加ヘ第二十條以下順次繰下ク

明治三十九年六月六日

内務大臣原敬

第二十條 牛乳營業者カ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本則ニ依リ之ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

牛乳營業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人、其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本則ニ違背シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免カルコトヲ得ス

法人ノ代表者又ハ其ノ雇人、其ノ他ノ從業者、法人ノ業務ニ關シ本則ニ違背シタル場合ニ於テハ本則ニ規定シタル罰則ヲ法人ニ適用ス

法人ヲ罰スヘキ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ以テ被告人トス

○内務省令第八號

明治三十三年^四内務省令第十七號有害性着色料取締規則中第九條ノ次ニ左ノ一條ヲ加ヘ第十條以下順次繰下ク

明治三十九年六月六日

内務大臣原敬

第十條 營業者カ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本則ニ依リ之ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

營業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人、其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本則ニ違背シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免カルコトヲ得ス

法人ノ代表者又ハ其ノ雇人、其ノ他ノ從業者、法人ノ業務ニ關シ本則ニ違背シタル場合ニ於テハ本則ニ規定シタル罰則ヲ法人ニ適用ス

法人ヲ罰スヘキ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ以テ被告人トス

○内務省令第九號

明治三十三年^六内務省令第三十號清涼飲料水營業取締規則中第十三條ノ次ニ左ノ一條ヲ加ヘ第十四條以下順次繰下ク

明治三十九年六月六日

内務大臣原敬

第十四條 清涼飲料水營業者カ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本則ニ依リ之ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

清涼飲料水營業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人、其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本則ニ違背シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免カルコトヲ得ス

法人ノ代表者又ハ其ノ雇人、其ノ他ノ從業者、法人ノ業務ニ關シ本則ニ違背シタル場合ニ於テハ本則ニ規定シタル罰則ヲ法人ニ適用ス

法人ヲ罰スヘキ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ以テ被告人トス

○内務省令第十號

明治三十三年^七内務省令第三十七號冰雪營業取締規則中第九條ノ次ニ左ノ一條ヲ加ヘ第十條以下

順次繰下ク

明治三十九年六月六日

内務大臣原敬

第十條 氷雪營業者カ未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ本則ニ依リ之ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

氷雪營業者ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人、其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本則ニ違背シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免カルコトヲ得ス

法人ノ代表者又ハ其ノ雇人、其ノ他ノ從業者、法人ノ業務ニ關シ本則ニ違背シタル場合ニ於テハ本則ニ規定シタル罰則ヲ法人ニ適用ス

法人ヲ罰スヘキ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ以テ被告人トス

○内務省令第十一號

明治三十三年^月十二 内務省令第五十號 飲食物器具取締規則中第十條ノ次ニ左ノ一條ヲ加ヘ第十一條以下順次繰下ク

明治三十九年六月六日

内務大臣原敬

第十一條 營業者カ未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ本則ニ依リ之ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

營業者ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人、其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本則ニ違背シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免カルコトヲ得ス

法人ノ代表者又ハ其ノ雇人、其ノ他ノ從業者、法人ノ業務ニ關シ本則ニ違背シタル場合ニ於テハ本則ニ規定シタル罰則ヲ法人ニ適用ス

法人ヲ罰スヘキ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ以テ被告人トス

○内務省令第十二號

明治三十四年^月十 内務省令第三十一號 人工甘味質取締規則中第七條ノ次ニ左ノ一條ヲ加ヘ第八條以下順次繰下ク

明治三十九年六月六日

内務大臣原敬

第八條 營業者カ未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ本則ニ依リ之ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

營業者ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人、其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本則ニ違背シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免カルコトヲ得ス

法人ノ代表者又ハ其ノ雇人、其ノ他ノ從業者、法人ノ業務ニ關シ本則ニ違背シタル場合ニ於テハ本則ニ規定シタル罰則ヲ法人ニ適用ス

法人ヲ罰スヘキ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ以テ被告人トス

○内務省令第十三號

明治三十六年^月九 内務省令第十號 飲食物防廢劑取締規則中第六條ノ次ニ左ノ一條ヲ加ヘ第七條以下順次繰下ク

明治三十九年六月六日

内務大臣原敬

第七條 營業者カ未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ本則ニ依リ之ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理
 人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
 營業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人、其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本則ニ違背
 タルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免カルルコトヲ得ス
 法人ノ代表者又ハ其ノ雇人、其ノ他ノ從業者法人ノ業務ニ關シ本則ニ違背シタル場合ニ於テハ本
 則ニ規定シタル罰則ヲ法人ニ適用ス
 法人ヲ罰スヘキ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ以テ被告人トス

○内務省令第十四號

北海道舊土人保護法施行規則中左ノ通改正ス

第三條中「主務大臣ノ認可ヲ經テ」ヲ削ル

明治三十九年六月十四日

内務大臣原敬

〔參照〕

内務省令第五號北海道舊土人保護法施行規則(明治三十二年四月八日抄録)

第三條 北海道舊土人保護法第九條ニ依リ小學校ヲ設テヘキ場所ハ主務大臣ノ認可ヲ經テ北海道廳長官ノ決定

○内務省令第十五號

明治三十六年十一月 内務省令第十二號神社寺院佛堂境内地使用取締規則第三條ハ之ヲ削除ス

明治三十九年六月十五日

内務大臣原敬

〔參照〕

内務省令第十二號神社寺院佛堂境内地使用取締規則(明治三十六年十一月二十日抄録)

第三條 地方長官前條ノ許可ヲ與ヘシトスル場合ニ於テ其事項第一條第三號ノ使用ニシテ三箇月ヲ超過スルモノナルトキ
 ハ内務大臣ノ認可ヲ要ス(一)

○内務省令第十六號

屠場法施行規則左ノ通定ス

明治三十九年六月二十二日

内務大臣原敬

屠場法施行規則

第一條 屠場法第二條ニ依リ地方長官(東京府ニ於テハ警視總監以下之ニ倣フ)ニ於テ屠場ノ設立
 ヲ私人ニ許可スルトキハ一定ノ期限ヲ附スルコトヲ要ス

第二條 地方長官ノ許可ヲ受ケルニ非サレハ屠場主ノ名義ヲ變更スルコトヲ得ス

第三條 左ニ掲ケル場合ニ於テハ屠場法第三條ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

- 一 獸肉販賣業者、旅店、飲食店又ハ料理店ニ非スニテ曠(一年未滿)、羊、豚ヲ自家用ニ供スル場合
- 二 不慮ノ災害ニ因リ負傷シ若ハ救フヘカラサル状態ニ陥リ又ハ難産、産褥麻痺若ハ急性鼓脹
 症ニ因リ切迫屠殺ヲ必要トスル場合但シ此ノ場合ニ於テハ屠場以外ニ於テ解體スルコトヲ
 得ス
- 三 遠洋航路若ハ近海航路ヲ航行スル日本船舶又ハ外國船舶内ニ於テ船員、船客ノ食用ニ供ス
 ル爲メ獸畜ヲ屠殺解體スル場合
- 四 前各號ノ外土地ノ狀況ニ依リ地方長官ノ認許シタル場合

第四條 屠場使用料及屠殺料ハ其ノ額ヲ定メ地方長官ノ認可ヲ受ケヘシ之ヲ増減スルトキ亦同シ
 第五條 屠場主又ハ屠畜業者ハ定額以外ノ料金を受ケ又ハ正當ノ事由ナクシテ屠場ノ使用若ハ屠

殺ヲ拒ムコトヲ得ス

第六條 屠場ハ獸畜ノ屠殺解體ノ外他ノ目的ニ使用スルコトヲ得ス但シ地方長官ノ認可ヲ得タル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第七條 屠場ハ常ニ清潔ナラシムヘク屠室、緊留所、生體検査所及業務上使用スル器具ハ屠殺終了後之ヲ洗滌シ血液、汚物及汚水ハ検査員ノ指示ニ從ヒ之ヲ處置スヘシ

第八條 屠場主又ハ屠畜業者ハ結核、癩、梅毒又ハ傳染性皮膚病ニ罹レル者ヲシテ獸畜ノ屠殺解體ヲ爲サシムルコトヲ得ス

屠畜業者ニシテ前項ノ疾病ニ罹レルトキハ獸畜ノ屠殺解體ヲ爲スコトヲ得ス

第九條 生體検査ノ際検査員ニ於テ獸畜カ疾病ニ罹リ食用ニ供スヘカラスト認めタルトキハ屠殺ヲ禁シ角又ハ前蹄若ハ臀部ニ禁字ヲ烙印スヘシ其ノ傳染病ナル場合ハ直チニ隔離セシメ病畜ニ汚染シタル場所、物件ニ對シ消毒方法、清潔方法ヲ施行セシムヘシ

前項ノ烙印ハ検査員ノ認可ヲ經ルニ非サレハ之ヲ消除スルコトヲ得ス

第十條 病畜ハ生體検査ニ於テ食用ニ供スルモ衛生上危害ノ虞ナシト認めラレタルモノト雖モ病畜屠室以外ニ於テ屠殺スルコトヲ得ス但シ検査員ノ認可ヲ得タル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十一條 屠殺解體ヲ終リタルトキハ検査員ハ屠肉、内臟其ノ他食用ニ供スル部分ニ烙印ヲ爲ス

第十二條 屠殺解體後検査員ニ於テ獸畜カ傳染病ニ罹レルコトヲ發見シタルトキハ屠室其ノ他病畜ニ汚染シタル場所、物件ニ對シ消毒方法、清潔方法ヲ施行セシムヘシ

第十三條 地方長官ハ食用ニ供スヘカラスト認めタル屠肉、内臟其ノ他ノ部分ニ關シ明治三十三

年法律第十五號第一條ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第十四條 第九條第二項ニ違背シタル者ハ二十五日以下ノ重禁錮ニ處ス

第十五條 第二條第四條第五條第六條第十條ニ違背シタル者及第七條第九條第一項第十二條ノ命令ニ應セサル者ハ貳拾五圓以下ノ罰金ニ處ス

第十六條 第八條ニ違背シタル者ハ拾圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

本則ハ明治三十九年法律第三十二號屠場法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○内務省令第十七號

屠場ノ構造設備標準左ノ通定ム

明治三十九年六月二十七日

内務大臣原敬

屠場ノ構造設備標準

屠場ノ位置ハ獸畜ノ搬入屠肉ノ搬出及給水並排水ニ便ニシテ左ノ各號ノ地域外タルコトヲ要ス

一 離宮、御用邸又ハ御陵墓ヨリ五町以内ノ地

二 社寺、學校、病院、公園又ハ水道水源ヨリ二町以内ノ地

三 前各號ノ外地方長官(東京府ニ於テハ警視總監)ニ於テ風致上若ハ公衆及獸畜ノ衛生上不適當ト認めタル地

屠場ニハ緊留所、生體検査所、屠室、検査室、血液溜、汚水溜、汚物溜、消毒所及隔離所ヲ設ケ其ノ構造及設備ハ左ノ各號ニ依ルヘシ

一 緊留所ハ地盤ヲ石、コンクリート又ハ煉瓦(止ムヲ得サルトキハ漆喰敷又ハ厚板)ニテ築造

レ後方ニ汚水溝ヲ設ケ牛、馬ハ一頭毎ニ糞羊豚ハ適宜ニ區劃ヲナシ各區ニ番號ヲ附記スルコト

- 二 生體検査所ハ地盤ヲ石、「コンクリート」又ハ煉瓦(止ムヲ得サルトキハ漆喰或ハ厚板)ニテ築造シ體量及體尺ノ計測並獸體保定ニ關スル設備ヲナスコト
- 三 屠室ハ屠室(牛馬屠室、糞羊屠室、豚屠室、病畜屠室)内臓取扱室及外皮取扱室ニ區劃シ生體屠肉、内臓等ノ搬出入口ヲ各別ニ設ケ地盤ハ石又ハ「コンクリート」又ハ不滲透質ノ材料ヲ以テ築造シ血液、汚水ヲ排除スヘキ溝ヲ設ケ勾配ヲ付シ内壁ニハ(石又ハ煉瓦造ノ場合ヲ除ク)金屬又ハ石板ヲ以テ四尺以上ノ腰張ヲナシ採光換氣ノ爲意ヲ設ケ内臓検査臺、屠肉懸吊器屠肉秤量器ヲ備フルコト
- 四 検査室ニハ顯微鏡其ノ他検査ニ必要ナル器具藥品ヲ備フルコト
検査室ニハ検査員詰所ヲ附屬セシムルコト
- 五 血液溜、汚水溜、汚物溜ハ屠室ヨリ二間以上ノ距離ヲ有シ不滲透質ノ材料ヲ以テ築造シ其ノ周壁ハ地盤ヨリ五寸以上ヲ高メ且ツ雨水ヲ防クヘキ装置ヲナスコト
- 六 消毒所ハ場内適當ナル場所ニ之ヲ設ケ消毒上必要ナル装置ヲナスコト
- 七 隔離所ハ適當ナル場所ニ之ヲ設ケ地盤ハ緊留所ニ準シ築造スルコト

屠場ノ周圍ニハ見透ササル操場ヲ設ケ之ニ閉鎖シ得ヘキ門戸ヲ附メヘシ
前各項ノ構造設備ハ土地ノ狀況ニ應シ之カ省略ヲ許可スルコトヲ得
専ラ羊豚ノ屠殺ヲ目的トスル屠場ニ關シテ亦同シ

○内務省令第十八號

明治二十九年四月勅令第九十六號ハ明治四十年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十九年六月二十八日

内務大臣原敬

○内務省令第十九號

明治二十九年四月勅令第九十六號第二條ニ依リ府縣社郷社村社ニ供進スヘキ神饌幣帛料ノ金額左ノ通定ス

府縣社	一社	金十圓	金三圓	神饌料
郷社	一社	金七圓	金二圓	神饌料
村社	一社	金五圓	金一圓	神饌料
	二社	金四圓	金四圓	幣帛料

明治三十九年六月二十八日

内務大臣原敬

○内務省令第二十號

明治二十九年四月勅令第九十六號第三條ニ依リ北海道及市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於ケル府縣社郷社村社ノ神饌幣帛料ニ關スル件左ノ通定ス

明治三十九年六月二十八日

内務大臣原敬

北海道ニ於ケル縣社ニハ北海道地方費ヨリ郷社村社ニハ區又ハ町村區制一級町村制ニ於ケル地方費ヨリ神饌幣帛料ヲ供進スルコトヲ得

東京府伊豆七島ニ於ケル府社ニハ府ヨリ郷社村社ニハ従前ノ例ニ依リ神饌幣帛料ヲ供進スルコトヲ得

長崎縣對馬島根縣隱岐及鹿兒島縣大島ニ於ケル縣社ニハ縣ヨリ郷社村社ニハ町村ヨリ神饌幣帛料ヲ供進スルコトヲ得

神饌幣帛料ヲ供進スルコトヲ得ヘキ神社ハ道廳長官府縣知事之ヲ指定ス

神饌幣帛料ノ金額ハ明治三十九年六月內務省令第十九號ヲ適用ス

本令ハ明治四十年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

○大藏省令第二十六號

第一條 臨時事件ニ關スル一時賜金ニ充ツル爲明治三十九年法律第一號ニ依リ隨時公債證書ヲ發行ス

第二條 本公債證書ノ發行價格ハ證券額面百圓ニ付金九十五圓トス

第三條 本公債ノ利子ハ一時賜金發令ノ日ノ屬スル月ヨリ之ヲ附ス

第四條 明治三十九年大藏省令第八號臨時事件公債規程第二條乃至第五條ノ規定ハ本公債ニ之ヲ準用ス

明治三十九年六月四日

大藏大臣法學博士阪谷芳郎

○大藏省令第二十七號

明治三十五年五月大藏省令第十號中「臨時稅關工事部部长ヲ削リ「鹽務局長ノ次ニ「大藏省臨時建築部長馬政長官、種馬牧場長、種馬育成所長、種馬所長ヲ加フ

明治三十九年六月二十三日

大藏大臣法學博士阪谷芳郎

〔參照〕

明治三十五年五月大藏省令第十號ハ不動產登記ノ囑託ニ就キ官吏指定ノ件ナリ

○大藏省令第二十八號

臺灣事業公債法第三條第四項ノ規定ニ依リ公債ノ變換アリタル場合共ノ變換當時ニ於ケル一期分未滿ノ利子ハ總テ新公債ノ利子トシ之ニ對スル月割利札ヲ交付スルモノトス

明治三十六年六月大藏省令第十七號ハ之ヲ廢止ス

本令ハ明治三十九年七月一日ヨリ施行ス

明治三十九年六月二十三日

大藏大臣法學博士阪谷芳郎

〔參照〕

明治三十六年六月大藏省令第十七號ハ臺灣事業公債ノ變換請求ナリ

○大藏省令第二十九號

明治三十八年大藏省令第十八號鹽務局出張所名稱、位置及管轄區域中左ノ通改正ス

明治三十九年六月二十三日

大藏大臣法學博士阪谷芳郎

阪出ノ欄出張所名濁元ヲ牟禮ニ位置同縣木田郡濁元村ヲ同縣木田郡牟禮村ニ改ム

○大藏省令第三十號

第一條 煙草專賣法施行ノ際現存シタル外國製造刻煙草、喫煙草及咀嚼煙草ニハ煙草專賣局ノ定メタル證券ヲ貼付ス

前項ノ煙草ヲ販賣スル者ハ明治三十九年七月五日ニ於テ現ニ其ノ所持ニ係ル煙草ノ種類、名稱及數量ヲ左記様式ニ準シ同月十五日限リ所轄葉煙草收納所ニ申告スヘシ

第二條 前條ノ煙草ヲ明治三十九年七月五日以後證券貼付マテノ間ニ於テ賣渡シ若クハ買受ヲ爲

シタルトキハ其ノ種類、名稱、數量及賣渡先若クハ買入先ヲ適宜ノ帳簿ニ記載スヘシ但シ消費者ニ販賣シタルモノハ其ノ賣渡先ノ記帳ヲ要セス

第三條 第一條ニ該當スル刻煙草、喫煙草及咀嚼煙草ニシテ包裝、函若クハ罐等ノ裝置ナキモノハ葉煙草收納所ノ指示スル數量毎ニ相當裝置ヲ爲スヘシ

明治三十九年六月二十九日

大藏大臣法學博士阪谷芳郎

(様式)

輸入刻煙草等現在高申告書

一 刻煙草何々 罐(函)入 何箇
 但シ煙筒何ボンド(グラフ)入ノ分
 一 喫煙草何々 包裝(函)入 何箇
 但シ煙筒何オンス入ノ分
 一 咀嚼煙草何々 包裝(函)入 何箇
 但シ煙筒何オンス付ノ分
 右申告候也

明治三十九年七月 日

營業場所在地

氏

名印

葉煙草收納所長宛

○大藏省令第三十一號

帝國鐵道及同用品資金會計規則ニ據リ同會計ニ要スル諸書類帳簿等ノ様式左ノ通相定ム

明治三十九年六月二十日

大藏大臣法學博士阪谷芳郎

一 仕拂豫算計算書ノ様式ハ明治二十三年大藏省令第九號中第四號書式ニ準據ス

一 領收證書、現金拂込書及仕拂請求書ノ様式ハ明治二十三年大藏省令第九號中第二十號第二十一號及第二十二號書式ニ準據ス

一 歳入徴收官徴收報告書、金庫出納役仕拂請求書受領濟額報告書ノ様式ハ明治二十三年大藏省令第九號中第五號及第七號書式ニ準據ス

一 帝國鐵道作業事務長官徴收總報告書及繰越計算書ノ様式ハ明治二十六年大藏省令第三十二號中第五號及第八號書式ニ準據ス

一 日記簿、原簿、補助簿並資産負債表及損益勘定表ノ様式ハ別表第一號乃至第九號書式ニ準據ス

一 主計簿其ノ他諸帳簿ノ様式ハ明治二十三年大藏省令第九號書式ニ準據ス

附則

本令ハ明治四十年會計ヨリ之ヲ適用ス

(別表)

第一號書式

某 年 度	
帝國鐵道會計資本勘定	
日 記 簿	
何	應

何日		明治何年何月何日							
借		貸		原簿丁數		摘要		借	
圓	錢	圓	錢	圓	錢	圓	錢	圓	錢
0		0		1		出納官吏		0	
						資金收入			
						不用物件賣拂代收			
						特設資本		0	
						固定財産			
						不用物件賣拂=付財産價格控除		0	
						明治何年何月何日			
				2		資金收入		0	
						未還資本			
						特設資本			
						何年度歳入收入濟額轉記			
						固定財産		0	
						前拂金		0	
						鐵道建設及改良費			
						何年度歳出支出濟額轉記		0	

何日		明治何年何月何日							
借		貸		原簿丁數		摘要		借	
圓	錢	圓	錢	圓	錢	圓	錢	圓	錢
0		0		1		出納官吏		0	
						資金收入			
						歳入歳出外受入			
						收入高		0	
						繰替拂			
						出納官吏		0	
						何仕拂高			
						明治何年何月何日			
						鐵道建設及改良費		0	
						金庫			
						出納官吏仕拂高=對シ仕拂請求發行			
						繰替拂		0	
						同上仕拂請求額ヲ以テ何+(歳入)金庫へ繰替拂込			
								0	

明治三十九年六月 省令 大藏省第三十一號

1.				
明治何年何月何日				
原簿 丁數	摘要	借		貸
		圓	銭	圓
	出納官吏 鐵道作業收入	0		0
	收入高 繰替拂	0		0
	出納官吏 何々仕拂高			0
		0		0
	明治何年何月何日 鐵道作業費	0		0
	金 原			0
	出納官吏繰替拂ニ對シ仕拂請求額計	0		0
	金 原			0
	繰替拂			0
	同上仕拂請求額ヲ以テ何々(繰入)金庫ニ繰替拂込	0		0
	出納官吏 一時借入金			0
	帝國鐵道會計法第十條ニ據ル借入金			0
		0		0

一六七

第二號書式

3.	
明治何年何月	
原簿 丁數	摘要
	未還資本 既還資本 何年度收益勘定純益金一般會計 へ納付済ニ付資本ノ負債消却高 未還資本ヨリ既還資本へ轉記
某年度 帝國鐵道會計收益勘定 日記簿	
何 應	

明治三十九年六月 省令 大藏省第三十一號

一六六

明治三十九年六月 省令 大藏省第三十一號

1.		<p>某 年 度</p> <p>帝國鐵道用品資金會計</p> <p>日 記 簿</p> <p>何 應</p>
借	貸	
0	0	
0	0	
0	0	
0	0	

一六九

第三號書式

2.			
明治何年何月何日			
原簿 丁數	摘要	借	貸
		圓 角 分	圓 角 分
	出納官吏	0	
	用品資金益金繰入		0
	何年度益金繰入高		
	一時借入金	0	
	出納官吏		0
	<small>帝國鐵道會計法第十條一號ニ借入金返還高</small>		
	鐵道作業收入	0	
	用品資金益金繰入		0
	損 益		
	何年度總利益高損益勘定へ轉記		
	損 益	0	
	鐵道作業費		0
	何年度總損失高損益勘定へ轉記		
		0	0
	明治何年何月何日		
	損 益	0	
	出納官吏		0
	何年度益金一般會計へ納付高		

明治三十九年六月 省令 大藏省第三十一號

一六八

明治三十九年六月 省令 大藏省第三十一號

3.		2.		明治何年何月何日	
借	貸	原簿 丁數	摘要		
0	0		貯藏物品		
			支出未済		
			物品購入其代價支出未済		
0	0		繰替拂		
			出納官吏		
			支出未済物品購入代價仕拂済		
0	0		支出未済		
			損益		
			同上=付支出未済決算		
0	0		出納官吏		
			鐵道用品收入		
			物品賣拂代收入済		
0	0		損益		
			貯藏物品		
			同上物品拂出		

一七

明治三十九年六月 省令 大藏省第三十一號

				明治何年何月何日	
借	貸	原簿 丁數	摘要		
0	0		金庫		
			用品資金		
			資金受入高		
0	0		明治何年何月何日		
			繰替拂		
			出納官吏		
0	0		工作費		
			物品購入代		
0	0		工場勘定		
			貯藏物品		
			損益		
			同上工作費及物品購入代		

一七〇

明治三十九年六月 省令 大藏省第三十一號

5.		4.		明治何年何月何日	
借		貸		原簿 丁數	摘要
0	0	0	0		前受金
0	0	0	0		貯藏物品 損益
0	0	0	0		前受金精算
明治何年何月何日					
0	0	0	0		工場勘定
0	0	0	0		貯藏物品 工場へ物品引渡
0	0	0	0		貯藏物品 工場勘定
0	0	0	0		工場ヨリ新製品受入 収入未済
0	0	0	0		工場勘定 損益
0	0	0	0		修繕品落成引渡 出納官吏
0	0	0	0		鐵道用品收入 収入未済ノ修繕費代價收入済
追次合計					

一七三

明治三十九年六月 省令 大藏省第三十一號

明治何年何月何日					
借		貸		原簿 丁數	摘要
0	0	0	0		収入未済
0	0	0	0		貯藏物品 損益
0	0	0	0		物品賣拂代價収入未済
0	0	0	0		出納官吏
0	0	0	0		鐵道用品收入 収入未済ノ物品賣拂代價済
0	0	0	0		損益
0	0	0	0		収入未済 同上ニ付収入未済決算
明治何年何月何日					
0	0	0	0		出納官吏
0	0	0	0		鐵道用品收入 何々ヨリ前受金收入
0	0	0	0		損益
0	0	0	0		前受金 同上ニ付道ヲ物品支出スヘキ分

一七二

<p>某 年 度</p> <p>帝國鐵道會計資本勘定</p> <p>原 簿</p> <p>何 應</p>		<p>6. 明治何年何月</p>	
		<p>原簿 丁數</p>	<p>摘 要</p>
		<p>鐵道用品收入</p> <p>損 益</p> <p>何年度收入濟額轉記</p>	<p>鐵道用品費</p> <p>損 益</p> <p>何年度支出濟額轉記</p>
		<p>明治何年何月何日</p> <p>損 益</p> <p>出 納 管 吏</p> <p>何年度益金收益勘定へ繰入</p>	

備考
帝國鐵道會計收益勘定原簿及帝國鐵道用品資金會計原簿ノ
様式及記入方ハ本様式ヲ準用ス

<p>何 日</p>		<p>明治何年何月何日</p>		<p>原簿 丁數</p>		<p>摘 要</p>
				<p>借</p>	<p>貸</p>	
0	0	0	0	<p>前 業 締 高</p> <p>損 益</p> <p>收入未濟 收入未濟ノ修繕費代價收入濟=付</p>		
0	0	0	0	<p>明治何年何月何日</p> <p>鐵道用品費</p> <p>金 庫</p> <p>出納管吏事務ニ對シテ借額未得履行</p> <p>金 庫</p> <p>繰 替 拂</p> <p>同上仕拂請求書ヲ以テ何々(歳入)へ振換拂込</p>		
0	0	0	0			

明治三十九年六月 省令 大藏省第三十一號

年月日		摘要	日記 丁數	借		貸		借或貸	殘	
年	月			日	圓	錢	圓		錢	圓
何	何	出納官吏	1			0		貸	0	
何	何	未還資本外一件	2		0		0	"	0	

一七七

明治三十九年六月 省令 大藏省第三十一號

年月日		摘要	日記 丁數	借		貸		借或貸	殘	
年	月			日	圓	錢	圓		錢	圓
何	何	資金收入外一件	1	0				借	0	
何	何	繰替拂	1			0		"	0	
何	何	資金收入	2	0				"	0	

一七六

第五號書式

(細科目)		某 年 度	
帝國鐵道會計資本勘定			
補 助 簿			
備考 帝國鐵道會計收益勘定補助簿及同用品安全會計補助簿ノ様式ハ此書式ヲ準用ス			
貸		借	
0	0	0	0
備考 本簿ハ原簿科目毎ニ必要ナル細科目ニ區分口座ヲ設ケ出納ヲ登記スルモノトス 細科目ノ區分ハ主管職ノ定ムル所ニ據ル			
何		應	

第六號書式

何々(原簿科目) 何		明治何年度帝國鐵道會計資本勘定資産負債表 明治何年何月何日	
年月日	摘要	借	
何	何	0	0
備考			

資	現	前	固	合
産	金	拂	定	
金	金	金	財	計
額	額	額	産	計
0	0	0	0	0
負	未	既	特	合
債	還	還	股	
金	資	資	資	計
額	本	本	本	計
0	0	0	0	0
	入	出	外	
	受	入	入	
	0	0	0	

第七號書式

備考	何々	資 産	金 額	負 債	金 額

明治何年度帝國鐵道用品資金會計資產負債表 明治何年何月何日

備考	何々	合 計	工 場 勘 定	貯 藏 物 品	現 金	資 産	負 債	金 額
			勘 定	勘 定	勘 定	勘 定		

第八號書式

明治何年度帝國鐵道會計收益勘定損益勘定表 明治何年何月何日

備考	何々	合 計	負 債 消 却 金	負 債 利 子	差引益金一般會計(繰入)	小 計	鐵 道 作 業 費	鐵 道 作 業 收 入	用品 資金 益 金 繰 入	小 計	總 損 失	總 利 益	金 額
							勘 定				勘 定	勘 定	勘 定

第九號書式

明治何年度帝國鐵道用品資金會計損益勘定表 明治何年何月何日

總 損 失	金 額	總 利 益	金 額

間ヲ削ル

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔参照〕

陸軍省令第十號徵兵事務條例施行細則(明治二十九年四月二十三日抄録)
 第三條 島前市長ハ毎年一月一日調ヲ以テ其ノ年ノ徵兵適齡者人員及前年假決ノ人員ヲ同月二十五日迄ニ聯隊區司令官
 又ハ警備隊司令官ニ通知シ聯隊區司令官及警備隊司令官ハ其ノ人員ヲ取繼メ二月五日迄ニ師團長ニ報告シ師團長ハ二月
 二十日迄ニ之ヲ陸軍大臣ニ報告スヘシ
 前項ノ人員中前年假決ノ人員ハ之ヲ別記スヘシ
 第八條 身體検査ハ毎年四月中旬ヨリ九月下旬迄ノ間ニ於テ之ヲ行フヲ例トス
 其ノ日割表ハ附錄第十一様式ニ依リ之ヲ作り聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ハ二月二十日迄ニ師團長ニ報告シ師團長ハ
 三月一日迄ニ陸軍大臣ニ報告スヘシ
 第四十八條 條例第五十條ノ召集ノ命アルトキ之ヲ通報スヘキ者ハ成年以上ノ男子ニ限ル
 第五十三條 現役兵ニシテ徵集年ノ十二月十五日以前ニ補充兵ニシテ其ノ教育召集前ニ志願兵ニ採用セラレタルトキハ其
 ノ志願ニ應ジシム但シ該志願ニ應ゼサルモノハ現役兵ニアリテハ條例第四十五條第二項ノ例ニ依リ翌年之ヲ徵集シ補充
 兵ニ在リテハ補充兵役ヲ繼續セシム
 聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ハ志願兵採用者ハ志願ニ應ゼサルコトノ通知ヲ當該官衙學校長ヨリ受ケタル後前項ニ開
 スル取扱ヲ爲スモノトス
 第五十四條 現役兵ニシテ一年志願兵ニ採用セラレタル者正當ノ事故ナク一年志願兵トシテ所定ノ期日ニ入營セサルトキ
 ハ前條但書ノ規定ニ拘ラス聯隊區司令官又ハ警備隊司令官直ニ徵集ノ手續ヲ爲スヘシ

○陸軍省令第六號

明治二十九年法律第六十六號ニ依リ陸軍官憲ニ於テ施行スル馬匹ノ検査ハ本年度ニ限り停止ス

明治三十九年六月二十五日

陸軍大臣寺內正毅

○海軍省令第二號

明治三十七八年戰役ニ關シ賜ハルヘキ行賞賜金ハ海軍准士官以上候補生、文官及文官待遇者、在東
 京海軍各屬ノ雇員傭人共ノ他ノ者、他官廳又ハ其ノ他ヨリ海軍ニ轉傭ノ雇員並海軍省經理局ニ於
 テ雇傭契約ヲ爲シタル船舶ノ船員ニハ海軍省經理局ニ於テ、海軍下士卒及艦傭傭人、各鎮守府所管
 ノ官衙、軍港ニ在ル鎮守府所管外ノ官衙及要港部ノ雇員傭人共ノ他ノ者並各經理部ニ於テ雇傭契
 約ヲ爲シタル船舶ノ船員ニハ當該經理部(旅順口ニ在リ)ニ於テ、臺灣總督府海軍幕僚、海軍煉炭製造
 所及海軍探炭所ノ雇員傭人共ノ他ノ者ニハ當該各屬ニ於テ之ヲ交付セシム

明治三十九年六月五日

海軍大臣齋藤實

○司法省令第十號

明治三十三年司法省令第十三號中左ノ通り改正ス

島嶼在勤者月手當給與細則第一條中「琉球國宮古島、八重山島」ノ下ニ「久米島」ヲ加フ
 明治三十九年六月二日
 司法大臣松田正久

○司法省令第十一號

橫濱地方裁判所管内橫濱區裁判所管轄武藏國橫濱市新港町ヲ同區裁判所ノ管轄ニ屬セシメ明治二
 十六年司法省令第十號登記管轄區域表中同區裁判所ノ管轄欄内「根岸町」ノ次ニ「新港町」ヲ加フ
 本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
 明治三十九年六月四日
 司法大臣松田正久

○司法省令第十二號

佐賀地方裁判所管内伊萬里區裁判所ニ於テ其管轄ニ屬スル刑事事務ノ全部ヲ取扱フ

本令ハ明治三十九年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十九年六月十三日

司法大臣松田正久

○司法省令第十三號

札幌地方裁判所管内浦河區裁判所幌泉出張所管轄日高國樺似郡樺似村大字幌滿管内ノ浦河區裁判所ノ管轄ニ改メ明治二十六年司法省令第十號登記管轄區域表中左ノ通改正ス
本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十九年六月十三日

司法大臣松田正久

地方裁判所	區裁判所	出張所	管	
			郡	市 區 町 村
札幌	浦河	幌泉	日高	浦河郡 樺似郡
			日高	幌泉郡

○司法省令第十四號

岡山地方裁判所管内岡山區裁判所甲浦出張所管轄備前國兒島郡宇野村大字山井ニ屬スル商業登記ノ事務ハ同區裁判所味野出張所ニ於テ之ヲ取扱フ
本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十九年六月二十二日

司法大臣松田正久

○司法省令第十五號

京都地方裁判所管内舞鶴區裁判所志樂出張所ヲ新舞鶴出張所ト改稱ス
本令ハ明治三十九年七月一日ヨリ施行ス

明治三十九年六月二十九日

司法大臣松田正久

○司法省令第十六號

明治三十六年司法省令第八號中「小菅監獄」ヲ「巢鴨監獄」ニ改ム

明治三十九年六月二十日

司法大臣松田正久

○文部省令第九號

熊本高等工業學校ノ修業年限、學科、學科目及其ノ程度並ニ研究生ニ關スル規程ヲ定ムルコト左ノ如シ

明治三十九年六月二日

文部大臣牧野伸顯

熊本高等工業學校規程

- 第一條 熊本高等工業學校ノ修業年限ハ三箇年トス
- 第二條 熊本高等工業學校ノ學科ハ土木工程、機械工學科及採鑛冶金學科トス
- 第三條 熊本高等工業學校各學科ノ學科目及其ノ程度ハ左ノ如シ

土木工程

學科	學年	第一學年 每週教授時數			第二學年 每週教授時數			第三學年 每週教授時數		
		第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期
倫理										
英語										
數學										
物理學										

學科	第一學年每週教授時數			第二學年每週教授時數			第三學年每週教授時數		
	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期
幾何畫法	二	二	二	三	三	三	三	三	三
測量	二	二	二	三	三	三	三	三	三
地質學	二	二	二	三	三	三	三	三	三
機械工學	二	二	二	三	三	三	三	三	三
應用力學	二	二	二	三	三	三	三	三	三
建築材料	二	二	二	三	三	三	三	三	三
石工學	二	二	二	三	三	三	三	三	三
造路及鐵道	二	二	二	三	三	三	三	三	三
橋梁	二	二	二	三	三	三	三	三	三
河海工學	二	二	二	三	三	三	三	三	三
衛生工學	二	二	二	三	三	三	三	三	三
家屋構造	二	二	二	三	三	三	三	三	三
土木行政	二	二	二	三	三	三	三	三	三
實修、設計及製圖	二六	二五	二七	二二	二二	二二	二〇	二五	二二
兵式體操	二	二	二	二	二	二	二	二	二
計	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五

機械工學科

學科	第一學年每週教授時數			第二學年每週教授時數			第三學年每週教授時數		
	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期
倫理	四	四	四	三	三	三	二	二	二
英語	四	四	四	三	三	三	二	二	二
數學	五	五	五	三	三	三	二	二	二
物理學	四	四	四	三	三	三	二	二	二
幾何畫法	二	二	二	三	三	三	二	二	二
測量	二	二	二	三	三	三	二	二	二
電氣工學	二	二	二	三	三	三	二	二	二
應用力學	二	二	二	三	三	三	二	二	二
機械製作法	三	三	三	五	五	五	二	二	二
發動機	一	一	一	五	五	五	二	二	二
汽關車	一	一	一	五	五	五	二	二	二
船用機關	一	一	一	五	五	五	二	二	二
製造冶金學	一	一	一	五	五	五	二	二	二
家屋構造	一	一	一	五	五	五	二	二	二
特別講義	一	一	一	五	五	五	二	二	二
工業簿記	一	一	一	五	五	五	二	二	二

科目	第一學年每週教授時數	第二學年每週教授時數	第三學年每週教授時數
製圖實驗及實修	一四	一五	一六
兵式體操	二	二	二
計	三九	三九	三九

採鐵冶金學科

科目	第一學年每週教授時數			第二學年每週教授時數			第三學年每週教授時數		
	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期
倫理									
英語	四	四	四	三	三	三	二	二	二
數學	五	五	五						
物理學	四	四	四						
化學	五	五	五						
幾何畫法	二	二	二						
測量	二	一	二						
地質學	二	二	二						
機械工學				三	三	三			
電氣工學				三	三	三			
採鐵學				四	四	四			
撰錄學							二	二	二

科目	第一學年	第二學年	第三學年
冶金學			二
鐵冶金學			二
試金術		三	三
吹管分析		二	二
鐵山法律			二
分析實驗及製圖	一三	一四	一七
兵式體操	二	二	二
計	三九	三九	三九

備考 倫理ハ特ニ每週教授時數ヲ定メス適切ノ時期ニ於テ隨時之ヲ課スルモノトス

第四條 卒業生ニシテ既修ノ學科中特別ノ事項ニ就キ研究セントスルモノアルトキハ學校長ニ於テ必要ト認ムル場合ニ限リ二箇年以内在學セシムルコトヲ得

附則

第五條 本令ハ明治三十九年九月十一日ヨリ施行ス

第六條 本令施行ノ際現ニ第二學年以上ニ在學スル生徒ニ對シテハ其ノ卒業ニ至ルマテ仍從前ノ規定ニ依ル

○文部省令第十號

京都帝國大學文科大學ハ本年九月十一日ヨリ開設シ哲學科、史學科及文學科ヲ置ク

明治三十九年六月十一日

文部大臣 牧野伸顯

○文部省令第十一號

明治三十一年文部省令第二十號學校傳染病豫防及消毒方法中左ノ通改正ス

文部大臣 牧野伸顯

明治三十九年六月二十日

第十條第二號中「又ハ木灰汁ヲ削リ同第五號ヲ左ノ如ク改ム

前各號ノ消毒ニ適セサルモノハ「フオルムアルデヒド」ニ依リ消毒スルカ又ハ刷掃シテ數日間日光ニ曝スヘシ

第十一條第二號中「石灰乳ノ用法中「其分量」ノ下「五分ノ一」ヲ「四分ノ一」以上ニ改メ木灰ノ項ヲ削リ第三號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

四 「フオルムアルデヒド」

「フオルムアルデヒド」ニ依リ消毒スルニハ消毒函又ハ室内ノ容積百立方尺ニ付日本藥局方「フオルマリ」四十瓦以上ヲ噴霧スルカ又ハ適當ノ裝置ニ依リ「フオルムアルデヒド」瓦斯十五瓦以上ヲ發生セシメ同時ニ約百瓦以上ノ水ヲ蒸發セシムルノ比例ヲ以テ處置シタル後七時間以上密閉シ置クヘシ但シ消毒函又ハ室ハ使用前約十二時間寒冷ニ保持スルコトヲ要ス若シ室ニ縫隙アルトキハ昇液液中ニ浸漬セル綿ヲ以テ之ヲ栓塞スヘシ

〔參照〕

文部省令第二十號學校傳染病豫防及消毒方法(明治三十一年九月二十八日)抄録

第十條 學校ニ於テ第一類第一類又ハ第二類ノ傳染病發生シタルトキハ其屍體、排泄物又ハ病室ニ汚染シ若クハ汚染ノ疑アル物件ニ對シ左ノ區別ニ依リ消毒方法ヲ施行スヘシ但第一條第三類ノ傳染病發生シ其病況ニ依リ必要ト認ムルトキハ適當ノ消毒方法ヲ應用スヘシ

二 第一條第二類ノ傳染病患者ノ吐瀉物其他ノ排泄物ハ生石灰又ハ木灰汁ヲ以テ消毒シ強亞爾加里性反應ヲ呈スルニ至

ルヘシ
五 前各項ノ消毒ニ適セサルモノハ之ヲ刷掃シ數日間日光ニ曝スヘシ

第十一條 消毒ニ供スル藥劑其應用ハ左ノ如シ

二 生石灰末(生石灰ノ少量)水ヲ加ヒ攪拌シタルモノ

本品ヲ以テ吐瀉物其他ノ排泄物ヲ消毒スルニハ其分量ノ五十分ノ一ヲ用フヘシ又溝渠、芥道、林下等ヲ消毒スルニ用

石灰乳(十倍)生石灰一分ニ水九分ヲ

本品ノ應用ハ生石灰末ニ同シク吐瀉物、排泄物等ニハ其分量ノ五分ノ一ヲ用フ

木灰ハ生石灰ヲ得ルコト能ハサル場合ニ於テ成列刺病患者ノ吐瀉物、赤痢患者、腸管梅毒患者ノ排泄物ノ消毒ニ用フルコトヲ得其用蓋ハ吐瀉物、排泄物ノ五分ノ一トス灰汁トシテ使用スルニハ木灰一分ニ水四分ヲ加ヘ之ヲ煮沸シテ製スヘシ其用蓋ハ吐瀉物、排泄物ノ同容量トス但シ炭灰、灰灰ハ木灰ト同一ノ效ナシトス

○農商務省令第十八號

耕地整理及土地改良獎勵費規則左ノ通定ム

農商務大臣 松岡康毅

明治三十九年六月一日

耕地整理及土地改良獎勵費規則

第一條 耕地整理及土地改良事業ヲ獎勵スル爲農商務大臣ハ本則ノ定ムル所ニ依リ明治三十九年度ニ於テ補助金ヲ交付ス

第二條 補助金ハ明治三十九年度ニ於ケル耕地整理及土地改良ノ施行ニ關スル調査、設計及工事監督ニ要スル費用ニ對シ府縣ニ之ヲ交付ス

第三條 補助金ノ交付ヲ受ケムドスル府縣ハ申請書ニ左ノ書類ヲ添附シテ農商務大臣ニ差出スヘシ

- 一 明治三十九年度ニ於ケル調査、設計及工事監督施行豫定書
- 二 前號ニ要スル設備豫定書

三 費用豫算書

第四條 補助金ノ交付ヲ受クル府縣前條添附書類ニ記載シタル豫定又ハ豫算ヲ變更セムトスルトキハ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ場合ニ於テ費用額ヲ増加スルトキハ補助金ノ増加交付ヲ申請スルコトヲ得

第五條 補助金ノ交付ヲ受クル府縣ハ調査、設計及工事監督ノ實施ニ關スル規程ヲ設ケ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

第六條 補助金ノ交付ヲ受ケタル府縣ハ明治三十九年十月中及明治四十年四月中調査、設計及工事監督ノ成績ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ

第七條 農商務大臣必要ト認ムルトキハ補助金ノ交付ヲ受クル府縣ニ第三條ノ添附書類ニ記載シタル豫定ノ變更ヲ爲スヘキコトヲ命シ之ニ要スル費用ニ對シ補助金ノ増加交付ヲ爲スコトアルヘシ

第八條 補助金ノ交付ヲ受クル府縣第三條ノ添附書類ニ記載シタル調査、設計及工事監督ニ關スル施行豫定ヲ明治三十九年度内ニ終了シ得サルトキハ年度後ニ於テモ之ヲ繼續遂行スルノ義務アルモノトス

前項施行豫定ヲ終了シタルトキハ滯滞ナク其ノ成績ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ

第九條 農商務大臣必要ト認ムルトキハ府縣ノ施行ノ狀況及成績ニ付臨時報告ヲ徴シ又ハ實地検査ヲ爲サシムルコトヲ得

第十條 府縣ニ於テ負擔金額ヲ減少シタルトキ又ハ第四條若ハ第八條ニ違反シ又ハ第七條ノ命令ニ從ハサルトキハ農商務大臣ハ其ノ交付シタル補助金ノ全部又ハ一部ノ還付ヲ命スルコトヲ得

農商務大臣カ府縣ノ施行成績不良ナリト認ムルトキ亦同シ

附則

第十一條 本則ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○逓信省令第二十五號

電話規則左ノ通相定ム

明治三十九年六月四日

逓信大臣山縣伊三郎

電話規則

第一條 電話加入ヲ分テ左ノ三種トス

一 單獨加入 一加入ニ付一回線ヲ有スルモノ

二 共同線加入 二加入共同シテ一回線ヲ有スルモノ

三 連接加入 單獨加入ニ連接シテ一加入ヲナスモノ

第二條 電話加入區域ハ普通加入區域及特別加入區域ノ二種トシ其ノ加入區域ハ別ニ之ヲ定ム

第三條 共同線加入ノ電話機設置場所ハ相手方タル共同線加入ノ線路ヨリ直徑二町以内ノ場所タルヘシ

連接加入ノ電話機設置場所ハ其ノ連接ヲ爲スヘキ單獨加入(以下單ニ本)ノ電話機設置場所ヨリ直徑二町以内ノ場所タルヘシ

特別ノ事情アル場合ハ前二項ノ制限ヲ超ユルコトヲ得

第四條 電話加入ハ二人以上合同シテ一加入ヲ爲スコトヲ得ス

連接加入ハ單獨加入一箇ニ付一箇ヲ限リ連接スルモノトス